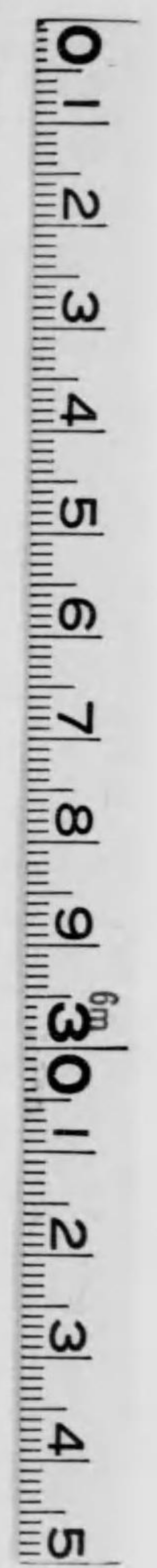


東村山郡史 卷之四

11
5
306



始



東村山郡史

卷之四 目次

光格天皇

寛政元年紀元二千四百四十九年

正月	幕府村惣代ノ年限ヲ定ム、	一
同月	柴橋代官所各村貯米ヲ分限者ニ保管セシム、	一
二月	柴橋役所令シテ諸川堤防ニ植樹セシム、	三
同月	柴橋役所五穀豊熟萬民安堵ヲ各寺社ニ祈禱セシム、	四
同月	幕府諸物價調節ノ令ヲ頒ツ、	五
三月	幕府奢侈品ノ製造賣買ヲ禁ス、	六
七月	幕府隱賣女ヲ禁止ス、	七
十二月	長瀨代官農家ノ奢侈ヲ矯正ス、	八
同	二年 <small>紀元二千四百五十年</small>	
二月	平岡主水代官ニ任ス、	八
三月	長瀨役所寺院宗門規程凡例ヲ頒ツ、	八
同月	下荻野戸村五人組請狀ヲ申達ス、	一〇

大正
8.12.27
内交

十二月 村山郡諸領諸役夫ノ雇賃以下ヲ協定ス、……………一五

同 三年 紀元二千四百五十二年

三月 柏倉代官廣瀬伊八郎、村吏心得方ヲ頒布ス、……………一六

同 月 土屋氏土浦分領ノ陣屋ヲ、北目村ニ設置ス、……………二一

同 月 長瀬役所、御城米以下ノ事ヲ通達ス、……………二三

九月 風雨洪水、……………三三

十月 奈良澤村名主、保管書類ノ覺書ヲ呈出ス、……………三四

某 月 柏倉代官廣瀬伊八郎、家訓ヲ草シ領民ニ教示ス、……………三六

同 四年 紀元二千四百五十二年

九月 代官池田仙九郎、山野邊村玉虫溜井ニ碑ヲ建ツ、……………三七

同 五年 紀元二千四百五十三年

正月 代官池田仙九郎、大蔵村七郎左衛門父子ノ奇特ヲ具申ス、……………三八

四月 代官鈴木喜左衛門、貢米ヲ江戸ニ廻漕ス、……………四五

同 六年 紀元二千四百五十四年

正月 柏倉代官瀧小右衛門、農民ヲ戒飾ス、……………五七

十二月 柏倉領代官、管内ニ必須覺書ヲ頒ツ、……………六五

同 八年 紀元二千四百五十五年

正月 柏倉領代官、鄉村ニ訓諭ス、……………六六

同 十年 紀元二千四百五十七年

三月 幕府、人民ノ結黨訴願ノ事ヲ禁ス、……………七一

同 月 藏増村名主、堤防工事ヲ請願ス、……………七二

同 十二年 紀元二千四百五十九年

三月 幕府、新田開墾以下ノ事ヲ令ス、……………七四

七月 代官平岡彦兵衛罷メ、大岡久之亟之ニ代ル、……………七四

享和元年 紀元二千四百六十一年

六月 村山郡暴民蜂起ス、……………七四

七月 暴徒等、若松本壽院ヲ濫防ス、……………九一

同 月 上杉治廣、郡奉行片山一興ヲ漆山ニ派シテ、其所管地ヲ鎮セシム、……………一〇六

同 月 幕府、農商ノ苗字帶刀ヲ禁ス、……………一〇七

同 月 寒河江左澤兩代官等相議シ、物價ヲ低下セシム、……………一〇八

十月 幕府吏ヲ遣派シ、暴徒ヲ裁決セシム、……………一〇九

同 二年 紀元二千四百六十二年

- 四月 幕府、村山郡暴徒首領ヲ處分ス、……………一四〇
- 九月 江俣村議定書ヲ調定ス、……………一三〇
- 十二月 幕府、酒造米高ノ役米ヲ徴ス、……………一三一
- 同 三年 紀元二千四
百六十三年
- 六月 幕府、郡村名假名附簿ヲ徴收ス、……………一三二
- 文化元年 紀元二千四
百六十四年
- 八月 矢野目村堰水、訴訟添翰ヲ代官ニ請願ス、……………一三六
- 十一月 代官大岡久之亟轉任、○川崎平右衛門代官ニ任ス、……………一四〇
- 同 二年 紀元二千四
百六十五年
- 三月 松平信愛卒ス、○養子信行襲ク、……………一四一
- 同 月 藏増村、最上川破損所修理檢分ヲ請願ス、……………一四一
- 十一月 山寺村ト立石寺ト、山林境界諍論ヲ和解ス、……………一四二
- 同 三年 紀元二千四
百六十六年
- 四月 幕府、通用錢密鑄者ヲ嚴探セシム、……………一四八
- 某 月 寒河江川洪水、……………一四八
- 同 四年 紀元二千四
百六十七年

- 六月 幕府諸侯ニ命ジ、魯西亞船ニ警備セシム、……………一四九
- 八月 飯塚村ト村木澤畑谷村ト、入會虚空藏山ノ境界ヲ論諍ス、……………一四九
- 同 五年 紀元二千四
百六十八年
- 五月 江俣村協議書ヲ協定ス、……………一五七
- 九月 若松寺規約ヲ議定ス、……………一五九
- 同 六年 紀元二千四
百六十九年
- 正月 金勝寺僧慧元萱ヲ柏倉村以下ニ請求ス、……………一六二
- 同 七年 紀元二千四
百七十一年
- 七月 秋元永朝卒ス、○男久朝嗣ク、……………一六四
- 同 十年 紀元二千四
百七十四年
- 五月 矢野目村名主仁右衛門、下原町村松木清水用水ノ事ヲ訴フ、……………一六五
- 同 十二年 紀元二千四
百七十五年
- 二月 堀田領各村、名主立換ニ關スル請狀ヲ具申ス、……………一八〇
- 仁孝天皇
- 同 十四年 紀元二千四
百七十七年
- 三 月 光格天皇讓位、……………一八一

- 九月 半郷村安養寺、立石寺領内宿泊ノ許可ヲ請フ、……………一八一
- 文政元年紀元二千七百七十八年
- 某月 江俣村名主等、米穀ノ救助ヲ柏倉役所ニ請願ス、……………一八二
- 十一月 織田信浮卒ス、○男信美嗣ク、……………一八三
- 同 二年紀元二千七百七十九年
- 二月 奈良澤村正徳寺、同村長龍寺檀下寺拂ノ、相對規約ヲ定ム、……………一八四
- 閏四月 山形城市火災、……………一八五
- 七月 幕府、米穀製ノ諸物價ヲ低減セシム、……………一八五
- 同 三年紀元二千八百八十年
- 二月 柏倉役所、船町村孫市ニ取締方ヲ命ス、……………一八六
- 八月 上萩野戸村、村中規約ヲ定ム、……………一八七
- 十一月 青柳村ト長町村ト、地域ヲ論議ス、……………一八八
- 同 四年紀元二千八百八十一年
- 二月 奈良澤村長龍寺喚龍、火葬場ノ事由ヲ注記ス、……………一九二
- 同 五年紀元二千八百八十二年
- 九月 上杉齊定、狐越ノ間道運送ヲ禁止ス、……………一九三

- 十二月 萩野中山荒砥兩村ノ荷主等、禁ヲ冒シテ築澤村間道ヲ運送ス、……………一九三
- 同 六年紀元二千八百八十三年
- 正月 船町村孫市、苗字帶刀ヲ許サル、……………一九八
- 十一月 阿部正權、山野邊村ニ陣屋ヲ創設ス、……………一九九
- 同 七年紀元二千八百八十四年
- 八月 大雨洪水馬見ヶ崎堤防破壊ス、……………二〇一
- 同 月 藏増村山寺村等、水害狀況ヲ具申ス、……………二〇五
- 同 八年紀元二千八百八十五年
- 十月 堀田左源次、諸川國役普請金ヲ徵集ス、……………二一三
- 十一月 村山郡公私領協議シ、米穀ノ糶賣ヲ禁止ス、……………二一六
- 同 九年紀元二千八百八十六年
- 四月 七浦澁江兩村名主等、青柳村ト長町村トノ地域論議ヲ和解ス、……………二二一
- 同 十年紀元二千八百八十七年
- 正月 堀田左源次吏ヲ派シ、領内郷村ヲ巡廻セシム、……………二二九
- 同 十一年紀元二千八百八十八年
- 十月 畑谷村ニ口留所ヲ置キ、人馬役ヲ免除ス、……………二三一

天保元年 紀元二千四
百九十年

閏三月 織田信美、天童城ヲ經始ス、……………二二二

五月 大雨洪水、……………二二三

同 二年 紀元二千四
百九十一年

八月 織田信美、天童城ニ移徙ス、……………二二三

同 四年 紀元二千四
百九十三年

六月 諸川洪水、……………二二七

八月 堀田正愛、暴徒蜂起ニ備フ、……………二二七

九月 江俣村、田作窃盜ニ警戒ス、……………二三八

十月 奥羽凶作、餓死者多シ、……………二二九

同 月 公私領各村、凶賊規約ヲ協定ス、……………二四一

同 五年 紀元二千四
百九十四年

正月 山寺村、青年者規約ヲ議ス、……………二四五

某 月 池田岩之亟代官ニ任ス、……………二四六

九月 船町村、松平信實ノ手船製造ニ反對ス、……………二四六

十一年 堀田正睦、村吏心得規則ヲ頒布ス、……………二五〇

同 六年 紀元二千四
百九十五年

三月 堀田正睦、五人組證文ヲ徵集ス、……………二五三

六月 江俣村、戸數賦課ノ更改ヲ訴願ス、……………二六五

十一月 堀田正睦、勸農節儉ノ令ヲ布達ス、……………二六五

同 七年 紀元二千四
百九十六年

四月 北目村、田租定免法ノ繼續ヲ請願ス、……………二七〇

八月 織田信美卒ス、○男信學嗣ク、……………二七一

十月 公私領名主等、凶荒ニ關スル規約ヲ協定ス、……………二七一

東村山郡史 卷之四終

東村山郡史 卷之四

光格天皇寛政元年己酉正月、幕府、料所内村總代ノ年限ヲ、一ケ年ト定メシム。

〔探訪史料〕

申渡

一諸國御料所村々之内、所々拾ケ村又は貳拾ケ村之惣代ト申者を差出、村々より申立候儀も、何事ニよらず右惣代を以て申出、御代官所御預り所申渡候儀も、右惣代より村々江申達し、都而辨利之由には候へ共、此輩之内にては民間之腰押致、或は不熟石代願等も取扱、又は村々より相願候筋も、不應其意ニ儀は差押不申立、是等之事ニ付ては品々之姦計有之由、粗相聞甚以て不可然事ニ候、畢竟年久しく惣代相勤むる事、馴るゝ右体者不宜事共も有之哉ニ候間、以來誰を惣代ニ致度もの儀、其の村々連印を以て願之上惣代申付、壹ケ年を限り引替候様取斗、尤も名前度々御勘定所へ可被差届候、右は今般御沙汰も有之事ニ付、申渡候條得其意無忘可取計候。

酉正月、

同年同月、柴橋代官所令シテ、各村貯夫食米ヲ、村々分限者ニ保管セシム。

〔全上〕

申渡。

一先達而申渡候村々貯夫食之儀、去申年より預ケ申付、追々取集候分は、身元宜百姓共之内江預置候様被申立候、右は以來年々取集其村々夫食勘定致候へは、假令後年凶作之節も飢饉ニ逢而、夫食之備ニ相成候故、此品を申散らし小民も難有御趣意之品を吞込、〇〇〇〇^不〇〇^明出穀之儀出情も可致事ニ候、右親類身元宜敷者共へ預ケ候義、村役人其外重立候もの共は、右之趣得と吞込居候、可申事故心得違も無之、等閑之取扱も有之間敷哉ニ候得共、愚昧之小前ニおゐては、都て疑心を生し出穀之際にも可相成哉ニ付、御代官所御預所限り可成丈組合を相定、郷藏壹貳ケ所又は二三ヶ所相建、村役人并ニ身元宜敷百姓共江預置候儀相止、村々々出穀之度々、直ニ右郷藏へ納人持參爲致、村役人御代官手代、又は御預所役人立會相改封印附置、尤も取集穀小前帳仕立置、出穀之分納之度々右之員數記し置、又は立會見届ケ印形致置、御代官并ニ御預り所重役之ものを、檢見之節右帳面へ引合見分いたし、百姓共出穀之分は、聊にても不取ベニ不相成、後年凶作之備ニ相成候趣、知らしめ候は、自村々百姓共も差はまり出情可致ニ付、致勘辨可取計候。

一右は貯夫食村々出穀之内江、三ヶ年之内公儀も、御下穀有之候様被仰渡候間、其旨村々江被申渡、厚キ御仁惠之程難有奉存、彌出穀之義出情致候様可申渡候。

一國々之内相續き候損毛にて、場所ニより至て困窮ニ及び、手餘荒地等多く、當然夫食にも差支出穀難儀致候場所も可有之、右休之場所は尙又貯夫食有之致事ニ付、左様成場所は得と吟味致し、實ニ困窮差廻候場所は可被申立候、公儀も御差加之分、先は下穀可有之事。

一前條郷藏相建候入用之儀は、御林木可被下候ニ付、釘鐵物大工人足等之儀は、村役郡中割之積可被申渡候。

右之趣追々御沙汰も有之候ニ付、伺之上申渡候間、被得其意不洩様村々江申渡、郷藏相建候場所等之儀も、早々可申立候。

酉正月。

同年二月、柴橋役所令シテ、諸川堤防從來竹木叢生地ノ外、河身ニ面シ柳或ハ小笹ヲ移植セシム。

〔全上〕

一川々堤之儀、竹木葭草之生立有之、防方宜敷場所は格別、左もなき所は川表之方江、水際と中段とへ二重ニ柳植候共、又は差木成共いたし、其間々江小笹を植え、柳は年々苜取株々枝多出候様手入致し、株より若枝多く出候様相成候は、後々は水際と中段とを隔年ニ苜取可申候、堤外法之儀も立木有之候ても、害ニ不相成候場所は、豹尾樺犬山椒毒在はんの木之類、助ニ成候品植付可申候、右之木共笹の根ニべられ、痛にも成不申候は、堤外法江も小笹を植候様可致候、右は堤の土情ニもより、又は水流之寛急にも寄、一様には有之間敷候へとも、右之通相成候へは、堤保方は勿論、末々村之助にも成事ニ付、土地柄に應し勘辨致し、村々之者へ得と申教候様可被致候、尤も定掛場有之候分ハ、其掛りよて取計候共、又は支配所限り御代官にて取

計候共、申合差支ニ不相成、辨利宜敷可取計候、此段御沙汰も有之へく事ニ付、申渡候條可得其意候。

右之通嚴重被仰出候間、可得其意候。

酉二月、

柴橋御役所。

同年同月、柴橋役所朱印地寺社ニ、五穀豊熟萬民安堵ヲ祈禱シ、又淺間山噴火奥羽餓死者以下ノ爲ニ、施餓鬼會ヲ修行セシム。

〔全上〕

諸國、

御朱印之於寺社、五穀豊熟萬民安穩之義、一統可遂祈禱候、尤も守札護符様之品、施行候義勝手次第ニ可致旨被 仰出候、并ニ先年淺間山燒、奥羽飢饉疫癘、且關東出水京都火災等ニ付、下々死亡致候所不少旨相聞候ニ付、最寄之於寺院は、此度施餓鬼修行可致旨被 仰出候、私領等にも是に類し候義有之候ハ、右之心得を以て申付有之、可然義ニ候間向々早々寄々可被 達候、以上。

右之通被 仰出候間、得其意村々寺院へ相達、祈禱施餓鬼等修行致候ハ、村名寺院名前相認め、其旨御役所へ可申出候、此廻狀村下致印形早々留村へ可相返者也。

酉二月朔日、

柴橋御役所。

同年同月、幕府、諸物價調節ノ令ヲ頒布ス。

〔全上〕

近年諸色高直ニて一統難義之事ニ候、右去卯年不作相續米直段高直ニ候故、米穀を以て造出候類は勿論之義、其余諸色共米穀を以て元して、相場相立候事ニ候得は、諸色米直ニ準じ高下有之儀は、無余儀事ニ候處、未年より追々作方宜しく、去年去々年米直段之格別下直ニ成候得共、諸色之直段其の儘ニ而不引下致商買、亦は其の品ニより出來不出來ニ隨ひ、高直之高下も可有之品等、出來方宜節も其の儘直段不引下類、必竟多分利徳を心懸ケ候故之儀にて不埒之事ニ候、都而諸色仕出し候其元直段よりして下直ニ相成、問屋仲買夫々之商買方も賣等之不埒無之、相應之利徳を以て賣捌候事ニ候得は、一躰互々に此心得無之候てハ、米價ニ準し格別引下候事にも不相成候、道理ニ候、一統ニ引下賣買致候へハ、所徳も同様ニあたり、一統之泥ニ相成候義ニ候間、商買方之者共、此義厚く相心得可申候、依之其の出來方も相應なる品は、去卯年ハ米價高直最上之節之相場を引當、夫より米價引下候ニ隨ひ、諸色之直段も引下候様仕入元を始め、問屋仲買等夫々商買方之者共、江急度可申付候、右之通申付候上にも、尙ほ不埒之趣候ハ、其筋ニ令詮儀曲事ニ可申付候、此之趣國々所々江茂相觸候間、諸色仕入元直段等引下不申、或は買等之不埒相聞候ハ、其手前商人共ハ仲間事たりとも可訴出候、尤も訴出候者難儀不相成様致遣し、其品々賞美もあるべき候、不訴出其の儘捨置候ハ、是又曲事たるべき候。

戌二月、

右之通可被相觸候、

右之通御書付出候間寫し遣し候、可被得其意候、以上、

二月廿四日、

曲 甲斐守、

久 佐渡守、

根 肥前守、

久 丹後守、

柳 主膳正、

同年三月、幕府、奢侈華麗ノ物品ヲ製造、及ビ賣買スルコトヲ禁ズ、

〔探訪史料〕

覺、

- 一 不益之手間懸候高直之菓子類、向後無用候、是迄拵來候とも相止可申事、
- 一 火事羽織頭巾結構之品可致無用、并町方火事場まとい、銅箔之外用間敷候、
- 一 能裝束、甚結構成も相見候間、向後輕く可致候、并女之着類も、大造之織物縫物無用可致事、
- 一 はま弓菖蒲甲、刀、はこ板之類、金銀并箔用申間敷事、
- 一 難井もてあそひ人形之類、八寸以上可爲無用候、右以下之分は、龜末之金入とんも之類、裝束は、不苦候事、
- 一 難道具梨子地は勿論、蒔繪ニ候共、紋所之外無用之事、
- 一 櫛かうかひ、髪さし等に、金は決して不相成候、銀籠甲も大造に無之は不苦候、并目立候飾細工入

候、高直之品は賣買堅停止之事、

一 きせる其外もてあそひ、同前之品に金銀遣ひ申間敷候事、

右之條々急度可相守候、總而奢たる品々拵申間敷候、元祿年中觸之趣、尙又此度改而右之通被仰出候、尤只今迄商人仕入候分は、當年限り賣買致し來成年よりは、書面之通賣買停止たるべく候、停止之品自今差あつらひ候もの有之候は、奉行所江相窺指圖を可受旨、町方へも相觸候條可被得其意候、

酉三月、

同年七月、幕府、鄉村隱密ニ賣女子畜ヒ、風ヲ破リ俗ヲ害スル多大ナルヲ以テ、令シテ之ヲ禁止ス、

〔全上〕

都而在方ニ有之賣女古來御免、又者年久敷領主承届置候者格別、隱賣女者堅ク差置申間敷所、近來猥ニ相成、所々賣女体之者差置候段相聞候、右ニ付をのつら村方風俗も不宜、農事怠り候間、近郷迄衰微ニ及離散之者も立入候儀ニ候間、自今隱賣女一切差置申間敷候、若隱置外より相顯候は、其所役人共迄詮議之上、急度御仕置可被仰付、此旨御料者其所之奉行、御代官私領者領主地頭より、寺社領迄不洩様嚴敷可被申付候、領主御代官等ニ而も無油斷心附、此上若隱置候者有之候者、早速召捕可被申付候、尤新規ニ賣女商賣体之儀承届不申、古來より有來候分も、成丈減候様可被取計候、

七月、

八

同年十二月、長瀨代官藤本甚助令シテ、農家ノ奢侈ヲ矯正ス。

〔上萩野戸村文書〕

申渡。

百姓之儀は、魚服を着し、髪を藁を以てつかね候事、古來之風儀ニ候處、近來いつともなく奢に長じ、身分之程を忘れ、不相應之品着用等いたし候者も有之、髪は元結油狹用ひ、其の外雨具は蓑笠のみを用居候事ニ候處、當時は傘合羽を用ひ、右に隨ひ候ては次第ニ費之入用多相成候間、村柄も衰ひ離散致候様成行、壹人離散いたし候得は、右之もの御年貢返納物等辨納ニ相成、村方難儀も相重事ニ候、右之示し手本之爲め、御代官手代衣服之儀も、嚴敷申渡候事ニ候、手代も右之通ニ候上は、百姓共は猶更少したりとも奢候事無之、右代之儀忘却致間敷候、百姓にて餘業の商ひ等いたし候類、又は髪結床ケ間敷儀相改め、隨分質素いたし、農業相勵み可申候、右之趣、村々小村之もの迄も行届、自然と教諭、歷百姓の風俗相改候様ニ、厚く可申含候、

申十二月。

同二年庚戌二月、平岡主水代官ニ任ス、後彦兵衛ト改ム。

同年三月、幕府料長瀨役所、公私領寺院宗門規程凡例ヲ頒布ス。

〔寛政御觸書〕

凡例。

- 一 六十餘州之寺院大小之寺格席順ニ不拘、一國々一郡々一村々之向寄ニ書立、其の國其の所の檀林録所掛所本寺觸頭等、其宗旨ノ一にて集メ易き方にて取集可申事。
- 一 法用にて本寺録所等居合候共、寺持之分は大小ニ不拘、師匠寺にて書出不及、其の寺々書出可申事。
- 但 寺中之寺院坊中等は、其の本寺ニ屬し認出可申事。
- 一 他參遍參等にて酉年師匠寺ニ不居合候共、寺格ニ無之分は師匠寺に認出し、其先々居合候共、其寺の弟子ニ無之分は、認出申間敷候事。
- 但 宥寺宥庵等は、寺持ニ準し認出可申事。
- 一 申年極月ニ遷化候共、書出人別ニ加不及、酉年極月ニ弟子取り出家ニ致し候共、人別加へ認出可申事。
- 一 道心者比丘尼庵主迄、三衣着し候者は認出可申事。
- 但 寺院不居俗家隱居比丘尼等は、師匠寺より認出ニ不及候事。
- 右之通取調美濃紙堅帳ニ相認、貳通ツ、差出候様ニ、諸宗本寺觸頭へ申渡置候間、諸國御料私領共ニ、其の向々の本寺觸頭より、其の末寺配下之寺院、觸達いたし取集筈ニ候得共、諸國之儀早速末々迄行届候儀も無覺束段、本寺觸頭へ申達候間、御料は御代官私領は領主地頭も、右之趣觸達有之候様申渡候事。
- 別紙之通り被仰渡候間、其の村々の内大小不拘、寺院并道心者比丘尼庵主等迄、三衣着候者江は不洩様申達、本寺觸頭へ書出候様可取計事。

九

但、御役所江も村役人ハ不洩様別紙之趣にて可書出事。

一右之外諸宗共、本寺觸頭無之無本寺之分斗り、左之案文之通り御役所へ來ル廿日迄不洩様可書出候。

一生國何國、

何國何郡、何寺某、西何十何歳、

一同斷、

何寺地中、

何寺妻子某、同斷、

一同斷、

當寺通參、

何寺弟子某、同斷、

何人、

右之趣相心得此廻狀早々順達、留村より可相返者也。

成三月十五日、

長瀬、

御役所、

同年同月、下萩野戸村五人組請狀ヲ、長瀬役所ニ申達ス、

〔下萩野戸村文書〕

條々、

一前々從 公儀被 仰出候御條目、當時被 仰出候御法度之趣、村中大小之百姓下々ニ至迄、彌堅可相守事。

一五人組之儀町場者家並、在郷は最寄次第家五軒宛組合、子共并ニ下人店借り借地者ニ至迄、惡事不仕様ニ組中常々無油斷可令詮議、若平生行跡不宜者有之、庄屋之申付をも不用候は、可

訴出事、

一切支丹ころひのもの、并類族有之分者、別帳ニ記之可差出候、若他所縁組等にて當村江右之類族來候は、早速可致注進事。

一毎年宗門帳之儀、三月迄之内ニ可差出候、若シ御法度之宗門有之者、早速可申出候、切支丹宗門之義、御高札之趣、宗門帳之通人別入念可相改、宗門帳相改相濟候後、召抱候下人等寺請狀別紙可取置事。

一父母ニ孝行夫婦兄弟むつまじく可仕候、親類と不和にて異見等も不用、不孝不義之輩有之者、名主組頭五人組遂吟味可申出事。

一惣而家業を第一ニ相勤、百姓ニ似合さる遊藝を好、或は悪心を以て公事を好、致非公事を進め、偽工ミ、人之言をなま輩あらば、不隱置可申出、不依何事誓紙を書、一味同心いたし、徒黨かましき義不可仕事。

一諸作第一能種を撰候て、蒔付耕作江可入念、荒作之様ニ致候者有之は、急度可令詮議、獨身之百姓長頼ひ、又は幼少にて親ニ離れ、耕作仕付難成者有之は、名主組頭立會村中ニ而助合、田畑不荒様ニ可仕事。

附地所不相應ニ田畑諸作地勢劣、耕作ニ不情なるもの有之は、吟味致し異見を加へ、其上得心不致候は、可申出事。

一常々耕作并商賣等も不致、家職之稼無之者村中ニ有之は、遂吟味其の趣可訴出事。

一田畑屋敷山林等、永代ニ賣買御停止ニ候、若質物ニ差入候は、拾ヶ年限り證文名主組頭五人

組加判可爲致、田畑を質物ニ入直質ニ置作仕御年貢も、質置主の上納致候儀不可仕候事。

附質地田畑屋敷、并山林等及出入候節、年季明早速訴出候分者可遂裁許、期月迄年月を経候分は不及沙汰候、證文年季之限り無之、金子有合次第本物返し、可請返者有之質地は、質取主より返り證文置主方へ可取置事、置主名主ニ候は、相名主か組頭加判無之候は、無取上事。

一 百姓衣類之儀、布木綿之外結搦なるもの不可着之、編子綾縮緬之類襟帶ニも致間敷候、然共身体宜敷者役所迄斷を立、差圖を請け縮緬可着事。

附男女共乗物ニ不可乗、惣て家作目立候普請、奢ケ間敷儀仕間敷候事。

一 用水掛引先規之以例常々申合置、濁水之節爭論無之様ニ可仕候、水論境論等之場所へ、刀脇差弓鐵砲鍵長刀等、持參候而令荷せ者有之は、其科本人より可重事。

一 村中寄合番屋作番人附置、家別銘々火消道具拵置、火之用心随分入念、風はけしき時分は不限盡夜ニ、町場は町中村方は村中名主組頭も相廻り、自身番仕出火無之様ニ可仕候、若出火有之者鳴立、村中之者共馳集情出し可火消、勿論御年貢米入置候郷藏大切ニ圍可申事。

附每度灰小屋を出火いたし候間、灰小屋江灰入候時、水ニ而えめし入念小屋ニ入可申候。

一 堤川除不切様ニ常々心掛、満水之時分は村中之者出會可圍之、道橋等損候而往還之障ニ成候か、田地損亡可成所、惣て小破之時早速可修覆、及大破實ニ自普請難成時に相願、請取場之道橋者、常々無油斷作可申事。

一 村順廻文不限晝夜先々江相届、手形取置可申事。

一 博奕惣而賭諸勝負、或は百人講と名付、或は商ニ事寄博奕に爲似義、何にても一切不可仕之、若違背之輩有之か、又は右之宿等いたし候もの有之は、早速可訴出事。

一 百姓ニ不似合風俗、長脇差帶刀喧嘩口論を好、或は大酒を吞致醉狂、行跡惡敷者有之は可訴事、惣て御代官所之百姓公事訴訟等、不依何事江戸江出候義、役所江不相届候而罷登候は、逗留中宿拂等之請入用、不殘罷出候者之自分入用ニ申付候間、村中掛割合一切爲致間敷候、若シ右之旨違背之族有之は可爲曲事。

一 御年貢金等日限相觸候は、日限無遲滯早速役所へ可致持參候、若及遲滯候者吟味之上、急度過怠可申付事。

附御年貢金相納候度々、金請取通可遣候間、皆濟之節村々勘定目錄指出可引替事。

一 御年貢米納之義は名主組頭立會、青米碎米粃糠等無之様ニ随分致吟味、升目不切様ニ俵入可入念事。

一 俵拵之義ニ重宛小口か、下、表印摺繩ニて横繩三所もしり目繩結、舟積之節一俵宛菰にて包所致、繩結俵不損様ニ役所江達可致差圖、我等御代官所何國何郡何村、米何斗入年号月日書付、名主組頭米主米見升取之名書記致連判、表毎ニ可入之外札は竹札にて何之年御納米、我等御代官所何國何郡何村米主誰と、可書印札裏表貢目可記事。

一 御城米何方之御藏納ニ成候共、舟ニ上乘を慥成者村中致吟味可遣之、尤も他所之者爲請負渡し切ニ仕間敷候、御藏米欠米其外損米等有之者、郷として急度不足之分相納可申候、且又御藏前入用并船中入用等、多不入様ニ申付、委細爲記帳面入用可渡事。

附納名主上乘江戸京大坂逗留中、物入多無之様ニ可吟味事。

一 公用之儀又は村中申合等之儀付、名主方江百姓寄候節、村入用掛之食物酒肴等、一切給申間敷候事。

一 我等并手代村々江相廻り候節は、何時にても晝食は爲持候、飯米鹽味噌野菜等所々にて、相場直段にて調候間、當座代物可請取之、泊休御勘定之木賃出之、上下共百姓之馳走ニ不罷成、村々にて費無之様急度申付、參酒肴等此方より差圖無之もの、何にても調置申間敷候、若調置此方ニ不用候ニ付、寄合飯喰村入用ニ割掛候は、名主組頭可爲曲事。

一 無差圖人馬集置、百姓之障を費申間敷事。

一 村中中之夫錢掛物小入用等之義、隨分名主組頭途吟味、入用多無之様ニ可入念、惣て村中入用當座ニ委細帳面ニ記立、會候者茂印形可仕候、此外別帳面作置間敷候、若帳面之外名主組頭、掛物割掛候者可爲曲事、毎年翌正月中前々村入用帳寫候て相濟可差出、遂一覽寫帳江留置、本帳は名主江可相返候間、年々之帳面紛失無之様大切ニ可致置事。

一 五人組宗門帳江押候外、印形拵置申間敷候、若子細候て印形替候は、名主組頭は役所江可相届、小百姓は組頭へ可斷、名を改候は、早速致斷、五人組帳宗門帳にも、改め候名を可記事。

右之條々堅く可相守、若違背之輩於有之は、可爲曲事、此帳毎年正月五月九月十一月壹ヶ年ニ四度宛、村中大小之百姓寄合儘ニ爲讀聞、常々此之趣合點仕罷在候様ニ入念申付者也。

前書之御箇條之趣、村中大小之百姓五人組、壹人も除き候者無御座候、一々奉拜見候、則御ヶ條名主方江寫置被、仰渡候趣、爲讀聞一ヶ條宛致合點急度相守可申候、若此旨相背候は、如何

之曲事にも可被、仰付候、爲其連印仕差上申候、以上。

出羽國村山郡下萩野戸村、

寛政貳年

成三月、

名主	小四郎
組頭	長四郎
全	清助
百姓代	作兵衛
	惣百姓

鈴木喜左衛門様、

長辨、

御役所、

同年十二月、村山郡御料私領等協議シテ、大工以下諸役夫ノ雇賃、並ニ下人休日等ヲ一定シ、之ヲ各村ニ頒布遵奉セシム。

〔史料雜集〕

今般村山郡御料御私領一統觸渡之趣、

一大工日備、金壹歩ニ十一日、

一屋根葺日備、金壹歩ニ十二日、

並人足雇かけはなし百文ツ、

但作立の秋中迄

一下人休日、壹ヶ月二三日限

但村山郡一統、是迄月々過分之休日有之由、於御上ニ被爲及御聞、都而關東邊其外國々、休日と申儀は會而無之處、神事祭禮其外所謂なき申立ニ而過分之休日致候段、不埒ニ被爲思召候間、已來休日は不相成候、然れ共是迄下人等休日ニ、自分耕作致來候由、皆止ニ相成候而は、給金ニ相拘候儀候ハ、其主人江相對之上、節句并神事祭禮等ニ不拘、月々三日限暇遣可申旨被 仰出候。

右之通御料私領一統觸渡、區々不相成様致度之段、御料所五ヶ分申來候、依之各扱下一統不洩様可被相觸候。

戌十二月

次郎兵衛

町里兩五百川

大庄屋中

同三年辛亥三月、柏倉代官廣瀨伊八郎、村吏心得條項ヲ頒布ス。

〔採訪史料〕

村役人勤方心得之事

一御年貢納方之儀、其時々日限無遲滯取立、米金共納方無滯可致事ニ候、然處村方ニ寄御役所ハ、觸出候金高ハ余斗ニ小前割致シ、小前之内不納有之候而茂、其分ニ差置候、村方茂有之趣ニ相

聞候、畢竟夫故小前之者共茂面々ニ了簡致シ、内端ニ扣候而相納候様成行以之外、不宜事ニ候、村役人は正直正路ニ相勤、少茂ウそ偽ケ間鋪儀不致、御役所ハ之割賦通小前割いたし、御役所江五日ニ上納致候ハ、小前取立は二日三日兩日ニ茂不殘取立、四日ニは右取立金取調、五日ニ上納致候様取斗候得は、上納日限致遲滯候儀無之候、若又右日限相背候小前有之ハ、村役人急度途吟味、其上ニ茂不埒之者は御役所江申出、其時々割賦通急度可取立事ニ候。

一村々ハ定式差出候、宗門帳、夫錢帳、内見帳、馬形錢立馬役等之類は、兼而前廣ニ心掛置、其節ニ至リ無差滯可差出事ニ候、其外御役所より日限致申觸候儀共、日限通無遲滯様可心懸候、是迄度々申聞候得共、今以御役所江罷出候村役人、印形茂持參不致罷出候、茂有之、或者御年貢納ニ罷出候ニ、受取通持參不致茂有之、畢竟は村役人勤方等閑ニ、相心得罷在候故之儀、與相聞候物を叮嚀ニ致候得は、却而隙費茂無之候處、等閑ニ致候故、一度罷出相濟候御用向茂、二度茂三度も罷出候様相成候、且又通例多分朝ハ晝迄之内、御役所江可罷出者與可相心得候、夫共ニ變事有之節は格別之事ニ付、晝夜之差別は無之候。

一村役人は其村百姓を支配致候ものニ付、何事ニよらず小前之相談等江は、決而加リ申聞敷事ニ候、何そ小前之者共願筋有之節は、名主組頭立會相糺、其節合相立取斗可申候、若又小前之者共難立儀を、強而相願候ハ、其段御役所江可申出候、又筋合相立候願ニ候ハ、早速致與印召連可罷出候、且又公事出入等差起、村役人江願出候ハ、双方相糺其筋合を以、申分無之様取斗可申事ニ候、其上ニ而も不相濟、訴訟方筋合相立候儀ニ様ハ、與印致御役所江召連可罷出候、何事ニ不寄筋立候願筋、村役人早々與印可致事ニ候、依怙最負を以與印差滯候儀、尤有之間鋪

事ニ候都而小前願筋役元ニ而相糺候節は、組合爲立會可相糺事ニ候、役人たるへきもの、親類縁者より共少し茂依怙最負なく、理非正道ニ取捌可致事ニ候、然處或は依怙最負致、あるへ小前大勢ニ恐れ、村役人荷擔致候様成儀、間々有之哉ニ相聞、以之外不埒之至リニ候、畢竟自分之勤筋不相辨、小前之百姓を支配之者與申儀茂不存、小前ニもよれ候故之儀與相聞候間、其勤筋之儀得與相辨可申事ニ候。

一御年貢勘定帳、其外村入用臨時取立物等、巨細ニ相分り候様、名主組頭百姓代立會、叮嚀ニ相仕立置、縦壹錢貳錢壹合貳合たり共、其度々押切印形致小前江相渡、疑惑無之様可致候、若又小前之内自分ノ之勘定合、承度旨申者有之候、其譯合能吞込候様、巨細ニ可申聞候。

一名主組頭は小前を支配致候もの、百姓代は小前惣代ニ相立置候ものニ付、百姓代與唱申候、右ニ付都而百姓代立會候得は、小前不殘立會候道理ニ候、依之百姓代は名主組頭取斗、難心得儀有之候は、得と承札、名主組頭ニ不取斗之儀、無之様爲可申事ニ候、右之通ニ付百姓代立會相濟候事を、後日小前之者共彼是、可申筋無之候、夫共ニ百姓代不行届儀有之候、小前相談之上百姓代を引替可申事ニ候、逸々小前百姓立會候儀不相成候ニ付、百姓惣代ニ差出置候儀ニ付、大低之儀者百姓代江申聞取斗可申事ニ候、且又百姓代壹人ニ而難決筋は、百姓代ハ小前重立候もの杯江遂相談、村役人江可申談事ニ候、夫共ニ何ぞ村役人ハ直ニ可申渡筋合等有之節、或は割付皆濟目錄等拜見爲致候節は、日限取極五人三人宛、名主宅江参り次第、組頭百姓代立會拜見爲致、直ニ相歸し可申事ニ候、小前大勢寄置可申事ニは無之候、小前大勢寄集候得は、兎角不宜儀企候趣ニ付、何れニも小前大勢不寄集可致候、又小前大勢不寄集候而茂、何ニ而茂差

支候儀は無之事ニ候、決而小前大勢寄集候儀致問敷候。

一當國は國風ニ而、村々契約與申儀有之候、村役人たるへきもの、右等之儀江決而加り申聞敷候。

一神事祭禮或は相撲等之儀は不及申、聊之儀より共村役人江願出、村役人差圖を可請事ニ候、村役人江茂不相願、我儘ニ右躰之儀致候は、寺社方ニ而茂不苦候間、早々指押可申事ニ候、若不相用候は、早々御役所江可申出候。

一無故小前大勢寄集候儀を及承候は、其譯合相糺早々退散可爲致候、若村役人申付を不相用候は、其段早々御役所江可申出候、不宜申合等致候を、村役人乍存其分ニ差置候而は、村役人之越度ニ相成候間、左様成儀無之様可致候、且又小前之内少し之事を越度ニ致し、百姓大勢申合品々難澁申懸、或は大造之振舞爲致、或は酒杯を爲置ねたりケ間敷儀、間々有之趣相聞候、右等之儀も村役人不存義は無之事ニ候間、若左様成儀及承候は、早々爲相止可申候、勿論村役人たるへきもの、右等之振舞杯江決而差加り申聞鋪事ニ候。

一名主組頭百姓代引替有之節、入札等致候ニ茂小前大勢寄集、入札可致ものニは無之候、其面々存付候もの有之は、人ニ不及相談ニ、一分之了筋次第入札可致事ニ候、大勢寄集相談之上入札致候而は、入札之詮無之候、且又無入札ニ相談之上取極候ニも、小前大勢寄集候ニは不及候、五人三人宛、名主宅江呼寄、銘々存寄承届多分ニ付取極可申事ニ候、乍去入札落候而茂、又は小前大勢相届候人ニ而茂、身元薄ク候歟、又は人柄不宜もの等は、村役人ニは不相成候間、小前之不住中ニ小前存寄を承届候上、尙又村役人共與評儀之上、身元人柄等相撰取極可申事ニ候、左様

無之候而は村役人之詮無之候間、小前ニもたれ次取斗可申事ニ候。

一 小前之内御年貢勘定等、其外何ニ而も村役人江承度義有之は、大勢さそひ候ニ不及、面々一分限之儀ニ付、其身壹人村役人方江罷越、譯合可承届事ニ候、手前一分之勘定合等ニ間違さへ無之候得は、人之間違ニ貧頓無之事ニ候、然ル處自分之勘定間違有之哉之譯茂不存、間違有之人ニ荷擔いたし、大勢申合等致候儀甚不埒之事ニ候間、以來右躰之儀決而致間敷候、且つ又村役人共茂何事ニ不寄、小前之内壹人ニ而も罷越承り候儀は、得與其もの吞込候様申聞可遣候、萬一村役人申聞方等閑ニて、小前直訴ニ及候は、村役人越度ニ相成候間、其旨得と相心得可申候。

一 何事ニ不寄、小前百姓縦水呑地借り店借り等之者ニ而茂、願訴訟有之は、村役人共夫々ニ相糺、申分無之様取斗可申候、若又無筋成儀ニ候は、其筋合得と申聞、願訴訟相止候様取斗可申候、筋立候義を依怙最負ニ寄差押候而は、村役人共越度ニ相成候事ニ候。

一 村々書役之儀は、申さば名主之下代と申者ニ而、村役人之可召仕者ニ候、小前百姓共勘定等可申付ものニは決而無之候間、村役人小前之者共心得違無之様可致候、扱書役之儀は一通之下男と違、品々御用村用共村役人申付、大切之諸帳面等茂手ニ懸ケ候者之儀ニ付、得と出所人柄等相糺、慥成受人人主取急度請狀致し、萬一金錢引込等有之候は、請人人主辨濟可致旨請狀ニ認入、宗門帳ニ茂書載可申候、請人人主有之候而茂、出所不慥成者は召抱申聞敷候、勿論御役所江も其段可申出候。

一 請人ニ相立候者は、得と其者之出所人柄相糺、慥成下受人取置、受人ニ相立可申候、下請人無之

候は、請人ニ相立申聞敷候。

一 質地證文或は書入證文江、村役人致與印候は、字位反別等逸々名寄帳江突合、得と相糺與印可致候、不埒證文江は決而與印致間敷候。

一 村方ニ寄諸事書役ニ斗任ニ置候、村方茂有之趣ニ相聞、以之外不宣事ニ候間、右躰之儀無之様可致候。

一 當御代官所ニ而、御仕置ニ成候者は不及申、或は欠落永尋之類、其外内濟相成候出入類、都而一旦相片付候儀は、此已後支配替り候而茂同様之儀ニ候、右は何れ茂、公儀之御取計ニ而、御代官限り之取計ニは無之候、右之通ニ先領主ニ而取捌有之候類も、一旦取極有之候儀は、取ほくし候儀者不相成事ニ候、是等之儀其時限と相心得候而は、以之外心得違成事ニ候間、心得違無之様可致候。

右者指定り候事ニ而、何れ茂村役人たるべきものは、差心得可能在事ニ候得共、村方ニ寄不心得之村役人も有之哉ニ付、其勤筋相辨候ため申聞候間、得と右之趣相心得少茂、依怙最負なく、理非正當ニ筋合を以相勤候様可心懸候、尤名主引替り候節は、此書附跡役江可引渡者也。

亥三月、

同年同月、土屋氏、土浦分領ノ陣屋ヲ北目村ニ置ク。

〔天童古事記〕

天童ツ、キ北目村ハ、寛政三亥年ヨリ常州土浦土屋相摸守高九萬五千石、明治元年迄七十六

年陣屋アリ、支配ノ村ハ十八ヶ村アリ、

〔蟹澤村阿部氏文書〕

土屋但馬守様御領分高帳、

寛政三年亥三月、羽劔村山郡、

北目附村々、

- 一 四百三拾九石貳斗八升六合八勺、 本木村、
- 一 高三百貳拾六石九斗六升五合、 八森村、
- 一 三百六拾四石八斗貳升四合五勺、 双月村、
- 一 千貳百九拾九石貳斗四升六合、 落合村、
- 一 百六拾石八斗七升貳合、 藤内新田、
- 一 貳千三拾五石六斗四升五合、 澁江村、

内、

- 千四百四石四斗九升五合、 澁江、
- 六百三拾壹石壹斗五升、 田中、
- 一九百六拾七石六斗壹升九合三勺、 奈良澤村、
- 一三百四石五斗八升、 下原町村、
- 一六百四拾三石九斗貳升七合貳勺、 北目村、

是迄之上、

是之下モ、

- 一 六百拾九石七斗六升壹合壹勺、 老野森村、
- 一 千百五拾六石六斗貳升壹合七勺、 川原子村、
- 一 百九拾壹石五斗八升八合壹勺、 亂川村、
- 一 百七拾七石六斗九升九合、 高野村、
- 一 五百拾九石九斗七合貳勺、 荷口村、
- 一 千九百七拾七石五斗壹升六合、 蟹澤村、
- 一 貳百六拾八石貳斗七升六合、 松澤村、
- 一 七百拾八石九斗九升八合、 貝鹽村、
- 一 八百三拾四石五升四合、 下山口村、

合壹萬三千七石三斗八升壹合五勺、

此譯、

- 六千五百四拾貳石九斗六升四勺、 上郡中、
- 六千四百六拾四石貳升壹合壹勺、 下郡中、

同年同月、長瀬役所管下諸郷ニ、御城米以下ノ事ヲ通達ス、

〔齋藤理右衛門氏記録〕

一 御傳馬入用米高百石ニ付、米六升宛、

但草高江六ヲ懸ル也、左スレハ米何程與成也、

一 御藏前入用高百石ニ付、永貳百五拾文ツ、

但草高江貳五ノ目安懸ル也、又四ニ而割ルも同じ、左スレハ永何程與ナルナリ、往古ハ米貳斗五升ツ、

一 六尺給米高百石ニ付、米貳斗宛、

但無地高江貳ヲ懸ケルナリ、

一 夫米高百石ニ付、米壹石五斗宛、

但米石何程ニ而も三八貳ノ目安也、

一 荏納之事、

是は新町新田は荏納無之、其外村々は高百石ニ付荏壹斗懸り、荏壹升五合代米壹升ツ、被下來候、

一 御廻米俵入壹俵三斗七升、入込米貳升差加三斗九升ニ而納之節は三斗七升入之名目ニ御座候、但欠米者壹俵ニ付貳升宛之積り、是又本俵ニ致相廻シ申候、右欠米之諸運賃は百姓入用ニ御座候、

一 御廻粗俵入壹俵ニ五斗、入込米貳升差加五斗貳升ニ而納之節は五斗入之名目ニ御座候、但欠粗は壹俵ニ貳升ツ、其外右同斷ニ御座候、

一 御廻米之俵入御米俵入同斷、其外右同斷ニ御座候、前々申送ニ而御座候、近年正納無御座候、年々石代伺來申候、右直段は年々吟味之上、羽州 御代官様方一同伺來申候、

一 御米斗立之事、

是は三斗五升ニ貳升宛之出目ニ御座候、

一 一定石代之事、

是は御年貢米之内、一定石代金納ニ御座候、先御支配ノ段々引付之石數相極、年々相伺申候、

一 一定石代直段之事、

是は一定石代直段ニ相用候相場書、山形、東澤、左澤町、新庄町、酒田町、右五ヶ所ニ而御座候、十月十五日ハ同晦日迄、上中下米相場書、御料は御支配之御代官様御手代、中奥書印形、私領者領主役人奥印形ニ而取之、上米斗平均右平均ニ三斗高、羽州御代官様御連名ニ而、相場書御添御伺被成候、但相場書揃候上、昨今迄は、羽州御三分御役所年番相立仕出、相場平均出來之上、御三分御役所へ差遣シ、改之上年番ハ江戸表江差遣シ申候、且又相場書取候節、私領江文通之儀、山形江は長瀨、左澤へは寒河江、新庄江は尾花澤、酒田江は年番ハ致文通來次第、本紙年番江差遣シ申候、外々江は右寫遣シ申候、爲御見合、去年之扣差遣申候、且當年は長瀨御役所御年番相當申候、辰年は尾花澤御役所、巳年ハ柴橋御役所、御年番御座候、

一口米之事、

是ハ本途見取小物成共、米壹石ニ付三升宛取立、右代直段之儀者、一定石代直段三拾五石ニ付、三兩高を以金納ニ被仰付候、

一口永之事、

是は小物成永壹貫文ニ三拾文ツ、取立申候。

一御林。

是は御林の下草永隔間山御拂代定納御座候處、山口村は不同御座候、御證文江戸表ニ而引渡申候、尤村々御林帳江戸表ニ而引渡申候。

一浮役之事。

是ハ鮭役鳥役之類ニ御座候。

一馬形錢馬代金壹兩ニ錢八拾文宛、通ノ馬壹疋廿文宛。

是は東根村ニ取立人源次郎與申者、馬賣之節改右之通取立、年々十二月御役所へ相納申候。

一御年貢金之儀、十月より翌六月迄追々ニ取立來申候、右御金江戸表江爲差登候、駄賃并才料入用等は村方ハ差出申候、才料之義は兼而郡中村々請合證文取置、御金差立候節は、爲惣代陣屋元世話役、并才料之者連判證文取之申候。

一御年貢米取立并改之義、十月末ハ村々江相廻り、米性俵拵等相改、十二月廿日迄ニ不殘郷藏詰爲致、其節爲藏メ相廻り、尙又御米繩張封印之上、村方江預證文取之、尤申札致印形相渡爲入申候。

一御廻米川下、并川船破船見分辨米等之事。

是は三月中酒田湊江川下致、尤御廻米高極次第、早春横山村船會所差配人呼出、御廻米石數書付相渡申候、若川船難船有之候得は、注進申出次第爲見分其地江罷越、御私領地内ニ候得は、右役人中立會沈米等相尋候上、御廻米ニ不成分は、名主差配人入札申觸爲相拂、或は百姓

勝手を以、百姓方江引取候儀、茂有之、何れニも百姓存寄次第爲致、損失米之分ハ三割ニ致、貳ツハ百姓壹ツハ船頭辨米申付、公儀御失墜ニは相成不申候。

一御城米江戸大坂御廻米仕方、并積所出役之事。

是は江戸大坂御廻米共ニ、當國酒田港江致川下、出役手代壹人罷越、苦屋久兵衛、佃屋金右衛門、雇出之海船入津次第、船割御代官様方舟改極印鑑ニ引合、空船見分之上、右手代中送狀積石數本欠仕譯積立、舟足見分之上、浦役人舟頭出帆、日和次第外様御分類舟ニ而出帆申付候、但酒田湊詰名主相談之上、申出次第申付、出役手代罷下候節、相連申候、舟中上乘之儀は、是迄郡代相談之上、極置、空舟入津酒田湊ハ申越次第差立遣申候。

一酒田湊御運賃渡方之事。

是は御運賃高之内、半分は大坂ニ而相渡、殘半分ハ三分壹酒田湊ニ而相渡、三分二ハ江戸大坂着船之上相渡申候、尤年々大坂船割御代官様方御手代中、送狀之表ヲ以相渡申候。

一右同斷御圍ハ、解下船江積入賃之事。

是ハ御米壹俵ニ付、三文半ツ、海舟ハ出ル。

一右同斷解下賃之事。

是ハ酒田御圍ハ元船有之所迄、川船を以解下申候、御米壹俵ニ付、錢貳文懸リ相渡、尤此賃錢公儀ハ被下置候、但在は五割引渡申候由申送ニ御座候。

一出船之節沖瀬取之事。

是ハ水戸口淺源ニハ、六七分皆瀬取ニも相成候、御米壹俵ニ付、錢三文懸リ、尤此賃錢公儀ハ

被下置候、但在右同斷。

一出船之節引舟賃之事。

是ハ出船之節、廻船壹艘ニ引舟貳艘ツ、壹艘ニ付錢貳百文相渡來リ申候。
一御廻米納名主之事。

是ハ郡中相談之上、名主相極差出候ニ付、吟味之上申付候。

一浦役人志州畔乘壹人、勢州棹栖壹人、長州下ノ關壹人、紀州周條見壹人、羽州酒田港貳人、御扶持米渡方之事。

是ハ右五ヶ所ニ御城米浦役人六人、右御扶持米壹人ニ付五人扶持ツ、渡方之儀ハ羽州御代官様方年番ニ相渡候、右御扶持米川舟廻舟共ニ、無運賃ニ而江戸迄爲積登申候、尤酒田港浦役人兩人江ハ於御園相渡申候、外四ヶ所之分は何れ之御分様積舟へ成共、三四俵宛積入遣候、江戸表ニ而相渡申候、右渡方者納宿委細存罷有候由ニ御座候、且當卯年は長瀨御役所御年番ニ御座候間、浦役人扶持置米、被仰付候様與奉存候、辰年尾花澤已年柴橋御年番ニ御座候。

一最上川船之儀、去ル卯年神山三郎右衛門様御吟味之上、米百俵ニ付半俵ツ、御運賃被下候由申送御座候、則一件書物引渡申候。

一東根町正月四月七月十月中旬、米相場書取之度々江戸表江遣申候。

一山形町天童町之儀、右同斷取之其度々江戸表江遣申候、尤山形ハ秋元攝津守様役人中、天童ハ織田八百八様役人中江兼而申遣置、右月々不及懸合被差越候間、猶又御懸合被成候様ニ與奉

存候。

一東根町天童町、十月十五日ハ同晦日迄、大豆直段書付取之、御年番御役所江遣申候。

一改步銀金百兩ニ付、銀五朱宛取立申候。

一御用ニ付陣屋詰手代罷出候節、人馬并廻狀持出人足共、陣屋元村方ハ差出、郡中割ニ相成申候由ニ御座候。

一所々江遣置候印鑑之事。

是ハ山形領松原新庄領古口江、拙者共印鑑壹枚ツ、山形ハ同所町奉行迄書狀相添遣候、古口江ハ長瀨村名主方へ相渡遣候、是ハ男女通切手相願候節之ため、前々ハ遣候由ニ御座候。

一郷藏者村毎ニ建置申候、新町新田ハ皆金納ニ付無御座候。

一檢見面之儀、大概彼岸入ハ十五六日過候得ハ、時節宜御座候。

一御大名様方御通行之節、人馬繼之儀、少分之儀者宮崎楯岡六田三ヶ村合宿繼立申候、大分人馬入候時は楯岡六田宮崎之内ニ而、助人馬爲相詰繼立申候、助郷之儀ハ別紙帳面引渡申候、但御登之節ハ楯岡ニ而繼立、御下之節ハ六田宮崎之内ニ而繼立申候、右助郷人馬觸之義、右三ヶ村ハ長瀨江願出、割賦廻狀差出來申候、尤御料私領共其度々御支配江懸合候而ハ、急成節間ニ合不申候間、兼而申合置長瀨ハ觸出申候、尙又御懸合罷成候。

一宮崎村人馬繼之事。

是ハ朔日ハ廿日迄六田村ニ而繼送、廿一日ハ晦日迄宮崎宿ニ而繼送申候、御大名様方御通行之節ハ、前條之通ニ御座候、且又人馬差支無之ため、當日手代壹人麻上下ニ而罷出申候。

一天童助人馬之事。

是の天童村馬糞ニ而御大名様方御通行之節ハ、助人馬之儀、東根領上知三萬石余ニ而人馬差出、右上知之内當時御料私領共、一同ニ差出來候、尤觸出之儀者、天童詰役人ハ置觸之様申合置、長瀨附之内山口村、奈良澤村、萬善寺、野川村、東根村、助郷村ニ而御座候。

一上知村々之儀、石盛無之反取用候、取米仕出來米を三ツ九分三厘ニ而、割高を仕出申候。

一御取箇掛札之儀、御取箇并石代直段等、書付年々相渡、村々高札場ニ板ニ認懸させ申候。

一榜示杭之事。

是は新町新田蟹澤村境、東根村と六田村境、揃山村與林崎村境建置申候。

一長瀨村牢屋番給、前々ハ楯岡領村々ハ、米七俵ツ、差出來り候處、牢屋零落殊ニ長瀨明陣屋之節ハ、牢番之者も差置不申、當時右古來悉舊跡形も無之候由、長瀨村ハ書付差出申候、一件書物

引渡申候。

一冬川下相止候吟味一件書物、先御支配ハ引移ニ付、此度引渡申候。

一羽州御廻米欠減多相立、百姓致難儀候由依之、苦屋久兵衛、佃屋金右衛門、船中欠請負ニ而年々相廻候、右船中欠請負ニ付、一件書物先御支配ハ引渡ニ付、此度引渡申候。

一東根村與新町新田村、天童村去ル子年若木御林地元爭論内濟一件、先御支配ハ引渡ニ付、此度引渡申候、尤右御林帳之儀ハ、東根附御役所ハ差出、御林木雪折風折有之節、茂、東根村ハ伺申候由、先御支配ハ申送ニ御座候。

一去寅年越後國子丑川々御普請ニ付、越後出羽國江國役金被仰付、郡中村高を以取立申候、御朱

印地寺社領等取立之儀、御座候。

一山形寶幢寺領。

御朱印高村々江入會候分、聞合書付并來狀共、先御支配ハ引渡ニ付、尙又引渡申候。

一陣屋門番給扶持、御代官入用ニ而抱置申候。

一御廻米積立酒田出役逗留中、御用狀前々引付ニ而、無賃村糞ニ而往來致來申候。

村次左之通。

長瀨、楯岡、土生田、尾花澤、名木澤、船形、清水、元合海、古口、清川、狩川、山

寺、砂越、酒田。

柏倉ハ左之通。

柏倉、山形、天童、六田、楯岡、土生田、尾花澤、名木澤、船形、清水、元合海、古

口、清川、狩川、山寺、砂越、酒田。

一村々高札之儀、切支丹、火附制札、百姓徒黨迹散之儀、高札相立有之候。

一御城米難船之節、爲見分罷出候場所附之事。

一西海大坂廻し。

一羽州酒田湊ハ能登國迄、長瀨より罷出候事。

一加賀越前ハ大坂迄、大坂出役罷出候事。

一東海江戸廻し。

一酒田港ハ津輕南部仙臺岩城之内、長瀨ハ罷出候事。

- 一常州平洞の総州房州邊迄、江戸の罷出候事。
- 一最上川通船之儀、去ル子四月の來ル戌三月迄、中年拾ケ年季請負、新庄領横山勘兵衛甚助江被仰付、冥加金壹ケ年ニ金貳百貳兩貳分ツ、上納之積り御下知相濟、右取立之儀、其外羽州御代官様方御年番ニ而取計候、當年御年番ニ付一件書物別紙目錄を以引渡申候、其外先々右御吟味一件書物引渡申候。
- 一東根村陣屋敷三畝三步、高三斗壹升五合、東根村原方村ニ而引高相成候由申送ニ御座候。
- 一東根村新町新田大豆金納御座候、直段之儀者東根天童十月十五日の同晦日迄、上大豆平均直段三斗高ニ而伺申候、口大豆者大豆金納直段、三拾五石ニ付三兩高を伺申候。
- 一長瀨村陣屋敷高拾石八斗貳升七合、高内引ニ而御座候。
- 一坪刈竿之儀、古料長瀨宮崎櫛山湯野澤、右村は六尺壹分上知、東根萬善寺野川山口大石田村は、六尺五寸竿相用申候。
- 一東根村先方浪人居屋敷引之儀、御私領引付ヲ以引高相立來り申候。
- 一郡中用達之事、長瀨村權藏郡中申合相勤來申候。
- 一新町新田與右衛門與申百姓、先年新田致開發、爲御褒美大豆三石宛本石ニ而、私領之節の御料ニ相成候而も、年々被下來候、右御證文江戸ニ而引渡可申候。
- 一此度御引渡村々不殘定免村ニ而、長瀨村去ル亥高入、新畑檢見取ニ而御座候。
- 一當年早損之儀、四月中の照續田畑共早損いさし、仕付難成旨追々注進申出候ニ付、當六月中一逼江戸表江申遣、御勘定所江御届申上候由、尙又土用後不植付分、其外痛之様子見分仕、江戸表

へ申遣し候間、委細江戸表ニ而御演說可仕候、依之此方取置候仕譯帳、注進書に引渡申候。

- 一此度被仰出候、出雲國日御島社再勸化之儀、村々江申觸置候。
- 一御府内私領百姓、大勢罷出訴訟之儀ニ付、御書付是又觸置候。
- 一御廻米冬川下有之候節は、酒田港町藏江入置候、藏敷賃者藏出迄之日ニ、酒田町上中下米相場を以代金ニ而御米百俵ニ付壹俵宛相渡、入用相立候由申送ニ御座候。
- 一東根荷口錢馬形錢共口、永懸り申候由先ニ申送ニ御座候。
- 東海廻り、
- 米百石ニ付、永廿壹ノ七百廿五文。
- 西海廻り、
- 同斷、
- 永廿壹ノ七拾五文。
- 粗百石ニ付、永拾貳貫九百九拾四文。

同年九月、村山郡風雨洪水、楯岡、長瀨、漆山諸領被害多シ。

〔漆山代官記〕

一寶政三亥歲夏中ひてり、秋ニ成雨降り、九月三日四日大雨大風吹、洪水ニ而水除押切れ、漆山へ村半分水揚り申候、灰塚寺津三丁目右同斷也、此時上郷より下郷は大そんし也、楯岡村町家三拾九軒潰れ申候、長瀨十九軒潰れ申候、其外御林之松木、并並木木數多く吹返し、御役所注進如斯ニ御座候、夏中迄米石下直、秋中の穀類高く相成申候、田作も例年の違ひ申候、大豆ハ近年

ニなく不作仕候半分取り也。

同年十月、奈良澤村名主利左衛門、保管書類ノ覺書ヲ、同村長龍寺以下ニ呈出ス。

〔奈良澤村文書〕

覺

- 一 御公料御割附之内、 去卯卯戌迄貳拾ケ年分、
- 一 右同斷皆濟目錄之内、 右同斷、
- 一 名寄帳、 一通、
- 一 差出明細帳、 一帳、
- 一 御年貢小前取立帳、 五ケ年分、
- 一 宗門人別御改帳扣、 同斷、
- 一 漆木敷小前帳、 一帳、
- 一 青苧畑小前帳、 一帳、
- 一 村繪圖并山繪圖、 貳敷、
- 一 村入用帳、 五ケ年分、
- 一 新規ニ被仰渡候御條目寫、

右者當村之儀一村ニ付私壹人古來御用相勤候付有來之諸書物私方ニ預置申候然ル處當春

御料御私領與相分り候付御熟談之上書面之通貴殿方江相渡申候尤相殘候諸書物御水帳定納一紙壹敷昔古千九百石余り御證文一敷私方ニ預置申候ニ付御用之節御料私領無差別入用之書物等相互ニ熟覽致無差別様可仕候爲後年右品書物等江一札相添差出申處仍而如件

寛政三年亥十月

前書之通貴寺様方并御三人之衆私共双方江異見を被召加御取纏ニ而右書物熟談之上ニ而取替シ候然上者双方納得仕諸帳面取替シ候上者此以後右ニ付村方百姓中ニも出入ケ間敷義爲致申間敷候萬一此末諸書物ニ付如何様儀出來仕候而も貴寺様方并貴殿方へも御苦勞相懸申間敷候依而御料私領村役人印形仕候以上

同村私領名主

利左衛門

組頭 善兵衛

全 多兵衛

百姓代 彌不次

御領名主 彌次兵衛

組頭 源次郎

百姓代 庄藏

奈良澤村

長龍寺様

同村

徳正寺様

北目村御名主

武右衛門殿

貫津村同

次郎作殿

上原町村同

兵藏殿

同年某月、柏倉代官廣瀨伊八郎、家訓ヲ草シ、領民ニ教示ス。

〔史料雜集〕

天におそろし。

日々は仕業行跡汝天に見通し也、能きとをさるものよは、ごぞてのおめくみあり、福しき事をさる者ニは、ばちをおあてなさるぞ、おそろしき事也。

地は大せつ。

人乃食物衣服其外何よても、地を出來ざるものなし、地をそまつにさると、たちまちよばちあたり、食物其外何事ニも手つりへこまる也、少の地よても大切よさる事也。

親の大じ。

面々人並よはたらくからだは、みな父母をさつりり、色々のやしなひをうけ人よ成、親の大おんかきりなし、大事よそへき事也。

子がかあい。

子汝やしあふ事ハ生類ミなおなじ、人々子汝りあいく思はど、おさなき時をそれくのわざを能くおしえ、少もよた人よ成様よそたてるり、子汝りあいくおもふの第一也。

兄弟中よく。

兄弟は前後に生れたる違ひにて、同躰の事をれば、随分中能よへき事也。

夫婦むつましく。

夫婦は天地自然之道なれば、夫は女房をふびんに思ひたのみよいとし、女房は夫汝親のごとくにいたし、夫れ心にそむらぬ様、一生むつまじくくらよべし。

諸人あゆきやう。

人間一生の世わさり、少も人にくまるゝとむざむざい出來、うきくらうたへぬ也、相たかへになさけぬりく、うつくしく世を渡る事心かけべし、あいきやう第一乃事也。

寛政三辛亥年

廣瀨伊八郎

同四年九月、幕府代官池田仙九郎、山野邊村九ヶ村用水玉虫溜井ニ碑ヲ建テ、國風一首ヲ刻ス。

〔探訪史料〕

いよりつゝ溜井の水の幾千代も、

あまる恵みを玉虫の神、

玉虫大明神溜井記、佐藤升蒼淺井謹誌、

玉虫の神池は、應永年間高楯の城主武田惣内信安、地を末吉良村に替て、山野邊九ヶ村者用水となせり、故に高楯村水元を主どり、正保元甲申年亦山を穿ら、陂を大にして、其流を引通より、磽地良田となり、更早焦の愁なく、夏五月廿一日の祭祀怠らず、村々富貴あるも一に、

神徳の普に依れりと、寛政四壬子秋九月、御代官池田千九郎源但季君、和歌を以て奉幣あり、尙も農を勸め民を安んずる、仁君の徳恵を被るにより、同人甘棠の陰を慕るに比し、松か根の石に刻して、雨露農恩澤、八千代の春秋に仰き願ふ者ならし、

殊さらに風薫るなり松の陰、

〔山邊畧史〕

但季仁慈ノ心深クシテ、民ヲ愛スル子ノ如ク、常ニ農桑ニ心ヲ用井、屢々領内ヲ巡視シテ之ヲ獎勵セリ、故ニ民ノ氏ヲ敬慕スルコト亦父母ノ如ク、之ヲ同沼ノ建碑ニ徴スルニ、同人甘棠ノ徳ヲ謳歌スルモノ、如シ、明代官ノ名今ニ郷土ニ喧傳セラル、

同五年癸丑正月、柴橋代官池田仙九郎、大蔵村百姓七郎左衛門父子ノ奇特ヲ具申ス、依テ幕

府之ヲ嘉賞シ、苗字帶刀ヲ免許セシム、

〔稻村家文書〕

羽呂村山郡大蔵村、百姓七郎左衛門奇特之儀、

申上候書付之寫、

覺、

私御代官所、

出羽村山郡大蔵村、

百姓、七郎左衛門、

當丑六拾九歳、

同人倅、

久米之助、

當丑四十四歳、

右七郎左衛門儀平日行跡宜、村内百姓共手當等いたし、奇特成もの、由風聞御座候間、村役人呼出相糺候處、祖父代々段々身上宜罷成、當時ニ而六十石餘所持仕、家内貳十七人暮ニて睦敷、貞實ニ農業出情仕、奉重

公儀御法度之趣堅相守、儉約を用、村内百姓共を憐、既ニ四十五ヶ年已前寛延二巳年、御年貢米納致兼候百姓とも有之、米百拾五表無利足ニ貸渡、五ヶ年賦ニ取立、六ヶ年目猶又右百拾五表、

其儘難儀之者江五ヶ年賦ニ貸渡、今ニ至迄追々右之通取計、四拾ヶ年以前寶曆四成年は、奥羽二ヶ國共大凶作ニ而、殊ニ大蕨村は山内之儀、別而夫食無之節を、難儀之もの爲め手當里方村々、又者最寄私領金百兩ニ付、三斗七升入米貳百五十五表之直段ニ而、七百兩分此米千七百八十五俵買請引取候内、俄ニ世上相場引上ケ、金百兩ニ付百八拾俵ニ相成、村中之者一統致難儀候ニ付、元直段ニ而賣渡遣候處、大概代銀は持參不致候得共、其儘貸遣其後代銀可相拂ものも無之候間、最早濟方ニ不及旨申聞不請取、極困窮之者江は無代ニ而手當いたし、近村々迄茂難儀之者は同様取計候得とも、石數等記置不申年數相立候義ニ付、代銀何程受取何程不請取と申儀者、當時は難相知候由、同年迄連々ニ貸置米四百七拾表、金三百八拾九兩、此内返濟之分少茂無之候得とも、不殘弃措ニいし、證文三拾七通相返候ニ付、百姓共力を得他國出等致もの無之、翌亥年茂平年之通田畑植付等行届、拾壹ヶ年以前天明三卯年之儀は、何ヶ年ニも無之郡中一統大凶作ニ而、村内百姓一同御年貢米金上納差支候處、七郎左衛門親子申合、壹ヶ村御年貢不殘取替上納仕、同年自分手作之米穀茂不殘、百姓江致配分遣候得とも、翌辰年ニ至夫食差支可及餓死躰之者多分有之候ニ付、米六拾俵餘村方惣人數江割渡遣、其上米六拾五俵差出、辰巳午三ヶ年延末、五ヶ年賦無利足返濟之積を以貸渡、猶又酒井左衛門尉領分同國酒田港ニ而、金百貳十兩分米相調、近村々迄茂取積相成兼候もの共、江安直段ニ而賣渡、極々困窮成者江は差遣爲相凌候故、漸代金拾兩程ならては手ニ入不申候得共、右凶作以來百姓共困窮ニ相成、年々春夏之内作付夫食差支候儀を歎、爲手當五斗入六拾俵差出郷藏ニ貯置、田畑仕付時節夫食無之者江、無利足ニ而貸渡、秋冬ニ至新粳を以取立、如元郷藏ニ詰置候様取計候間、右卯年

中難儀之者相救、奇特ニ付爲御褒美、銀五枚七郎左衛門江被下置候段、其節迄支配野田松三郎申渡、殊ニ先年凡作馬五六拾疋程ツ、七郎左衛門相調、村内は勿論、近村々ニ而茂困窮成者共、江は貸渡置候處、百姓共一同相勵農業出情仕、若百姓共之内風儀不宜もの有之候得は、厚異見等差加候ニ付、心躰相直家業情出シ候様罷成、如斯實意之世話行届候ニ付、村中は勿論、近村々迄も感服仕、自然と七郎左衛門風俗を學ひ、百姓とも出會之節も、一同睦鋪實情を盡、其上村内鎮守社三拾五ヶ年以前焼失いたし候處、七郎左衛門致再建、同人并惣百姓共、菩提所曹洞宗瑞永寺江は大般若經致寄附、年々春中一度宛、七郎左衛門壹人之入用ニ而衆僧相招、五穀成就之祈禱不怠修行爲致、去ル卯年は七郎左衛門亡祖父年季ニ相當候故、爲法養米貳拾表差出無高百姓江配當爲致、其外大蕨村ハ山野邊村迄、道法二里程之場處、嶮岨之山路難所、年々欠崩牛馬通路差支候儀も有之候ニ付、七郎左衛門一己之入用を以、先年今以石切人足等相掛普請仕立、并右往還道之脇溜井ハ大雨之節は水溢、通路止往來之者致難儀候場處、江是又自分入用ヲ以石橋懸渡候積、當時普請取掛罷在候之旨申之ニ付、猶又惣百姓共呼出再應相糺候處、村役人申候之趣と符合仕無相違、殊更私先達而吟味伺之上、御下知相濟候、支配所村々凶年又者窮民爲手當、高千石ニ付金貳兩ツ、は、去子ハ來ル辰迄五ヶ年之内、郡中より出金致し、右七郎左衛門并七浦村吉十郎、大谷村彌次右衛門江預置、往々貸附等之世話致し候儀も、七郎左衛門重立郡中江申救候故、一同得心仕相調候儀ニ而、其上七郎左衛門ハ高懸之外金子差加、此上年々差出候積ニ付、身元宜もの、内よりも、追々餘計之金子差出候者とも出來仕候、右躰百姓共を憐數度米金等ヲ不厭、貸出手當いたし、大勢之難儀を救ひ遣し、其外篤實之始末、近村々之者と

も迄及見聞、自然と風俗も宜相成、勞誠ニ稀成奇特ニ奉存候間、可相成儀ニ候は、七郎左衛門
江苗字帯刀 御免被成下、倅久米之助儀猶又脚之た先、相應之御沙汰御座候様仕度奉存候、依
之此段申上候、以上。

丑正月、 池田仙九郎、

右者爲後證書上寫遣之候、以上。

柴橋、

役所御中、

〔孝義録〕

奇特者稻村七郎左衛門、

村山郡大蔵村の百姓稻村七郎左衛門は、祖父の代より産業やう／＼にゆふかになりて、六十
石あまりの田畑牧もち、一家二十七人睦ひ和らき、ともに農業に力を盡し、殊につねの行ひ正
く、上を敬ひ掟を守り、其身をつまやかにして、貧き民を憐事をむねとせり、寛延二年村人の
貢おさむる手術なきものに、五年をかきりて、年々にわかち返さへきよしいひて、利錢を納め
る百十五俵の米をりし、もてに限り滿てのこりなくかへせしかは、又もはしめの定め、の如く
にして、今に至るまでかしかへ、貧きもの、助けとなしぬ、寶曆四年奥羽の二國凶作せし中
にも、此村は山中にてわけて食糧乏かりしを、又も救はん事を思ひて、便りよろしき村々より
七百兩の金もて、米千七百八十五俵買ひとりて貯へけるか、俄に米の價貴くなりて、はしめ金
百兩にて二百五十五俵にかへし米の、今はわつかに百八十俵にかへて、村人こそりてわひあ

へりしかは、はしめかひぬる價の早々にうり極めて、貧きものにはめぐみあたへ、價もてこぬ
にはて遣し、其後猶も價はさるもの多かりしかど、あへてはたる事なかりき、其村にも限らず、
他の里の者といへども、又しかふしてそ助け、兼ねてその村人に米四百七十俵と、金三百
八十九兩とをかしてきて、券書三十七通までありしをも、残りなく返しあたへたりしかは、み
なこれに力を得て離散するものたへてなく、次の年はいつもの如くに苗を植たりき、天明三
年またためしなき凶作して、村人貢さ、けんよすかなく見えければ、その子の久米之助に
はかりて、一村の貢をその家よりおさめ、其年のをのか稼穡をも、みなあたへて救ひけるに、次
の年も食糧乏く、うへに及へるもの猶も多かりしかは、米六十俵あまりを人々に分ちあさへ、
六十五俵をは利錢をとらず、五年を限りて年々に、分ち返すべき定めにしてかしかへしか、
猶も事ゆくましくとえければ、同國酒田の港にて、百二十兩の金もて米買て、のやくうり、極
めて貧きものには、價をとはすとらせし程に、その期日取纒十兩にも通さりけり、されど去り
し年の凶作より後は、村人ことに困窮して、年々苗植る間の食糧乏かりしかは、七郎左衛門深
く歎きて、一俵に五斗入たる粃、六十俵を郷藏に貯へ置、春夏の間は利錢をとらずし遣し、秋
のかりはひ以之おさめさせけり、これらの事時の御代官野田松次郎聞えあけしかは、奇特の
計ひなりとて、銀の御褒美給はりき、天明三年祖父の遠忘をどひける時も、二十俵の米出して
田畑なき民に施し、又りねてより五六十疋の馬を養ひ、遠き其村まは近里の貧きものにか
して、耕作の助となし、三十五年さきに其村の鎮守の社の火にかかりしを再び營まゝて、一村
の菩提所なる瑞永寺といふに、大般若經をよせ、春毎に一度つゝ衆僧を家に請して、五穀成就

の祈りをなす事年々怠らす其村より山野邊村といふ所まで二里の間はけはしき山道なるか、年毎ニ缺崩れて牛馬のゆき、自由ならさりしを、己り財を出し石切の人夫をして道をつくらせ、其道のほとりに溜井のありて、大雨の度毎に水溢れて、往來の人のなやみとなれるを、これへ石橋造らむ事を思ひ立て、今すでにその事をもはしめつ、しかのみならず風俗よからぬものを、教へ諭すこと懇なりしかは、其村はもとより隣里のものまで見習ひて、友のまじはりもをのつりら睦くなりゆきけり、御代官池田仙九郎いひいて、寛政元年より同き五年までの間、司とれる村々より高千石ニつゝきて、二兩つゝの金出さしめ、此七郎左衛門と七浦村の吉十郎、大谷村の彌次右衛門なるものに預け置き、村人にかしあたへて利倍せしめ、凶年の備へせんとはかりけるに、七郎左衛門郡中のものを諭し、高の外にも餘計の金を加へ、これよりのちも年々おさむべきよいひ出ければ、ゆふりに營むものみなこれにならひて、餘斗の金出せし事、しかなから七郎左衛門いひ出しに、よれりて、其あらましを聞わあけしかは、寛政五年十二月父子のものに銀給はり、七郎左衛門り身を終るまで、刀さす事をゆるし、苗字は永く子孫に傳ふべき命下りけり。

〔稻村家文書〕

寛政六寅正月十一日、柴橋御役所御代官池田仙九郎様へ御指状ニ而、名主利助同道罷出候處、御上様へ爲御褒美銀拾枚、名字帯刀御免被下候由、御役所ニ而御代官様被仰渡、御免書難有頂戴仕候、夫へ御代官様へ御酒可被下候由、御座敷江罷出候處、御吸物品々御肴ニ而御酒被下、其上御代官様御座敷江罷出候様ニ被仰候間、召出候處上聞ニ達し、冥加成儀候間、親子ヲ

祝扇子箱、御歌二句御下ケ物被下置拜領仕候、家之面目ニ被存候間、ケ様之儀皆先孫御影ケ故ニ御座候間、此家ニ居者しんしやう大切ニ、錢遣ひ等おごりケ間、鋪義不仕、此末々共ニ村方へ茂、相應ニ手當テ致度心掛ケ常々專一ニ御座候、此家者代々百姓表ニ相心得、商内等餘慶ニ不仕様ニ心得可申候、以上。

寅貳月 日、 稻村七郎左衛門

御代官池田仙九郎様

御手代

高橋文左衛門様

森 類 助様

上野 戸 作様

同年四月、代官鈴木喜左衛門、村山郡去歲ノ貢米ヲ、酒田港ヨリ、江戸ニ廻漕ス。

〔柏倉村齋藤文書〕

出羽國子御城米、丑春西海江戸廻船送狀之事。

大坂濱路屋孫三郎船

沖船頭、島之助

羽州村山郡柏倉村

上 乗、九兵衛

丑四月八日酉刻羽州酒田渡入津、

同十五日御米積立

同廿三日辰刻同所出帆、

六月朔日品川着船

同五日瀬取、

同六日水場

同七日八日內掃、

御直履廻船定差配、

六月九日本所六十七番、六十九番御藏納

佃屋勘左衛門、

壹住徳丸、

楠松杉六年造、

一御城米千三百七石貳升七合、

酒田港積、

●●俵印、

但、船頭水主炊共二拾八人乘

此俵三千五百三拾貳俵壹斗八升七合、但三斗七升八、

米千貳百四拾石、

御城米、

此運賃金貳百五拾四兩永貳百文、但、御米百石ニ付、金貳拾兩貳分宛

金百貳拾七兩、

御前貸大坂渡、

內金四拾貳兩壹分、

御中貸積所渡、

金八拾四兩三分永貳百文、

御後渡江戸渡、

米六拾七石貳升七合、

欠米、

此運賃金拾五兩三分、永五拾壹文六分、但、米百石ニツキ一割五分増共ニ金、廿三兩二分ト永七拾五文ヅ、

內金拾兩貳分、

三分貳、酒田港渡、

金五兩壹分永五拾壹文六分、三分壹、江戸渡、

外御助成銀御米百石ニ付銀四拾三匁宛、舟中ニ而不束之筋無之候は、江戸着船之上舟頭水

主共江差配人々相渡候積り、

港平均、實目拾五貫百七拾一匁、外廻三斗五九升四合四勺八才

一様俵四俵、

貳俵、實目拾五貫貳百目、升廻三斗九升四合四勺八才、但、布袋ニ入封箱入封印、蓋紙包細引結運包封印附

貳俵、實目拾五貫四百目、升廻三斗九升四合四勺八才、但、布袋ニ入封之上、袋ニ入封印附

外米百俵、

糶米、

四百數、

苦菰、

一鐵碗八頤內、百貫目、九拾貫目、八拾貫目、七拾貫目、九拾五貫目、八拾五貫目、七拾五貫目、六拾五貫目、

一網拾壹房內、三房、首三房、檜五房、

一檣杉、桁、杉、揖、白檣、帆、貳拾九反、

右者鈴木喜左衛門當分御預所出羽國村山郡村々去子御年貢當丑春江戸御廻米之内書面之通船足極印限於酒田港積立之、今廿三日出帆申付候間、其御地着船之上、俵數貫目升廻等御改、御請取可被成度候、以上、

羽州酒田港出役、

寛政五丑年四月廿三日、

鈴木喜左衛門手代、

鯨井忠藏、

江戸本所錦町壹丁目、

鈴木喜左衛門手代

石川清兵衛殿

定

一於船中御城米大切ニ可仕候萬一打米澤手前等准之御米等ニ而茂隠取候は、後日に聞といふとも穿鑿之上、船頭水主之儀は不及申、諸親類迄可被行罪科事。

附船中火之用心、堅相守可申候事。

賭之勝負一切仕間敷事。

一御城米船積之砌、揖檣網碇並糶米薪諸道具等ニ至迄、海上ニ而可入分積之船足改を受候以後、何れ之浦ニ而茂私之荷物を隠候而不可積之、若日和無之致逗留糶米不足之時は、何れ之浦ニ而も相調、其趣所之者ハ證文可取之、自然偽糶米准之商賣之米調於積は、急度曲事可申付事。

一遭難風打米不仕候而不叫時は、糶米不殘捨之、其上ニ而御城米捨可申候、若自分之穀類を殘置は可取上事。

一澤手米有之時は入念可干立之、海上ニ而船道具打捨於金不足は、着船之港ニ而可相調事。

一於江戸御城米不相渡以前、糶米餘分有之候共、無斷して陸江揚申間敷事。

右之條々堅可相守、若相背様有之候は、可訴出、縦同類たり共其科をゆるし、御褒美可被下之、且又怨を不成様可申付候、隱置脇ハ相聞候は、船頭は勿論水主炊共悉可被行罪科もの也。

寛文元丑年二月、奉行。

右御條目之通、堅可相守もの也。

寛政五年四月、鈴木喜左衛門。

上乘船頭水主炊江申渡。

一羽州村山郡御廻米之儀、別而入念船積役人並上乘船頭立會升目相改、其外輕儀滯儀濕氣鼠喰等、少茂無之様相改候間、船頭請取候上は御藏納之節、欠米無之筈ニ候處、近年は多分欠減茂有之由相聞候間、随分入念可申候、向後欠減米多船茂有之候は、上乘船頭可爲不念候間、兼而其心得可有之事。

一右港着之節、類舟に心を付、第一火之元随分入念可申候、大切之御米積立候上は、上乘舟頭陸江揚候事無之筈ニ候處、近年港着之節、上乘船頭共猥ニ隠揚候様相聞、以之外不埒之事候、依之御米茂欠減多様ニ相聞候間、陸ニ揚り候事仕間敷候、然其實ニ不揚候而難成子細有之は、其旨上乘船頭互ニ申合壹人宛船ニ残り、御米大切ニ相守可申事。

附日和有之類船港出帆いたし候節、無故逗留致候事堅仕間敷候事。

一江戸着船之節、品川ハ瀬取解下船上乗壹人宛乘候而、御米紛失或は澤手米等無之様、随分入念可申候、上乘之ものは水主斗江相任申間敷候事。

一於舟中船頭上乘水主炊等迄、博奕其外賭之諸勝負堅仕間敷事、右之趣堅可相守もの也。

寛政五丑四月、鈴木喜左衛門、印

覺

鈴木喜左衛門當分御預所出羽國、去子御年貢江戸御城米積船、萬一遭難風異變之儀有之節は、

酒田港の能登國迄は、羽州尾花澤陣屋江致注進、加賀越前江江戶迄は、江戶本所錦町壹町目鈴木喜左衛門役所江可致注進候、尤是迄難破船等有之節ハ、江戶役所并支配所陣屋江致注進、見分手代不相越内は、濡米等取捌不相成仕來ニ候得共、以來右躰之節早速其最寄り御代官所、御預所陣屋江注進致し、其の陣屋役人中之可請吟味候、勿論船頭并上乘之者、其場所離不申様可致候、以上。

羽州酒田湊出役、

寛政五丑年四月、

鈴木喜左衛門手代、

鯨井忠藏、

羽州酒田港江江戶迄、

浦々津々、

年寄主中

浦觸

鈴木喜左衛門當分御預所出羽國村々、去子御年貢當丑春江戶御城米、本欠共ニ別紙送狀之通、同國於酒田港大坂濱路屋源三郎、船沖舟頭島之助船ニ積立之出帆申付候、津々浦々江入津致候は、船極印其外入念相改入津出帆之譯、并日和惡敷其所ニ致逗留候事有之候は、風波之様子日帳ニ記し致印形、出帆可被為致候、萬一逢難風候節は、何れ三浦ニ而茂引舟出之、御米損失無之様可被致候、以上。

羽州酒田港出役、

丑四月、

鈴木喜左衛門手代、

鯨井忠藏、

羽州酒田港江
西海廻江戶迄

御料津々浦々、
私領津々浦々、

年寄主中

御城米送狀、

大坂河内屋平吉船、

沖船頭、丈兵衛、

出羽國村山郡金谷村、

上乘、忠右衛門、

廻船御用達、

佃屋勘左衛門、

二住田丸

捕糶梅三年造

一御城米千百九拾壹石八升壹合、

酒田港積、

●●俵印、

但、船頭水主炊共ニ
拾六人乗

此俵三千貳百拾九俵壹合、

但、三斗七升入、

米千百三拾石、

御城米、

此運賃金貳百三拾壹兩貳分永百五拾文、但、御米百石ニ付、金廿兩二分、

金百拾五兩三分、

御前貸大坂渡、

内金參拾八兩貳分、

御中貸積所渡、

金七拾七兩壹分永百五拾文、

御後渡江戸渡、

米六拾壹石八升壹合、

欠米、

内金九兩貳分、

三分貳酒田港渡、

金四兩三分永百四拾九文八分、但、米百石ニ付キ一割九分増共ニ、金廿三兩貳分永七拾五文、

外御助成銀御米百石ニ付銀四拾三匁宛、江戸着岸之上、舟中ニ而不束之筋無之候は、舟頭水主共江差配人ノ相渡候積り、

港平均、實目拾五貫百四拾貳匁、升廻三斗九升壹合六匁、

一御樣俵四俵ノ内、實目拾五貫三百目、升廻三斗九升一合六匁、

外、米九拾俵、實目拾五貫五百目、升廻三斗九升一合六匁、

外、米九拾俵、

糧米、

六百四拾參數、

苦菰、

其御預所羽州去子御年貢米之内、江戸御廻米本米千百三拾石、欠米六拾壹石八升壹合、合千百九拾壹石八升壹合、此俵三千貳百拾九俵五升壹合、但三斗七升入、右之御米攝州大坂河内屋平吉沖舟頭丈兵衛、水主共ニ拾六人乗之船、當四月四日羽州於酒田港御積渡相濟、同國村山郡金谷村忠右衛門致上乘、同廿日彼港出帆仕、同廿二日佐州小木港江入津、翌廿三日北風ニ而同所出帆帆登候處、翌廿四日曉越前沖ニ而南ニ爲吹替候ニ付帆戻シ候内、同日晝頃ノ次第ニ風波強ク罷成、船中江高波打込候ニ付、御米濡不損様及丈致手當候得共、上通之御米汐治相見、江候間、加賀能登地を心掛候得共難帆着、無據小木港を心掛帆下り候處、夜中殊ニ風波強御座候故、翌廿五日朝に至り候得は、佐州之地方も帆越候間、越後粟島江成共、帆着度心掛候内風波靜相成、同夜四ツ時頃ノ北風ニ罷成候間、猶又帆登翌廿六日小木港江入津、右汐濡ニ相成候御米見分を請、手入干立仕度旨上乘組一同并上乘共、同所宿問屋大坂屋五郎右衛門、以小木御番所江申出候間、其段相川御役所江注進仕候處、塔口彌右衛門、須田五右衛門出役被申渡候ニ付、私共一同立會乗船見分之上、汐濡ニ相成候御米爲引分候處、船損高千百九拾壹石八升壹合、此俵三千貳百拾九俵五升壹合之内、本米百拾八俵欠米百六拾五俵、合貳百八拾三俵之分俵斗り汐濡ニ相成、御米は濡損茂無之候間、則於舟中俵形の儘干立度旨申之候ニ付、願之通爲取斗干立、乗組之者共并上乘共呼出、小木港出帆之節、類船有之哉之旨吟味仕候處、羽州酒田港ノ之御廻米積請候、攝州御預千足屋平右衛門船并外船茂數艘、當四月廿三日小木港出帆いたし候ニ付、出船仕、尤翌廿四日南風ノ爲吹替候與、類船は何れ江罷越候哉、追々見失ひ候旨、且舟中ニ而御米

圍ひ方茂及丈致手當候得共高波打込上通之御米、自然與汐濡相成候段、私方之者申之候ニ付、上乘忠右衛門呼出、右之通汐濡ニ相成候始末、船方之者江對し願筋は無之哉、有躰可申上旨相糺候處、御米不濡様圍方之儀、船方之者供之種々致手當相働候得共、度々打込前書之通、上通之御米俵汐濡ニ罷成候儀、御座候間、船方ニ對何ニ而茂願筋無之旨勿論、此上海上無別條、江戸廻着仕候得は、前書之俵數上納仕、其節減米等之儀、聊相願候筋無御座候間、右吟味之趣、浦手形請取之、日和次第小木港出帆仕度旨、乘組一同上乘之者相願書付指上、外疑敷敷儀、茂相聞江不申、尤沖合之儀は不存候得共、船方一同并上乘忠右衛門申口、相違無之相聞候間、吟味仕候趣、委細在勤飯塚伊兵衛江申聞候上、浦手形相渡、五月二日佐州小木港出帆申付候、以上、

佐渡奉行支配、

小木御番所役、

寛政五丑年五月二日、

仙田 元之丞、

赤江橋次太夫、

植野徳右衛門、

地方掛り助、

須田雨右衛門、

小木御番所定番役、

藏田 友太夫、

太田 彦次郎、

廣間役助、

塔口彌右衛門、

鈴木喜左衛門殿、

御城米送狀、

大坂亀屋久藏船、

沖舟頭、喜太郎、

平岡彦兵衛様當分御預所、
出羽國村山郡福北村、

上 乗、左五兵衛、

廻船定差配、

佃屋勘左衛門、

楠松杉七年造、

一御城米五百五拾八石六斗四升九合、酒田港積、

●俵印、

此俵千五百九俵三斗三升九合、但し三斗七升入、

此譯、

米五百三拾石、

御城米、

丑六月三日酉刻酒田湊入津
六月廿一日御米積立

六月廿五日同所出帆
八月廿九日江戸着船

九月三日 瀧取

同 五日 水揚

同 六日 内掃

同 七日 本米

同 八日 切替御藏貳百三十四、貳百三十五番、

但、舟頭水主炊共ニ
拾六人乗

此運賃金百八兩貳分永百五拾文、但、御米百石ニツキ、金貳拾兩貳分、

金五拾四兩壹分、

御前貸大坂渡、

内金拾八兩、

御中貸積所渡、

金三拾六兩壹分永百五拾文、

御後渡江戸渡、

米貳拾八石六斗四升九合、

欠米、

此運賃金六兩三分永四文、

但、米百石ニ付壹割五分増共ニ金、廿三兩貳分永七拾五文、

内金四兩貳分、

三分貳酒田港渡、

金貳兩壹分永四文、

三分壹江戸渡、

外御助成銀御米百石ニ付銀四拾三匁宛、江戸着船之上、船中ニ而不束之筋無之候は、船頭水

主共江差配人ノ相渡積り、

港平均、實目拾五匁百七拾匁、升兩三斗九升壹合

一様俵貳俵、

壹俵、實目拾五匁三百目、升兩三斗九升壹合

但、布袋ニ入封印箱入封印、漆紙包油引結連包封印附

壹俵、實目拾五匁三百目、升兩三斗九升壹合

但、布袋ニ入封印之上、俵ニ入封印附

外米四拾七石、

根米、

百五拾數、

苦蕪、

外御城米本欠當三拾貳石四斗三升貳合、

平國彦兵衛様御分積合

一鐵碇、右同斷、

一網、右同斷、

一橋等、右同斷、

右者鈴木喜左衛門當分御預所、出羽國村山郡村々去子御年貢當丑春江戸ノ御廻米之内、書面之通船足極印限於酒田港積立之、今廿五日出帆申付候間、其御地着之上俵數實目升廻等御改、御請取被成候以上、

羽州酒田港出役、

鈴木喜左衛門手代、

寛政五丑年六月廿五日、

鯨井忠藏、

江戸本所錦町壹丁目、

鈴木喜左衛門手代、

石川清兵衛殿、

同六年甲寅正月、村山郡柏倉領代官瀧小右衛門、覺書ヲ管内ニ頒テ、農民ヲ戒飾ス、

〔柏倉役所文書〕

覺、

一公儀を重し、前々被 仰渡之趣急度可相守、村々廻村之砌我等は不及申、手代相廻節茂無禮不

致、縦他支配之衆通行有之候共、少茂無禮無之かひり物を取可致下座尤農業へ懸り田畑ニ居合候者は不及其儀候、且亦名主共儀は、村々支配いたし候様御役所へ申付、理非相糺候役ニ付、名主江對し其外之者共、失禮無之隨分尊之可申、畢竟支配地頭都而上江立候役人を尊之候儀は、則

公儀を重し候ニ當り、私之儀ニ而は無之候間、此趣意得と相心得可申候、然上は下々尊敬致候迎、名主共其外組頭百姓代迎茂、我意無之様下々を福はれみ、村方之爲ニ相成候義は、身ニ替候而茂出情可致、左候得は自然と下なつき治り方宜ク、公事出入等茂無之、聊之儀は利害申聞候得は、直ニ静り候様相成所長久之基ニ候、此段村役人共心得違無之様相守り、正路實躰ニいたし御用大切ニ相勤、村方穩ニ相治候様可取斗候。

但其身金銀田地等多候迎、同村之百姓江無禮等致間敷候。

一 御年貢納方之儀は、用捨難相成大切之事ニ付、相觸候日限通急度相納、期月已前ニ是非共出精いたし皆済可致候、若於延引は呼出し吟味之上、手鎖宿預等申付候様ニ相成候而は、當人村役人は勿論、親族組合迄難儀いさし、村入用相懸り一村之不益費重候間、兼而此段相辨納ニ不差迫已前ニ、五人組限納方之儀相糺置、無遲滯致上納家族江茂其段申聞安堵致候様可致候。

一 御廻米之儀、米性升目繩俵拵等随分入念、聊龜末之儀無之様取調、河岸出津出是迄仕來之儀茂可有之、御廻米納方取斗等之儀は、兼々被仰渡有之村々、承知致居可申候得共、此上共尙々嚴重ニ相心得、江戸御藏納之儀格別ニ目立候様、小前之者共江茂得と申聞、出情いたし早々皆済可致候。

一 村入用可相掛事、村方勝手ニ可成事は何品ニよらす可申出、糺之上可申付候、尤村役之者共村入用相懸様、平日勤辨可致、御年貢納方其外惣代ニ而相濟候御用向は、最寄申合費無之様可取斗候、役所ニ而茂晝夜之無差別承り可遣候、無益之逗留不致萬端心を用ひ可申候。

一 田畑茂所持いさし、家之福るしとして、妻子下人等有之候者は、其身取修第一ニつゝし、家内之風儀正しき事專一なるべし、且親類中よくむつましく、老人は輕き品を持、若きものは重き荷を荷ひ候様心得可有之事。

一天道を恐れ、

天下之御法度を慎み守り、父母祖父祖母夫々先祖茂存命ニ候は、猶同様ニ實心ニ善くつかへ、篤く大切ニ養育孝行可致、假初にも兪略あるべからざる事。

一 親たる者子孫江對し、いつくしみ深く教へそたつへし、愛子たり共其愛溺、氣隨我儘成事は爲致間敷候事。

一人之妻たるもの舅姑江對し、我親よりも猶尊く孝行をいたすへし、物ねたみの心なく、夫をいりにも大切ニ可致事。

一 兄弟伯父母は勿論、都而目上なる者江對し、大事ニ致深切を盡へし、年若男女等互ニ不儀之行跡、決而有之間敷、身持専ら正しかるへき事。

一 夫婦之間たさひ貧窮ニせまり候共、相互恩儀を相忘れ申間敷、いり様なる艱難困苦をもともニいたし睦く、尤不儀之行決而有間敷事。

一 其身不埒之義無之、自然と貧窮ニせまり、或は病人等打續き見繼候者無之候は、力之及候程

親類互ニ救合、見繼合力可致候、其身の富饒にて親類困窮を見捨候は、本たる先祖江對し申譯なりるへし、能々辨へ可申、親類ニかきらす其身格別富饒ニ候は、他人迎茂困窮至極なる者は、近所懇意なる者江は合力等尤ニ候事。

一奉公人は主人江對し忠儀を盡し、聊茂身勝手を働申間敷候事。

一右之通ニ而格別ニ主人江忠儀父母江孝行、或は奇特成る者有之は早々可申出候、無相違趣ニも候は、申上度義可有之候、名主五人組等専ら世話いたし、教訓有之度候事。

一元服婚禮代替之弘メ、四時之寄合等ニ而親類集候節、酒肴調候而は入用多相懸候間、有合之品用ひ亦た餅ニ而もつき、神佛先祖江供し手輕ふいたし、金銀を費事無之様ニ出會可申候。

但四時之寄合之儀は、親族之したしニ付、不絶様ニ致し家事之善惡を糺し、身持不宜者江は急度異見差加へ可申、尤驗物等は本文之通たるへし。

一先祖を祭候事、深切ニ可取斗候。

但其身平常邪見放逸にして、不儀不埒之身持等ニ而、借金をも不返、不正之利欲のミ致しなからにも不及法事等、或は分限不相應之供養等いたし候共、ケ様なる致方ニ而は、決而冥福には不相成儀ニ而候間、心ニ深く其祭る所之親先祖之事思ひ慕ひ、其恩儀を報し候實意より、身之分限を斗不勝手之ものは、夫々ニ齋米銀錢聊ニ而も誠之志を表し、寺江送りもの致し可然事ニ而、實儀より不致佛事は誠之無益ニ而、實心より致候事ニ候は、茶頭斗り茂誠供養たるへき事ニ候。

一名主長百姓は勿論、無役之高持百姓ニ而茂、家を大切ニ存子共ふびんニ候は、拾歳以後は分

量と定朝草を爲刈、晝之内は無他事爲致農業を可申候、手跡算用等は夜分業ニ可致、物讀手習等茂可成丈ケ出精いたさせへし、しりしなりら農人之農業とて、誠之職分ニ候間、農事ニ怠り候事は有間敷、其外は皆其餘事と心得可申事。

一物讀迎茂迂遠文字のミ讀覺候事は無之、農人は其身相應ニ心得ニも成候、假名物等ニ而も身のため心得のためニも成り可申候、大和俗訓諸子男子訓、家道訓、大和小學、百姓袋、是等は皆平かかニ而教ニ成り候ものニ候、農業全書是はひらかなニて十一卷有之候物ニ而、別而農人之心得ニ相成ル書ニ候間、高持百姓等は所持可致、稼穡之心懸可致候、孝經小學是等は唐土之書ニ而候得共、農人茂讀覺て、其儀理を茂知りさる人に承り候は、尤宜候、其外は詩作和歌俳諧等は何れも遊藝ニうつり、農業をうごみ他を浦山さるやうニ理害を可申聞、家業を危略ニ仕置候は、縦宜き事ニ而茂無用ニ候、且衣類等之儀は格別、御嚴重ニ被仰渡候間、急度可相守可申、名主長百姓年始其外ニ茂、麻土下着致候事、茂有之候間、木綿紋付壹ツ紋付帷子壹つたしなミ置、其外は染賃を不出島木綿を爲織用ひ、幼少之女子ニ而も、染賃高直成もの爲致着申間敷候、一村役人は勿論銘々家之主人可爲もの、朝は關ニ起自身表之戸を明ケ致掃除、手水うかへ濟候は、五穀豊熟を祈先祖を拜し、家事を取斗ひ食事之節は父祖ニ禮を致し、朝飯濟候は、召仕之男女を引連野江出可申候、一朝ニ而も怠り申間敷候、其身病氣又は無據村用等於有之は、妻子之内差添可遣候。

但し村柄を直したためニ候間、村役人高持百姓之親坏申合、野方をも見廻り、不精成もの江ハ異見を加へ可申候、尤右廻り致候もの名前、村々々可申聞置候。

一村内ニ居酒屋有之候得は、若きもの并召仕等、宿元農業江出候躰ニ而出宅致候而茂、酒屋江酒給農業ニ怠り、夫のミならず不宜事を仕出候間、居酒屋相止メ可申、廻藝者人形廻淨瑠璃かたり村内不差置、逗留をも爲致間敷候。

一近年別而博奕之儀、御嚴重之被仰渡も有之間、彌堅可相守、萬一博奕致候もの有之の品々可申出、嚴敷遂吟味伺之上、重キ御科可被仰付候、尤博奕宿不致様五人組限可致吟味、博奕は人之身上を潰し、惣而悪敷事之根元ニ付、前々より御制禁ニ候間、吳々可致吟味候、都而賭諸勝負致間敷候。

一公事訴訟無之様互ニ相慎可申候、必競争事は双方之内、いつれニ欺私事あるひの心得違有之、理ニくらく我情強きより事起り候ものニ候間、左様ニ私之心得違無之様、兼而心懸相慎可申候、別而不正之儀をたくミ候儀は、以之外之儀ニ候、或は其身ニ小才覺有之ニまりせ、公事出入之腰押致候ものは、其所を爲騒不益の物入を爲致、夫のミならず上を謀り科人を拵候ニ付、前々御科被仰付候、銘々身持を慎理非を考、天命公儀を奉恐候而人柄宜可致候、富饒成ル村方ニ公事出入は無之候、出入を企候ものの人を潰し、我も潰村を爲致、困窮一村之愁を引出候者ニ付、小前末々迄心得不違様態々可申付、萬一右躰之者有之の早々可訴出候。

一用水之手當悪水落等之儀、作方第一之事ニ付、毎年正月中途吟味、自力ニ及候分出精いたし、不差支様取斗へし、扱又川除普請たもち方宜敷様、致勤辨取繕可申候、若村請助成を見込候而、普請龜末致置候等相聞候は、急度可及吟味候、且小段江葭萱小竹植付柳をさし、用水悪水路之縁江可致差柳、居村水上ニ候共水下難儀存、平日無油斷可致手當、自分捨見之節勿は論、平月

手代を相廻爲見可申候、村之爲を存格別ニ打たまり、骨折致せ話候もの有之は名前可申出候。

一畑作物桑楮漆茶之四木、麻藍紅花之三草、其外先達而被仰渡置候在は宜品ニ而、百姓之爲ニ成候ものニ付、村役人共致世話爲植付可申候、尤四木之儀は根付之否年々可相届之、草在之儀は手代共廻村之砌、又は村役人御用席役所ニ可申出候。

但四木三草共土他ニよるへき事、惣而之植物草木ニかきらす、其土地を見斗ひ土地相應いふし、御益ニ茂相成り、其所之爲ニも相成候品相考可申候、是等之趣農業全書ニ委敷相見江候。

一御林有之村々は、晝夜心を付寄々見廻り可申候、木數改候節不足有之候得は、吟味之上重キ御科相成候事故、常々心懸見廻不埒之筋無之様可致、下草刈候共不埒之義無之様、末々迄申渡可置候。

一凶作等之趣、是迄は夫食拜借被仰付候得共、去酉年中格別之御勤辨を以、永年賦ニ被仰付候上は、向後拜借は被仰付間敷事ニ候得、村役人共打はまり兼而被仰渡有之候、貯夫食出情爲差出、萬一異變又は一兩年之凶作有之候共、不及飢様村中ニ貯置可申、尤貯物之儀は粃麥稗等ニ不限、諸雜穀之類、其外海付は海草、山付は葛蕨之根あるひの切于之類、都而夫食ニ可相成品何れニ而も貯置可申候、惣而人情豊饒之節、飢渴を忘れ候物ニ而、飢饉およひ俄うろゝへ候事、不覺悟成ル事ニ候、早つゝ候は、却而霖雨洪水之心掛ケあるへき事、霖雨之後は早と心得、却而四季之氣候ニよりにて、前方々豊凶之趣も相辨心得懸可申事。

但都而飢饉之節、夫食成品貯ニ可成品常々考、存付之儀は可申出候、田螺など干候而貯置も

右ヶ條之趣得と可致勘辨、畢竟奢ニ長し、百姓不相應之儀米錢を費候ニ付、次第ニ作物出來劣り、追年及困窮ニ候間、勝手を直し親を讓請候家居は、修覆を加江、田畑を増し子江讓渡候様勵と可申候、銘々家之掟正しく、父祖之教を守り候得は、自然と勝手も宜相續致候事ニ候、先祖の勝手宜候處、事故なく不勝手ニ成候義は、全不覺悟より身上潰候儀ニ候、右之趣辨へ居候者は、心得違之者江は深切ニ異見を加へ善道江導、主人ニ忠節を盡し親に孝をいし、格別所之爲ニ相成、公儀江茂御盡筋致格別奇特成ものは、前々名字帶刀御免、或は金銀等被下置候事ニ茂候之間、實意ニ忠儀又は孝行盡し候者、所之爲ニ成奇特成もの有之は、前條之通可申出其品吟味之上、品々申上宜御沙汰ニおよび候様、取斗遣可申候、右申渡之趣心得違無之様急度相守、無筆無算之水呑小百姓共江茂、名主組頭百姓代より、能々吞込候様得と爲申聞、其外老人子供ニ至る迄茂、能々行渡不洩様申聞、以來格別ニ村柄并百姓風儀、共ニ相直候様可致候、前々支配の定而申渡等も可有之候得共、支配之者共ハ誠ニ子之ことく存候事ニ付、可成丈所之爲ニ成候様に致度候、不依何事ニ心付之儀は品々可申出、且難儀之義有之實ニ相違無之趣は、吟味之上隨分致勘辨等可遣候間、物毎兎角正路致檢見村々は、年々檢見請候様ニ而は、其度々人馬諸失却相懸り、却而難儀之筋ニ候、尤變地之村柄ニは可寄事ニは候得共、村内寄々申合作方出精いし荒地等起返、往々は如元定免村々、立辰營ニ候様心懸可申候、必以不正之儀無之様諸事可致候、勿論吳々茂御年貢皆濟之事ハ、不斷心懸日限無相違急度上納可致候、此儀間違候ニおひてハ、少茂無用捨殿敷咎手領申付、其上ニ茂不埒之納方ニ候得は、江戸表訴出 奉行所江差出、

吟味之上御咎被仰付候間、精々納方無油斷可心懸候、猶又追々相觸可申候、右之通可相心得者也。

寛政六寅年正月、瀧小右衛門。

同年十二月、村山郡柏倉領代官瀧小右衛門、管内名主組頭ニ必須覺書ヲ頒布ス。
〔全上〕

爲心得申渡覺。

一 一年之心懸は早春之内ニ有之事故、農業は勿論荒地起返し、其外諸事自普請等之事迄、正月之始より名主は勿論、小前百姓迄無油斷工夫心懸ケいたし置、雪消候は、早々取掛り可申候、早春之油斷は最早時ニおくれ候得は、取返しかゝき事ニ候間、少しも油斷懈怠有之間敷候事。
一 年始ニは折羽双六あど、申より、寶引等錢賭いし候ものあど有之候得は、兼々急度申付置候之通、御法度通之御仕置は、少茂用捨無之事故、毛頭正月とても心ゆると有之間敷候事。
一 名主組頭たるものは、諸事其村方取治メ方第一之元ニ候間、小前之者心得違無之様ニ、兼々異見利害等可申聞事は勿論之事ニ候處、名主組頭勤なるを、却而小前之もの之心得違より申立候事ニなつと、我意申張候跡之者茂間々有之、以之外之事ニ候間、以來は一ヶ年之間之様子、年々得與ためし置賞罰相考、村内取締り方入念可相勤候、畢竟名主役は上より被仰付置候、村方重役之者ニ而、組頭役迎茂同様御用向等爲取扱、小前百姓よりも敬、諸事大切ニ可相勤答之處、村方ニ寄萬一村役を等閑ニ心得、猥ニ退役後役等願候儀有之候而は、村内取締り方不宜候間、

依而以來は名主役は勿論、組頭役共猥ニ退役不致、病氣等之ものは押而茂出勤致し、申合入念出情可相勤候。若此上名主役は勿論、組頭役等閑ニ相心得、勤柄不相當之者は、上江申上折々不意ニ茂退役可申渡ニ而候之間、其節ニ至リ俄ニ驚キ、又は上を恨ミ後悔致間敷候、兼而此段心得之ため申渡置候事。

右之段急度可相心得候也。

寛政六

寅十二月、瀧小右衛門。

同八年丙辰正月、村山郡柏倉領代官瀧小右衛門、管下郷村ニ訓諭シ、饑歲ニ豫備セシム、二月申ネテ之ヲ訓諭ス。

〔全上〕

御教訓并諸色貯品書。

一凡秋作之様子は、其前年冬至の頃よりの氣候、其春ニ成候得は、勿論夫より夏ニ至リ候得は、別而四時風雨之運ハニよりて、豊凶の程も兼てより斗り知れるものニ而、寒中時ならず東南之風等吹、暖ニ而雪薄ク候歟、又は春ニ至リ暖なるへき時節、却而雪霜氷等有之候歟、夏ニ至リ而も雨勝、又は時ならず北風等吹、冷氣ニ而は何れも不順成ル事ニ而、先は秋ニ至リ違作と知るへき也、たとへ秋のはしめ迄も順よく而も、俄大風雨洪水の患も難斗事故、いつれ田場上り刈り上ケさる内は、豊凶決しかさき事は勿論ニ候間、可成丈先は年々違作、夫食飢渴の備へゆるミ

なきにしくはなかるへし、違作の備へ致し置候而、存之外ニ豊年ニ候得は、彌ゆよりにて候間、一人ニ無油斷夫食之備は、別而春夏の間用意致し置、萬一飢饉ニ會候而も、餓死の患をまぬり候様、心懸候事肝要之事ニ候、凶作飢饉ニ及候而、俄にうろたへ候而も、米穀融通ニ不自由成ル邊土は、別而餓死をまぬかれがさく、誠ニ歎ケ敷事ニ候間、差かゝり候而は、其他之役人の力にも、救ひがたき事も有之候物故、其節ニ至りいか程歎き候而も、無是非事ニ而、其備なきは愚の至ニ候間、此所をおもんはかり、兎角ニ先以一人々我家々の、夫食の助糧ニ茂可成品の、用意いさす事肝要之事ニ候、米穀貯へ候程のものは、餓死ノ患も無之候得共、無高輕き百姓共等は、猶更其心懸無之候而者、目前飢渴ニも及候事故、春夏の間耕作之暇、無怠致用意置可然事ニ候、右ニ付飢饉之備可成品心附候品々、左ニ相記遣候間、悉く無油斷其備可有之候、尤此外ニも其方共存付候品は、惣而可成丈夫食の助之品ニ候は、何ニよらず園貯へき事專要ニ候。

一總而大小豆其外之雜穀、玉蜀黍等は勿論何ニ而も、夫食の助はかならず貯置、春夏の間は自ら野菜も多く有之事ニ候間、難貯品は、其時々相用、少も貯ニ相成候品は、必以猥ニ食用すべからず、豊年之節年々心懸ケ相貯候へは、世俗ニ彌塵積りて山と言ひ如し、數年之貯積りて壹年半年之夫食助成ニ可相成候間、豊年之内貯之品必無油斷出精いさし、相貯置可申候。

一卷丹は野山に多く有之候間、雪解次第根を掘り土をふるひ、洗上ケ廻りをりき取りて干したくじゆべし、其かき取りたる心をは、家々の庭などのかささらへ植置やしなひを致べし、左すれは又候秋迄には根肥て、翌年の用意と成べし。

一蕨の莖は春やわらり成うちは、可成丈刈取り干し貯置、根は夏の内掘りて粉ニいさし、多た

くわへ置べし、紫箕も同様之事。

- 一草薺も山ニ多く可有之候間、可成丈子共などニ堀らせ干置べし。
- 一薯蕷荷定芋も堀り貯置符の所はかき取て、家々のかさわらへ植置て殖すべし。
但零餘子なども、子共ニとらせ置干て貯置へし、是も久しく饑さるものよし。
- 一里芋可成丈かわかして貯置、莖も干て置べし。
- 一慈菇は溜り水苗代跡等へ、悉く植て殖すべし。
- 一南瓜冬瓜壺盧是等茂、夏の内はとよりニ食用いたさす、専ラたくわへ置、或は切干ニ致置も宜し、冬瓜は拂底と見へ候間、植殖度事ニ候。
- 一田螺は拾ひ集め可申旨、先年御觸も有之處、當郡中ニは無之旨兼而申立候得共、少ニ而茂有之候は、春のうち夏迄子共ニ言付拾ひ取ゆがきてからを去り干たくわへし、粉ニ致し食すれば久しく飢をしのき候物の由ニ候。
- 一夏饅たる飯なりとも、とよりニ捨へからず、糰ニいたしたくわへ置べし、煎候得は食用ニ相成候。
- 一韭蒜の根是又堀て貯へし。
- 一栗榛干柿等も凶年ニはなくさミニ食せず、夫食のかわりニ食せへし。
- 一其他澁柿多き土地ニ候間、大なる柿はへたを付皮をむき、六七日も能干しやわらかに成りたる時、能々もミ花落のりしらよてしんをもみ切り、手にてひらめ夫より十日程も干、又候能々もミ平め、風の入ざるよふニ箱え入、蓋をいさし置候得は白き粉を生し、いつ迄も貯可申事候。

ニ而、春ニ至賣出し候ても、格別之助成ニ可成事ニ候。

一右は上枝柿之致し方ニ而、小サ成ル澁柿は竹串無之土地故、荻の枝又は藤蔓江成共皮をむきて通し干申候、次第は同じ事ニ而箱江入、少も風の入らざる様に封し貯候へは、白き粉を生し、いつれもたもち、格別夫食ニ成候物ニ候。

但右柿より生し候白粉斗集め置、砂糖の代りニ用候而宜候、邊土は砂糖ニ宜敷候間、是又助成の一つに候。

一蕙茨仁野山ニ多く可有之候間、子共ニ言付多く取り殻を去り貯置へし、是は夫食のミならず殊之外薬ニ成ものニ候。

一甘藷植附之儀、去年も惣代共へも、格別ニ申付置候事、是は出来候得は薦ニ厚ク包ミ、寒氣を防ぎ候様ニいたし貯候得は、翌年春夏迄茂越久しくかこひ置、殊之外夫食ニ成候品ニ候間、求め候而植殖すべし。

一生ニ而も干候而茂貯置べき品々左之通り。

大根、切干、同干葉、午勞、胡蘿蔔、藜、地膚の葉、干貯、薊、干貯、萱、艸、花の八重なるは、薔薇、冠の葉、干し、五加、蜀漆、椴の葉、さい、かち、藤の若葉、忍冬、の若葉、是等之品々の内、常ニ多く有之品茂、飢ニ及候而は甚貴く、常ニは食用せざる品茂、飢候得は食用致事ニ而候間、常ニは敢て食用せざる品とて、悉ク貯置候得は飢饉之節、瓶の用ニ相成飢を助くべし、其節ニ至りては五穀ニひとしかりぬへし。
右之心懸ク春夏より秋作成就迄、少し茂怠らす心懸ケ候は、萬一飢饉ニ候而茂餓死をはまぬかるへし、此段郡中村々名主組頭等格別ニ世話いたし、無油斷用意致へし、此書面百姓共家

毎ニ寫し候而家々の壁にはり置朝夕見候而萬一違作の備へ怠るへからさるもの也。

辰正月、瀧小右衛門。

〔全上〕

申渡覺。

一五穀は勿論惣而蒔附候種物撰立格別實入宜を仕附候儀去卯秋精々申含候通惣而種子撰立方等閑ニ不致入念可申且蒔附時節を不後れ作方行届候様出精可致候。
一薺種油ニしほり候儀油菜殖し候儀薩摩芋植附候儀是又心掛無油斷相試候様出精可致候。
一當國は雪國之儀ニ付雪解後纔なら而は耕作之間無之事ニ付兼而村々如才茂有之間敷候得共當辰年之儀季候惡儀ニ茂無之候得共舊冬寒中雪も無之暖氣有之候處早春は雪も度々降余寒強ク候ニ付當辰年之季候如何可有之哉未々早春之儀ニ付難斗候得共世俗ニ雪は豊年之貢物與申候得共可降時節寒中雪無之春雪は萬一麥作紅花杯之差障り其外諸作之ためニは善惡如何可有之哉年中之心配り有度事ニ候勿論凶作飢饉之儀は稀成事ニ候得共出羽國之儀は海邊江遠ク何方江罷越候ニ茂山坂難所ニ而米穀者勿論諸品融通不自由之國柄故萬一凶作飢饉之節之心掛無之候而は其年ニ至り心懸候而茂詮無之事故何卒平常無難之年ニ心掛置候は、自ラ百姓難儀不致事ニ付今般右備之儀取調書付相渡候尤是迄時々申渡候得共其土地不相應坏與萬一申消し候もの茂有之候而は村々百姓共心懸も薄趣ニ相成候間心得違致間敷候第一飢饉之節は兼而申渡之趣等取扱候村役人又は長百姓等は先ツ者身元相應手當茂可有之飢饉之患茂有之間敷哉ニ候得共飢饉ニ逢候ものは第一小百姓并水吞鉢之者

專ニ可有之候然る上は此所能々勤辨いたし一通ニ心得申聞候而は等閑ニ可成茂難斗候間世話致し候甲斐も有之様村役人共急度相心得長百姓も小前百姓共江能吞込セ家族共相互へ朝暮無油斷一統實意ニ心懸致し飢饉之備有之様取斗セ度候ニ付則直筆ニ而認印形居相渡候間村役人共夫々不洩様披見致し小百姓共江認相渡讀兼候文字ニは悉くかな付いし相渡得與讀聞セ末々迄壹軒も不洩様取斗セ候様可致候委敷事は別紙書付相渡候間得其意銘々寫取實意ニ世話いたし取斗候様出精可致候畢竟ケ様ニ世話いたし候義百姓末々之爲其節之難儀難忍存候間申達ニ而候條心得違致間敷者也。

寛政八

辰二月、瀧小右衛門。

郡中村々、

名主、
組頭、
長百姓。

同十年戊午三月、幕府重テ人民ノ徒黨ヲ結ヒ、訴願ヲナスコトヲ禁ス。

〔幕府令條〕

總而申合徒黨を結ひ願事いたし候儀御法度ニ而前々御觸も有之たとひ尤なる願ニ候共徒黨いたし申立は御咎有之事ニ候處先頃も願筋ニ事寄セ私領ニても領主ニ對し不法に及ひ候向も相聞候右は畢竟通り者と唱ひ博奕等すゝめ或渡り商人無宿之類所之者共之願坏へ

腰押しいたし、又徒黨之儀等申進め、様々騒たゞせそのまきれに狼籍ニ及ヒ、盜など致へきた
めの手立とも有之處、右ニ欺りれ或不得止組し候類も候得は、支配之内穿鑿無油斷相糺、惡徒
共は他領他支配之者ニ候共召捕可申候。

前書之通、陸奥、出羽、越後、上野、下野國御代官御預所役人江申渡候間、爲心得申通候様ニとの
御沙汰ニ付相達候。

午ノ三月、

同年同月、藏増村名主忠吉以下連署、最上川堤防工事河身改修ニ關シ、他村へノ助役ヲ停
メ、専ラ力ヲ自村工事ニ盡サンコトヲ、漆山役所ニ請願ス。

〔藏増村文書〕

乍恐以書付奉願上候。

一私共村方之儀、近年最上川瀨向惡鋪罷成、田畑夥敷川欠ニ相成、既ニ居村近く欠込候躰ニ御座
候間、去々辰年奉願上掘割并、土手築立仕候ニ付、多分損地之場所起返御請申上、當午春ハ手
入可仕與奉存罷有候所、去已九月中大風雨ニ而、最上川并諸川之洪水仕、右御普請仕候築土手、
并水除杭木悉押流、尤築土手之儀者四五ヶ所破レ、當春ニ至リ雪代水又ハ雨降候得者、手入可
仕與奉存候へ共、地之場所ニ水面ニ押上、其後數日水たゞひ清水引候而も、跡地窪之場所ニ御
座候得者、手入仕様無御座候ニ付、猶又繕ヒ普請并水除杭木等奉願上候へとも、繕ヒ方之儀ニ
付申立候、輕之儀ニは難相成候旨、種々御利解被仰付候ニ付、一先差扣罷有之候へ共、前書付申

上通り、是非繕ヒ不申候而は、淋雨之時節ニ至リ候は、築土手難保皆流ニ相成可申、左候節は
是迄精々に御普請仕候甲斐無御座、勿論手入可仕原地之儀も、如元之打經置候ハ外無御座、款
ケ鋪奉存候間、農行之間を見合、可成丈ケハ自普請ニ可仕存心候而、御廻米御川下等相仕廻候
は、直ニ取懸リ可申奉存罷有候、前書奉申上候通り、助入足奉願上候而、茂御取用無御座候間、
自普請ニ仕候ハ外無御座、此上出情仕リ普請可仕候間、何卒格別之御勘辨を以、此上他村御普
請等御座候共、助入足等ハ御高免被成下、村方普請仕候様被成下度奉願上候、繕ヒ普請とは乍
申、小前之身ニ取候而ハ、大造之儀田畑耕し以前ハ、村方申合休日雨天之無差別、取懸出情仕候
而も、出來方之程無覺束奉存罷有候所、他村助入足ために日間を費し候は、中々村方普請は
行届申間鋪、左候節は五月淋雨之節は、猶々破果可申與款ケ鋪奉存候間、何卒御慈悲を以、他村
普請有之候共、助入足之儀は御除被成下、村方普請仕空地之場所江も手入仕候様相成、一同相
續と難有仕合ニ奉存候、右願之通被仰付被成下度、幾重ニも奉願上候、以上。

羽添村山郡藏増村、

寛政十年午三月、

名主 忠吉

全、新右衛門、

全、庄兵衛、

(組頭百姓代連印)

平岡彦兵衛様、

御役所、

同十二年庚申三月、幕府令シテ公私領沿川地、新二田畑ヲ開墾シ、川身ヲ狹小ニシ、爲ニ水路ヲ阻害スルコトヲ禁シ、又私領内田畑川欠地ノ再墾スヘキモノハ、御勘定所ニ具申シ指揮ヲ請ケシム。

七四

〔幕府令條〕

於國々新田畑之儀ニ付而ハ、享保并安永年中、被仰出候趣も有之候處、諸國川筋之儀連々押埋水行惡敷相成候間、自今以後諸國共ニ御領私領ニ不限、川通り之附寄洲を、新開ニ取立候儀者不及申、葭真菰等植出シ候儀、堅ク仕間敷、追々生立候場所、此上附洲ニ不相成様可心掛候、但私領之内古田畑川欠等ニ相成居候分、前後村方之差障も無之、起返ニ可取掛場合も有之候ハ、御勘定所江問合得差圖可申候、難相分義も有之節ハ、見分之者差遣ニ而可有之候、且又一統水源より海口迄、一領分ニ籠候川筋附洲之儀も、本文之趣ニ準シ可相心得候、右之趣可被相觸候。

三月、

同年七月、寒河江代官平岡彦兵衛罷ム、九月大岡久之亟代官ニ任ス。

享和元年辛酉六月、村山郡暴民蜂起ス、去歲以降米價騰貴シ、米一俵價金一分三朱ニ至ル、細民頗ル困苦ス、而テ富豪ノ徒往々米穀ヲ占買ス、訛言アリ山形四日町新五兵衛、三條目村小八、二人協力米七千餘俵ヲ占買セリト、細民最モ之ヲ怨惡ス、是ニ至リ最上川以東ノ諸村檄

ヲ傳ヘテ激動ス、寒河江領代官大岡久之丞其所管ノ響應センコトヲ恐レ、鎮撫頗ル力メ、且ツ寒河江地方ノ米價ヲ壹貫貳百文、質利ヲ壹割分ニ減セシム、戸澤富壽師ヲ出シテ、其領谷地郷北口ヲ鎮ス。

〔村山郡一揆記〕

一 享和元年酉七月一日、東山邊山寺ハ、北古畑河原ヨリ子沼澤、其外中郷迄大騒動起ル、天童四五軒程三丁目小八、澤渡角(コレ)其外少々、珍敷大騒動ニテ、數千人連立、川東大騒立あり、川西不出來、依之米壹俵壹貫貳百文、質利壹割五歩杯與壹ケ月程定。

享和元年辛酉年、出羽國村山郡百姓騒動、
一去寛政十二庚申年、最上邊以外凶作ニ付、穀類百姓一同取入致不足、御年貢米上納甚及難澁、迷惑いし罷在候、猶願石代御直段之儀も、殊之外高直ニ相立、格別致難澁罷在候處、當酉年ニ相成、二月下旬ハ段々米引上ケ、五月中旬ハ三斗八升入一俵ニ付、金壹分貳朱ニ相成候得者、誠以致難澁候得共、紅花五月下旬ハ映候得者、百姓騒敷事も無之罷在候處、紅花以外下直ニ而、其上一向ニ買人無之、去申年ニ引當候得者、三ケ一も手取り不申候様相聞ヘ申候内、米引下ケ候様子も相見ヘ不申、次第ニ高直ニ相成、右ニ付山形御城下ヘ、百姓大勢押寄打潰シニ參候趣、御坐候處、山形之御家中一統口々相固メ申候故、引去申候所々以外騒敷相成候内、廿三日之夜、天童南三本松與申原ニ、大勢ノ人集リ貝を吹所々ハ人を集メ、天童指テ參候様子相見ヘ申候間、御役所初町方ニ而も當惑いし、先ツ一日町口江、天童一同相固メ罷在候内、夜も明ケ

七五

方ニ相成候得ハ、不殘引去申候、然所處々ニ集リ、兎角打潰シ相談不相止相聞ヘ、日々心遣用心致し候處、猶又廿六日之夜、同所南三本松ヘ、大勢打寄貝を吹候得ハ、天童愛宕山ニ而合圖之貝を吹候間、村々ハ明松を以大勢集リ候様子、人數何千人集候哉、相知不申、其内夜明方ニ相成、又候引去申候、明レハ廿七日日色々之風聞ゆヘ、御役所ニ而も御無人之事ニ候得者、御心遣不得止事、町方固メ計被仰付、高島表ヘ時々様子爲御知之、御飛脚被差立、町方ニ而ハ何れニも了簡ニ及兼、村役人共相談を以、此上安直段米差出候ハ、相鎮可申哉と心付、壹俵金壹分ツ、之相塲致し、町在方ヘ爲知罷在候内、夜ニ入又々愛宕山ニ而貝を吹候ゆヘ、甚町中致騒動、一日町口を固メ罷在候處、格別騒敷様も相見ヘ不申候得ハ、如何與存居候處、天童御領分芳賀村、門傳村、荒谷村之人々、又候大勢三本松江集リ候様子、追々注進參リ候、今晚ハ土屋但馬守様御領分、三條目村小八方江打寄候風聞有之候與、注進之者御役所ヘ申上候、右ニ付三ヶ村ハ、猶又様子見届ニ差遣候處、如何致候哉、其節ハ引取申候間、何事モ無之様子ニ相見ヘ候ニ付、一日町固メも引取申候處、又久野本村ハ森子ニ今晚大勢打寄候様子ニ相聞候段、注進有之候處、猶又愛宕山ニ於て貝を吹立候ゆヘ、又々打寄セ候哉與、所々手配致し候得共、一向様子も相見ヘ不申候間、是ハ定而いゝつらニ貝を吹候事與存、一先ッ町方休息致候内、無程町方ハ注進有之候者、北山郷ハ大勢明松ニ而、人音相聞候間、注進申上候と申ニ付、早速罷出様子見届候所、久野本村指而押寄候様子ニ相見ヘ、茨崎村口より山家村口ヘ押寄候、人數何千人共可申程、殊之外大人數相見ヘ、久野本村ヘ押寄來リ、明石八兵衛與申者、家土藏其外諸道具等散々ニ打崩し、切ちらし、朝五ッ時迄山郷之者共、顔をさらし罷在候、夫ハ亂川村三蓋段與申原ニ陣を取り、久野本村ヘ申遣

候ニハ、我々共朝飯之支度致吳候様ニと、青柳清兵衛平塚六兵衛方ヘ、同類之内兩三人參リ、若し延引ニおよひ候ハ、明石同様ニ可致之由申之、挨拶承リ度迎相居リ候間、兩家ニ而も承知之趣ニ及挨拶ニ、早速青柳平塚ニ而朝飯之支度、酒杯迄大勢ヘ相送り、爲給申候、其上ニ而田村常安寺相願申遣候ハ、此末米直段之義ハ、可成丈下直相拂候様申合取計可申候間、何分用捨致吳候様と申述候處、承知之趣ニ而、右之場所廿八日晝九ッ時立退キ、東根村指而罷趣候與相見ヘ、尤亂川村名主元ヘ立寄、村中ハ人足差出候様申聞、若シ不承知及延引ニ候ハ、村中不殘燒拂可申旨申之ニ付、無據村中人足ニ罷出候様子相聞ヘ申候、夫より猶又若木村亂川村同様申聞候間、是又名主方ハ村中ヘ相觸候而、人足差出候様承リ申候、夫ハ東根村江參リ候處、四谷村與申所、東根村寺方不殘、并村役人共初都合五拾人計出向、右之者共ヘ申聞候ハ、其元達東根村ヘ罷越候赴承候ゆヘ、是迄皆々罷出候ハ、何分各方願之赴村方ヘ申聞、爲相叶可申候間、當村之義ハ用捨致吳候様與達而相願候處、左候ハ、天童同様米直段ニ、相拂可申様ニと申聞、村内ニ相扣居晝時ニ相成候得者、酒飯等夥敷持運ビ爲給申候由、其節柳さや道與申村、新六與申者、少々得徳成者ニ付、是を目掛參リ候由申之ニ付、東根村近村之義ニ付、田村寺方參リ、是又相願候處、得心致候哉、村内ハ通り抜ケ候得共、右新六方ヘハ差障リ不申、夫ハ後澤村尹助と申者方ヘ參リ、大戸明ケ無二無三ニ家内ヘ踏込、家財諸道具ハ勿論、土藏切崩衣類等散々切ちらし、其上酒藏ヘ懸リ六尺桶斧ニ而切割、多分酒川之とく流捨申候由、斯而其日も暮方ニ相成候得ハ、是ハ伊野澤村利兵衛ヘ押寄候と申ニ付、寺院方又々一兩人罷出、吳々相願候處、承知之趣ニ而、利兵衛ヘハ懸リ不申候由、同夜又々天童町江南山郷ハ押寄候様子、取々ニ風聞有之候ニ付、色々

手段いゝし、三寶寺佛光寺兩善行寺自性院和光院相頼、天童之儀は何れニも願之通ニ可致候間、寺院方何分宜取扱被下候様ニ、町内一同相頼候處、被致承知早速一日町口迄罷出扣居候處、三本松與申所ニ數萬人押寄、夫々無間も門傳村へ罷出、天童指而押來候所へ、右寺院方出向申聞候者、各願筋有之候は、我々共承届町内へ申達し、何様之義ニ而も任其意可申間、此所引取給り候様、吳々申聞候得共、一向承知無之様子之所、再應相頼申候得、左候ハ、米直段之義、三斗八升入壹俵ニ付壹貫文宛ニ相拂候ハ、其儘ニ可差置候得共、左も無之候而ハ承知難相成候旨申候ニ付、何分願之通取計可申候間、承知致吳候様相詫候得者、大勢之事故中ニハ不承知之者も多分有之候、何れ存念之通可致迎、數萬人大聲上ケ打潰候而、其上者兎も角も了簡可致與、真先ニ一日町穀屋武助并甚兵衛兩人散々ニ打潰シ、甚兵衛、甚六ハ表口計打毀、夫々穀屋六兵衛方へ參り、家土藏其外諸道具不殘打破り、衣類等夥敷切さき、其上ニ而右申候通、米直段壹貫ニ相拂候ハ、最早爰切ニ致し歸り可申與申候ニ付、寺院方罷出、最早約束之通取計可申與申聞候得、何れも人々申談候様子ニ而、然ハ是ハ退キ可申候得共、皆々空腹ニ相成候間、爰元ニ而食事致し、夫々三條目村小八方へ押寄候間、飯ヲ出シ爲給酒を爲吞候様ニと申ニ付、此義不承知候ハ、又々如何成義致し候も難計ニ付、任其意酒食等夥敷差出爲給候得、其上ニ而先立之者共、芳賀村名主方へ罷越申候ハ、是ハ三條村小八方へ押掛り候間、村中より人足差出可申、若及遲滞ニ候ハ、名主初村中不殘燒拂可抔申と申ニ付、是ニ恐れ無據村中へ觸出し、人足差出候由、夫々門傳村清池村漆山村、高櫛村、七浦村、千手堂村、都合七ヶ村へ參り、如右之申述ニ付、村々ハ人足差出、依之數多之人勢ニ相成候上ニ而、小八方へ、同廿九日朝明ク六時ハ押掛

り、家土藏散々ニ切ちらし、質物等夥鋪三ヶ所へ取出シ積重置燒拂、其上質物ニ入置候、紅花荷物八九駄程有之候を取出、庭前水溜へなげこみ、其上隠し置候諸帳面諸証文尋出し、高々と讀爲聞不殘燒拂申候、同村之内左平次與申者、小八聲ニ候間、同人ハ衣類等預り置候哉と存候而、小八同様打潰、夫々近村灰塚村與申所ニ、小八縁者庄太郎と申者有之候得者、是又小八ハ衣類等ニ而も預り置候哉と存付散々打潰、同人兄弟並近所二三人、灰塚村ニ而都合五軒打潰、其後山形御城下江差掛り候所、同所ニ而ハ口々相固メ、侍中並人足等夥敷被差出、遠見所々へ罷出候而、追々注進有之候處ニ、無程銅屋町口江押寄候躰、右之通村々名主へ斷、青柳長町其外山形近村不殘、人足爲差出候ニ付、誠ニ數萬人相成、沖野原馬見崎河原へ相詰メ候、人數夥敷相見へ、廿九日晝九ツ時過山形御城内ハ、御物頭御町奉行初、其外大勢御侍中騎馬ニ而御詰被成、右之者共へ被仰聞候ハ、其方共ケ様ニ徒黨致候義、定而深キ願筋有之候義與相聞候、何事ニ不寄相望筋可申聞、取上可申段被仰聞候へハ、相答候ニ私共當時米直段高直ニ付、甚以難澁仕候、此上命も失ひ候外、凌方無之候ニ付、無據ケ様之仕業仕候、此儀ハ四日町新五兵衛並三條目村小八申合、米七千俵餘も買置申候而、一切賣出し不申候段承知仕、扱々殘念至極奉存候、不得止事如斯大勢相催、小八新五兵衛私共存分ニ仕度段申上候得ハ、御役人申被仰候ニ其方共願之趣尤ニ相聞候、乍去早速ニハ難取計候條、一先此所を引退吳候様ニと被仰聞候得共、一向承知不仕固メ之場所切破り踏込候ゆへ、大勢之御足輕被れ、馬上之御侍中下知ニ隨ヒ、切掛打合候處、七浦村之者壹人、長町村之者二人、沖之原村之者壹人、東山村之者壹人、五六人即死手負夥敷有之、上郷之内、山寺村之者六人、下郷之内ニ而六七人被召捕、右之内山寺村藤藏善七、落合村國

平次右三人頭取之由、此者は早速逃去候趣相聞申候、斯而其夜は一先ッ沖野原村引退候、猶又夜之内廻文を以最上一統ニ相詰メ、翌朔日馬見ヶ崎河原へ相詰候所、誠何萬人と申人勢ニ相成候所、江寒河江村御代官所大岡久之亟様、御手代衆兩人馬見崎河原へ御出被成、山形御役人中御内談之上、來十日迄ニ何れ共、其方共願之通致可遣候間、此塲所引去り候様被仰聞候得は、得心仕候而其處は退散致候得共、夫々山形南郷江押懸參り、物持之分は不殘踏込狼籍仕候風、聞承申候、右大勢山形へ相詰メ居候内、別段ニ天童ヶ北郷之者共多分之人數ニ而、山口村儀左衛門與申名主方へ、朔日之夜押寄家居土藏等散々ニ打潰、其上若松村本壽院へ參り、家藏は不及申家財諸道具等夥敷切ちらし、其上色々成諸品紛失等有之候様ニ承り候、其後山家村江罷越、右同様之始末之所、同日朝五ッ時天童善行寺并奈良澤村長龍寺、右兩人被申候ニは、先達而之天童同様ニ米直段引下ケ相拂可申間、此段承知致吳候様ニ相詫候所、是又承知致候上、食事相望候間、則山家村ニ而酒食共用意之上、粕塚と申所へ持運ひ爲給申候由、是又々山形沖之原村へ打寄、一手ニ相成可申、坏與相談相決候由、其後柴橋寒河江尾花澤三ヶ所、御役所ヶ仙臺表松平政千代様江御加勢御頼被成候趣ニ而、此節追々御加勢三ヶ所之御役所江、五六百人程も相詰メ候様ニ相聞申候、其外仙臺口笹谷峠へ、大勢ニ而相固メ被成、猶又天童表之儀は、高島御屋敷ヶ御人數、都合百二三十人余も被差越、勿論徒黨之者は、利害御申聞被成候而も、不用狼籍候は、無用捨玉込ニ而鐵砲御用ひ被成候趣、御下知有之候由、漆山御役所は上杉彈正大弼様御預り所ニ付、是又多分御固メ勢被差越相固居候、谷地北口ニは新庄戸澤富壽様ヶ御人數大勢相詰メ、尾花澤御役所へは柴崎榮之助方ヶ差遣候、人數百人餘相詰メ候趣ニ而、此上

如何様成事ニ相成候哉、最上一統之騒動ニ御坐候、乍去追々徒黨人共被召捕候上は、穩ニ相成可申哉、中々此度之一件は難畫筆紙、先ッは荒々様子申遣候、猶又委敷所は追々可得御意候、以上、
羽州村山郡村々、徒黨之儀ニ付御届、

昨七日三河口太忠ヶ御届申上候、羽州御領私領徒黨一件之儀、喜左衛門御代官所、久之亟御代官所、其外秋元但馬守、土屋但馬守、堀田大藏大輔領分等へ亂入仕候儀ニ而、早速手附手代差出、并太忠儀は在陣中ニ付、近村迄出張仕追々相糺候處、去月廿七日夜中、何方之者共ニ候哉不相知、數百人徒黨いゝし、天童町續久之亟御代官所、久野本村八兵衛與申者宅へ亂入いゝし、家財諸道具等打破り、及狼籍夜明方右村方引取、同廿八日白晝ニ東根山内へ罷越、同人御代官所、後澤村尹助與申者居宅圍、其外酒造藏等打破り、猶又夜中天童町四五軒、織田左近將監領分之内、澁江村字三町之目與申所、小八與申者居宅をも打破り、翌廿九日山形城下銅屋町江押掛り候所、秋元但馬守家來等差出相防、城下へは亂入不仕候得共、徒黨人ニ怪我仕候者も有之赴ニ而、寄候徒黨之者は、同所向字沖原與申所扣居、其外近邊御料私領村々追々打破候趣ニ而、何れ手負等も出來仕候義ニ付、山形城内へも亂入可仕体ニ而、一手は去月廿八日朝新田裏通り、大岡久之亟御代官所、六田村先八幡林へ集り、後澤村尹助宅打破、同廿九日夜若松本壽院、山口村儀左衛門、河原子村江も亂入仕、山形へ寄候人數、當月朔日晝時頃ニは、人數夥敷相集り、山形城内へ堰込候用水路立切城内之香水等不自由いゝし候、巧ニ而亂入之躰ニ相見へ候由、追々手附手代等差出、支配所村々之内、決而不相出候様嚴敷申渡、取締方仕候得共、徒黨人等、足差出候様申聞、不差出候は、家財燒拂、村方へ亂入可仕坏と申候ニ付、右ニ恐れ内々ニ而、村々人數差

出酒食等相送り候趣も相聞へ、何程制候而も右躰之儀を相恐れ、内々ニ而人數差出候儀故、支配ニ而も取計方迷惑仕、殊ニ小人數を以取押候儀は難相成、支配百姓共集り取押候而も、萬一不退候節は、徒黨人共勢ひ強く相成可申、茂難計、利害申聞候而も、却而手向ひ可仕躰ニ而、山形城下ニ而手疵請候者有之、右を意恨ニ存山形江之用水路、切城内吞水絶シ、押詰亂入之躰ニ相見へ候程之義、追々人數も相増候趣ニ而、徒黨人共は脇差を帶、斧鎗等持候者も有之、多分は棒を持石礫を打候由、騒々敷儀ニ而未太忠支配へは亂入不仕候得共、此上最上一圓亂入之取沙汰ニ御坐候所、秋元但馬守儀は、城下ニ右躰之儀有之、堀田大藏大輔土屋但馬守、織田左近將監、酒井大學頭共、出張陣屋ニ而、人夫不足之趣ニ而、戸澤富壽儀は近領ニ候得共、陣屋等も所々ニ有之人數不足之程も難計、松平政千代城下之義は、里數近キ方ニ付、別紙之通、松平政千代家來江、人數差出取鎮候様掛合遣申候、依之申上候、以上、

西七月八日、

大岡 久之丞、印

鈴木喜左衛門、印

三河口 太忠、印

御勘定所、

一御用番松平伊豆守様江御届、

近頃羽州邊米直段高値故、買置候者も可有之、與相疑、米商買仕候者、家居打潰可申由、右人數江相加り不申候者も有之候は、家居可打崩旨を申、百姓躰之者追々近邊へ相集り候風聞仕候處、去月廿八日朝、人數貳千人余も、他領天童村邊江押寄、騒立、翌廿九日但馬守山形城下、町

米商買之者打潰可申候由ニ而、同所銅屋町地先他領沖野原與申所迄押來り候ニ付、城近キ場所故、人數差出爲制、利害申聞候得共、一圓相用不申、夥敷石礫を打拔身等持、米相場格別引下ケ可申、左茂無之候は、家居打潰、又は燒拂可申段申之、理不盡ニ銅屋町へ亂入仕候ニ付、召捕手向ひ候分は、無是非手疵爲負候處、其内相果候者も御座候處、右始末ニ驚候哉、追々他領馬見崎與申所へ退散候間、手當人數引取申候處、翌朔日又候、沖野原邊江屯候ニ付、如以前人數差出候得共、他領千歲山麓江相集り、追々不殘退散仕候、以後城下へは立入不申候、尤打潰候家居無御座候、召捕又者手負等早速手當申付候、則別紙名前之通御坐候、取鎮候上早速申越候ニ付、駈與不相分候、委細之義は追而御届可申上候、但馬守旅中ニ付、先此段申上候、以上、

西七月九日、

召捕人覺、

菅沼久兵衛、

鈴木喜左衛門様、

御代官所、

山本村、

手負 佐 兵 衛、

當西四十四才、

荻野堂村、

藤 藏、

當西四十四才、

二本堂村、

長 吉、

當西三十二才、

三河口太忠様、

御代官所、

中野村、

直 吉、

當西十六才、

同 村、

長 藏、

當西二十三才、

土屋但馬守様御領方、

落合村之内、

沖野原、

手負、忠 兵衛、

當西五十五才、

同 村、

長 太、

當西五十才、

光明寺領、

中野村、

手負、又 次、

當西廿七才、

大岡久之丞様、

御代官所、

永町村、

手負、甚 之助、

當西五十五才、

七浦村、

死去、喜 之助、

但二腕半分程肩、背中心へ横壹尺程切疵、

織田左近將監様御領分、

青柳村、

太 郎 八、

當西五十二才、

中野目村

豐次郎

當酉二十二才

堀田大藏大輔様御領分

山家村

茂七

當三十一才

所生不知

即死 壹人

但左ノ肩ノ胸江懸長九寸程胸横ニ四寸程切疵

右之通名前荒増認差越申候以上

秋元但馬守家來

酉七月九日

菅沼久兵衛

一御用番松平伊豆守様江左之御伺書差出候處同十三日御附札相濟

先達而御届申上候但馬守在所羽州山形城下銅屋町江去月廿九日近郷之百姓共大勢押來及狼籍候故不得止事拾六人召捕候内手疵負候四人外ニ貳人は深手ニ而相果申候右死骸並召捕置候者共此上如何取計可申哉但馬守在邑ニ付此段奉伺候以上

秋元但馬守家來

七月十一日

菅沼久兵衛

御附札

死失之者は死骸一通り見届候上最寄寺院へ假埋致置疵人は養生申付其外之者は道中手當いたし菅沼下野守方江差出候様可仕候

一御用番松平伊豆守様御宅江左之御方様御家來御呼出ニ而左之越被仰渡候由

羽州米澤

同鶴ヶ岡

上杉彈正大弼様

酒井左衛門様

奥州二本松

羽州新庄

丹羽左京大夫様

戸澤 富壽様

奥州福島

羽州上ノ山

板倉 内膳正様

松平山城守様

今度出羽國村山郡百姓致徒黨及騒動末相募候由依之御代官大岡久之亟鈴木喜左衛門三河口太忠下知次第人數手當致置早速差出無用捨玉込鐵砲相用取鎮候様可被申付候

七月六日

先達而御届申上候羽州村山郡村々徒黨一件之義山形邊ノ天童下迄騒動仕此上如何様成變事出來可仕哉茂難計先達而申上候通松平政千代方人數差出取鎮之義申遣候處追々御領私領共取締嚴重ニ申付候義ニ候哉當月四日頃迄ニ人數も引拂候得共種々風説等有之未人氣不穩此上變事も無覺束猶又取締方嚴敷申付候政千代も人數領分境笹谷峠迄差出候得共人

數相繰込候而者徒黨人共恐怖、又々騒立之儀も難計ニ付、人數者笹谷峠ニ差扣、時宜寄進退之義懸合候積り申遣置候、右一件之儀私支配所之儀者、種々手配仕亂入等も無御坐候、鈴木喜左衛門、並大岡久之亟方へ掛合候而者、手間取候間先徒黨人數引取之儀、私一名を以申上候、以上、

西七月、

三河口太忠、

一御用番松平伊豆守様江、松平山城守様御届、

秋元但馬守領分、羽劔村山郡山形近郷米穀高直ニ付、御料私領村々百姓共數千人致徒黨、所々及狼籍候由之處、去月廿九日但馬守城下、銅屋町與申所江致亂入候由、但馬守手當之人數差出、取鎮利害申聞候由之處、不相用礮を打刺得物持手向ひ候ニ付、可成丈召捕手ニ余り候義は、無據手疵爲負深手之者は相果候者も有之由、然處私領分同國同郡中野村百姓、直吉當酉十四歳ニ罷成候者召捕候段、但馬守様家來、私在所家來共迄申越候ニ付、右直吉親萬吉與申者喚出致吟味候所、其節直吉草薙ニ罷越候得共、夫見物ニも參候哉、外ニ何之心當も無之由申聞候段、在所表へ申越候、委細之儀は但馬守へ可申上候得共、近領騒動之儀、其上領分之者も召捕候義ニ御座候間、此段御届申上候、以上、

西七月十七日、

松平山城守、

羽州村々徒黨騒立候者共、引取相鎮候ニ付御届書、

先達而御勘定所へ御届申上候、羽州村々徒黨一件之義、夥敷騒動仕、如何様變事出來可仕哉、茂難計ニ付、松平政千代方へ人數差出、取鎮之義申遣、追々御料私領共取締方嚴重ニ申付、勿論私支配所之義は徒黨人共寄集り候、土屋但馬守領分落合村之内、沖原最寄數ヶ村有之候ニ付、爲

取締之手附手代共廻村仕、當月朔日院役村々長町村江罷越候節、右沖ノ原へ相廻り候處、徒黨之もの共凡壹萬人余も屯致、往來通路不相成候間、御用ニ付長町へ罷越候條、道を開キ候様申聞候處、御用向與申ニ恐れ候哉、道を開キ候ニ付、徒黨之者共願筋も有之候は、承り届可遣候間、長町村旅宿へ罷越候様爲申聞、右之處罷通り同村江着仕、猶又取鎮方之義勘辨候處、大人數之義ニ付、逆も荒立候而は、尙更騒立候様ニも可相成ニ付、縦不聞請候共、理害申聞候外有之間敷被存候間、隣村役人共出シ委細申含メ、前書之沖ノ原へ差遣、私手附手代共は長町村ニ旅宿致罷在候間、願筋有之候は、可罷出旨所々驅歩行、申觸立歸り候處間もなく五拾人計、右村江罷越願筋有之候由申聞候間、早速手附手代罷出願之趣相尋候處、米穀高直ニ付米酒直段、並買物利分引下ケ之義、田畑養ひニ用ひ候、油粕米糠等中買相止メ直賣ニ致度、其外去申年御物成米之内置米之分、此節御拂被仰付候共、又は新穀引替へ之積りを以拜借被仰付候共、仕度右者秋元但馬守城下山形町重も之義ニ付、同所懸合吳候様申之候、右五ヶ條願之内四ヶ條は、評議之上取計可遣候得共、置米之義は容易ニ難及沙汰ニ申聞候處得心致、左候は、沖ノ原へ罷越、殘之者共へ右之趣申聞候様申之ニ付、罷出候者共村名前等相尋候處、最上之者ノ由相答名乗不申候間、強而も相糺可申義ニ御坐候得共、左候而は又候騒立候義も可有之哉ニ付、無其儀右之者共召連沖ノ原へ罷越、銘々願五ヶ條之内四ヶ條は、何れ共取計可遣旨申聞候處、一同得心いたし、早々山形江掛合吳候様申之ニ付、同所へ罷越但馬守役人へ應對之上、徒黨人共願之趣申談候處、取鎮り候義ニも候は、何分評議ニ相洩申聞敷旨挨拶ニ付、沖ノ原へ引返シ但馬守役人掛合相濟候得共、御料私領江懸合相待、夫迄はいつれニも致取續早々引拂候様理害

申聞候處承知納得いたし、朔日夜八ツ時頃迄ニ追々引拂候間、右之處見届、猶又山形へ罷越、徒黨之もの共不殘引拂候趣、但馬守役江申談候處、同所最寄千歳山邊ニも時之聲相聞候間、是又取鎮吳候様申聞候ニ付、直様同所へ罷越候處、壹人も不罷在、堀田大藏大輔領分下櫻田村ニ而五百人計、并本木鳥居前ニ千人程罷在候間、沖ノ原徒黨人共江申聞候通、理害申聞候處、是又心得いたし引拂、同四日頃迄ニは、一鉢ニ相鎮候趣ニ者候得共、種々風説等も有之人氣不穩候間、尙又取締方嚴敷申付、政千代方々差出候人數も、領分境笹谷峠ニ入爲差扣置候處、追々人氣も穩ニ相成、此以後騒立候義も有之間敷候間、太忠方申合同十二日人數引取候様ニ懸合候積り、且又徒黨人共願之趣は、理非不抱、取上不申筋與相辨罷在候得共、手附手代共爲方便日數十日を限り、願筋取極可遣旨精々利解申聞、相鎮爲引退候儀ニ付、其儘差置候而は又々可騒立も難計、人氣穩ニ相成候一助ニも御坐候間、願筋取上ケ候與申ニは無之候得共、御料私領申合米三斗五升入壹俵ニ付、總壹貫貳百文の高直ニ賣拂申間敷、酒は米相場ニ引合、相應之直段ニ賣渡可申、并田畑養ひニ遣候油粕米糠も、中買相止メ作人へ直賣ニ可致、質物利分之儀も、金貳拾兩ニ付壹ヶ月金壹分宛々、高利ニ致間敷旨取上御料私領へ申觸候段申越候、委細之義別紙取計伺ニ申上候得共、徒黨人數引取相鎮り候ニ付、政千代役人へ懸合、文通寫添此段御届申上候以上。

酉七月、

右之通菅沼下野守江届書差出候間、寫を以此段御届申上候以上。

酉七月、

大岡久之亟、印

御勘定所、

羽劔徒黨一件ニ付、松平政千代方々差出候人數、引拂之御届書、

昨十九日御届申上候通、羽劔村々徒黨騒立候者も追々引取、最早此上騒立候義も有之間敷ニ付、松平政千代方々差向候人數引拂之儀、三河口太忠鈴木喜左衛門方申合、當月十二日右人數差扣罷在候、兩通之内、輕井澤之方は喜左衛門陣屋最寄ニ付、同人手代罷越掛合候積りニ而、笹谷江は太忠并私手代共罷越、政千代家來江懸合之上、場所爲引拂申候、依之御届申上候以上。

酉七月、

大岡久之亟、印

朱書、

右之通今日菅沼下野守江御届書差出候間、寫を以此段御届申上候以上。

酉七月、

大岡久之亟、印

御勘定所、

同年七月、若松村福性院來吁院連署、暴徒等同村本壽院ヲ濫防セルコトヲ、立石寺中性院ニ具進ス。(翌二年ニ至ル語) (書送ニ取録ス)

〔立石寺文書〕

若松村本壽院方江大勢罷越、家財諸道具等

被打毀候一件、(享和元酉年七月)

口上書ヲ以御届申上候御事、

昨夜何もの共不相知、人數貳百人位與相見得、理不盡ニ本壽院方江押寄、家並土藏四ッ悉打破、明六ッ時山家村之方江引取申候、委敷儀は追而可申上候、外ニ一山之内別條無之候、此段御届申上候、已上。

七月朔日、

福性院、
來吁院、

御役者、

中性院主、

以切紙致啓上候、彌御堅固被成御勤珍重奉存候、然者其御支配若松寺妻帶本壽院、家財諸道等迄去月廿九日夜、大勢罷越打毀候段届出候ニ付、其筋江喜左衛門、相伺候處、見分可致を被仰渡候ニ付、明廿四日朝五ッ時出立、拙者共之内爲見分罷越候間、爲御立合御壹人、同日若松寺へ向御越被成候様いゝし度候、右之段可得其意如斯御座候、以上。

七月廿三日、

鈴木喜左衛門手代、

小林權六、

鯨井忠藏、

立石寺、

御役人中様、

本壽院口上、

當酉五拾六歳、

當六月廿九日夜私居宅家財諸道具等、被打毀候節之始末御糺ニ御座候。

此段私儀家内拾三人暮ニ御座候、然所六月廿八月夕方、誰と申ともかく、私方へ打破りニ大勢參候趣風聞御座候得共、居所は勿論他所へ對し、意趣遣恨等請候程之覺無御座候ニ付、取沙汰而已之儀と相心得罷在候所、同廿九日夜九ッ半時、隣村山口村儀左衛門居宅打毀候趣及承候所、無程近邊へ大勢之聲音仕候ニ付、打驚罷在候所、何方之者ニ御座候哉、大勢私方へ罷越、理不盡ニ居宅外圍等打破り候ニ付、家内ニ罷在候而、怪我等有之候而は、不宜義と相心得、家内之もの不殘召連、裏之方畑中へ遁去候儀ニ而、其後之義は一向辨不申、畑中ニ隠忍罷有候所、無程明方ニ相成候所、大勢之者とも不殘引退候様子ニ付、居宅へ罷歸候而已ニ而、大勢之内見知候もの逆も無之、其外手掛ニ相成候義決而無御座候、勿論私并家内一同怪我等は不仕候。

右之通相違無御座候、已上、

西七月廿四日、

本壽院、甲

鈴木喜左衛門御手代、

小林權六殿、

前書之通私立會承届候處、相違無御座候、以上、

立石寺役者、

中性院、

差上申一札之事、

一桁行九間半梁間三間外三間四方之小座敷附之居宅外圍壁板張不殘打破。
 一戸四拾六枚障子貳拾六枚襖拾七枚打破。
 一天井不殘打破。
 一柱貳拾六本斧疵有之。
 一疊五拾九疊切破。
 一大釜貳ツ其外勝手ニ而相用候諸道具不殘打破。
 一佛檀土藏之中悉打破莊嚴道具并大般若入箱書籍箱壹ツ打破外紛失之書物在之由。
 一夜具入長持貳棹。
 衣類入箆筒三ツ。

是は土藏へ入置候所悉打破相殘候衣類不殘切破紛失衣類品々有之由。
 一土藏三ヶ所。

内 壹ヶ所 是は家財諸道具入置候所不殘打破。

貳ヶ所 是は前後戸前打破入置候品は材木板桶類之雜物ニは一向構不申候。

右は去月廿九日夜八ッ時百姓躰之もの大勢罷越私居宅家財諸道具等打破候ニ付其段御訴申上候所今般爲御見分被成御越逸々御見分御坐候所書面之通り相違無御座候已上。

子七月廿四日 本壽院印

鈴木喜左衛門御手代

小林權六殿

前書之通拙僧罷出立會見分見届候處相違無御座候以上

立石寺役者 中性院

覺

- 一真鍮花瓶 大小貳個
- 一同 香爐 壹個
- 一同 かね皿 臺共ニ貳個
- 一同六角ゆせん 壹個
- 一同 唐銅香爐 壹個
- 一同 火鉢 壹個
- 一同 南京香爐 壹個
- 一書物 品々
- 一掛物 壹幅
- 一刀 三腰

内 壹腰拵附 貳腰白鞘

一脇差、但拵附、六腰、
 一印籠、貳個、
 但壹個唐印籠銀金具、
 根付緋朱緒江珊瑚掛、
 一革巾着、壹個、
 一ゐんでんごうらん、壹個、
 但根附共ニ、
 一綸子男袴、壹個、
 一白衣男綿入、壹個、
 一羽二重御納戸茨男綿入、壹個、
 一黒袖袴、貳個、
 一袖綿入、四個、
 内、鶯色五個、黒貳個、
 一黒袖羽織、貳個、
 一同袖、貳反、
 一縮男帷子、三枚、
 一木綿男合羽、貳個、
 一青梅島女袴、壹個、

一縮緬御納戸茶女綿入、壹個、
 一絹女袴、壹個、
 一純子女帯地、壹筋、
 一女帯、貳筋、
 内、壹筋萌黄縮緬、壹筋荏色縹子、
 一花色縮緬腰帶、壹筋、
 一布かつき、壹個、
 一小紋縮緬羽織、貳個、
 一男帷子、貳枚、
 内、壹枚は小紋付、壹枚はしま、
 一木綿小紋附男單物、壹枚、
 一絹、但花色貳反形付壹反、三反、
 一白絹ふとん表裏、貳枚、
 一木綿、貳反、
 但ひんらうし壹反、白壹反、
 一黒天鷲織合羽裝束、壹個、
 一木綿風呂敷大小、三個、
 一斧、三丁、

右は去月廿九日夜私方打毀之節紛失之品書面之通相違無御座候以上。

酉七月、

若松寺、

本壽院、印

鈴木喜左衛門様御手代、

小林權六殿、

前書之通私立合承知仕候、以上。

立石寺、

中性院、

寒松院、

圓覺院、
住心院、

羽州信解院配下修驗本壽院江去六月廿九日之夜何者とも不相知大勢押寄本壽院居宅并土藏四ヶ所打破明方引取候由信解院より届出候付脇坂淡路守殿江御届申候然處怪我人之有無其外ニ怪敷儀も無之候哉相糺可申聞旨被申聞候依之怪我人之有無并怪敷儀有之候は、早々申出候様其院ハ信解院江可被送候、以上。

八月朔日、

一簡致啓上候然者從執當衆別紙之通申來候間怪我人之有無并怪敷儀等茂御座候は、委細御書附早々御差出被成候様奉存候右得御意度如斯御座候恐惶謹言。

寒松院、

八月二日、

慈

祐花押

信解院 様

追而秋冷相催候處彌御安全可被成御渡珍重奉存候本書得其意候儀早々御取計御座候様奉存候、以上。

以切紙致啓上候然者此度徒黨一件爲御吟味評定所留役吉岡虎次郎様秋月德之進様被成御越寒河江於陣屋追々日々御呼成御吟味候處右一件御吟味相濟候迄其御朱印地百姓之分、猥ニ他國出等致間敷段御達申候堅御達ニ付此段從拙者及御掛合候、以上。

十月朔日、

小林權六、

立石寺、

御役人中様、

乍恐以書付奉窺候寒河江御陣屋元ハ御差紙到來仕左之通御座候尋儀有之間明二日朝五ツ時迄寒河江陣屋江罷出可相届もの也。

十月朔日、

秋月德之進、

吉岡虎次郎、

羽劔村山郡立石寺領、

山寺村名主組頭百姓代壹兩人、

右之通吳々到來仕候右之御役人様方は御勘定之御留役衆中ニ御座候相見候委細之組頭共江奉申上候、以上。

十月一日、名主、金兵衛。

御役所、

差上申御請證文之事。

此度徒黨一件爲御吟味、御評定所御役人様被遊御越、寒河江於御陣屋追々村々御呼出、御吟味御座候ニ付、右一件御吟味相濟候迄は、百姓共猥ニ他國出等仕間敷段、被仰渡承知奉畏候、依之請印差上申處如件。

享和元年酉十月、

- 名主、金兵衛。
- 組頭、惣右衛門。
- 全、權兵衛。
- 全、喜右衛門。
- 全、曾平。
- 代孫八。
- 百姓代、多助。
- 代彌平次。

立石寺様、

御役所、

乍恐以書付御届ケ奉申上候。

從、管沼下野守様尋儀有之候間、壹ヶ村より村役人壹人宛、小前惣代壹人當月廿三日迄罷出、

可相届方御差紙ニ御座候得共、山寺村與斗上中下之無差別、殊ニ當領之儀御書分も無之候得共、去秋中々追々騒動爲御吟味、御召も御座候儀故、今般百姓代彌平治外ニ百姓壹人、明十五日出立爲仕候間、此段御届ケ奉申上候、以上。

- 名主、金兵衛。
- 組頭、惣右衛門。
- 全、權兵衛。
- 全、喜右衛門。
- 全、孫八。
- 百姓代、彌平治。

立石寺様、

御役所、

貴簡致拜見候、如仰向暑之節御座候得共、彌御安全被成御渡珍重奉存候、然は此度管沼下野守殿方差紙ニ付、其御寺領并若松寺領之もの出府候ニ付、執當中江御届書罷遣之則差出申候、右一件此度落着、何れ茂歸村之様子ニ御座候、依之貴答旁如是御座候、早々恐惶謹言。

五月三日、

寒松院、
慈、祐花押

信解院様、

以切紙致啓上候、然は羽州村々徒黨一件、寒河江於陣屋御吟味中、諸入用之内徒黨ニ加り候、村

々ニ而、村役ニ可引繼品々、是迄寒河江郡中會所ニ而取替相勤居候處、此度一件落着被仰渡相濟候ニ付、右村役之品々割合いたし候間、御寺領山寺村役人壹人來り、十七日寒河江江罷出郡中於會所立會勘定之上、村役ニ而割合被下差出之様、村方御申渡御座候様可申候、右之段得御意如此御座候、以上。

寒河江御陣屋、

五月十日、

秋山右抹郎、

立石寺、

御役人中様、

以書付御届申上候、

一私共去月廿三日江戶着仕、則刻 御奉行所江着届仕候、尤本壽院榮運病氣ニ付、出府仕兼候ニ付、代海音坊引受罷登候趣、口上を以御届奉申上候所、其趣書付ヲ以可相届旨被仰渡候ニ付、左之通書奉差上候。

乍恐以書付奉願上候、

一羽劔村山郡山家村本壽院榮運代海音坊奉申上候、右榮運儀病氣ニ候は、篤籠ニ而成共當廿三日迄ニ可罷出旨、御差紙頂戴仕奉畏候得共、去九月中、中症相煩、此節ニ至り病氣差重ク取臥罷在、誠ニ九死一生ニ而言舌相譯不申、種々藥用仕候得共、全快之様子も相見不申、難義至極仕罷在候間、恐多御儀ニ奉存候得共、右之仕合故拙僧代引請出府仕候、勿論去酉十月中寒河江御役所ニ而も、榮運病氣ニ付、右榮運忰式部罷出、御吟味奉受候程之儀ニ御座候ニ付、中々以

御當地迄出府難相成候間、無是非拙僧代ニ罷出候、御尋之儀者無御差支御答可申上候、御慈悲ヲ以願之通被仰付被下置度奉願上候、以上。

戊四月廿三日、

海音坊印

御奉行所、

右之通以書付奉願上候處、榮運代被仰付同廿七日御召出被仰渡趣、左之通り、

一山家村修驗本壽院榮運儀、徒黨人共押寄せ家居打毀候節、紛失致候品之内、川原子村金次其外之者共持歸り、刀脇差衣類等村内長六市郎取戻候由ニ而持歸り候ヲ内證ニ而請取置、御吟味ニ相成候而も有躰申立候而は、右之者共可及難儀哉與推量ニ而、其節代ニ差出候忰式部江申付、行衛不相知坏與、一旦相違之義ヲ申立候始末、不埒ニ付、逼塞被仰付候、

一右同人忰式部儀、紛失之品々内證ニ而取戻候段は、得與乍相辨親榮運任申同人代ニ罷出、一旦相違之儀ヲ申立候始末、不埒ニ付、急度御叱被置候、

庄助長六市郎江被仰渡趣、

一川原子村小原寺萬溟、北目村百姓龜右衛門、山家村百姓市郎、海音坊弟長六、名主兼帶組頭庄助義、近村々之者共及徒黨、山家村本壽院打毀候、上川原子村太郎其外貳人、刀脇差衣類等持歸り候段及承り、小原寺江呼寄内々相糺、又は右村三六も、脇差一腰持歸り候由ニ而、内々差戻度段小原寺江申聞候、一同内證ニ而請取差戻、且庄助は山形町江押寄セ、徒黨人共疵受加勢願之旨認之、無名之廻狀到來致候ヲ順達致候始末、旁々不埒ニ付、庄助は過料錢三貫文被仰付候、萬溟外三人は御叱被置候、

右之通去月廿七日於 御奉行所被仰渡候、御請印形奉差上候、已上。

寺社御奉行所江、海音坊奉差上候書付寫。

私儀本壽院榮運病氣ニ付、代引請罷出候所、同人儀不埒在之逼塞被仰付候段、被仰渡奉承知候、右之趣早速歸村仕榮運江申聞、於彼地爲慎可申候、仍而御受書差上申候如件。

享和二戌年四月廿七日、 若松寺領、

羽劔村山郡山家村、

天台修驗、海音坊、

御奉行所、

前書申上候趣拙僧義は一同罷出奉承知候、依之奥書を以申上候、

上野執當代、

千妙房印

右之通書付奉差上歸村被仰付、當月四日江戸表出立、一昨十三日歸村仕候、依之書付ヲ以御届申上候、已上。

戌五月十五日、

本壽院伴、

式部印

若松寺、

海音坊印

御役者、

中性院主、

以剪紙致啓上候、然は喜左衛門支配所山寺村下組百姓先達而徒黨一件ニ加り候もの共、去月中右村役人江戸表へ御呼出、夫々御仕置被仰渡、相濟もの共之内、百姓傳右衛門伴松之助外四人^{所方}不持之田畑家居敷家財欠所被仰付、右取計候様喜左衛門方江被仰渡候ニ付、拙者儀此節出役之上相糺候處、右五人之内善三郎新藏兩人儀は屋敷取持不致、喜左衛門支配所同村百姓權次同彌兵衛 御寺領之地所坏罷在、右之内善三郎は權次所持之屋敷畑致借地、利藏江者彌兵衛持地兩人共致家作足候もの、由村役人組合之もの共申立候、彌右申立候通善三郎新藏共、御寺領之地所所持不仕、權次彌兵衛持地之内致借地、^{不明}候ものニ相違も無御座候哉、村役人御糺否御報被仰付候様いたし度奉存候、右之段可得御意如此御座候、以上。

五月廿日、

相澤領右衛門、

中性院 様、

神山嘉藏様、

別紙之通於菅沼下野守殿御達候間、左様被相心得右之趣從其院可被達候、不宣。

五月廿日、

圓覺院、

立石寺、

淨林院、

追而御請之儀は其院迄申出候趣、其許々自分方迄被申越候様存候、以上。

御請書、

若松寺領羽州村山郡山家村天台修驗本壽院儀不埒之儀有之當四月廿七日逼塞被 仰付置候處當月廿八日逼塞御差免被成候間其段彼地江申遣榮運江申聞候條可仕旨被仰渡奉承知候仍御請書如件

享和二戌年五月廿日

上野執當

圓覺院代

千妙房

寬融印

御奉行所

同年同月、米澤城主上杉治廣、御預所郡奉行片山一興ヲ漆山ニ派シテ、其所管ヲ鎮セシメ、且ツ其領内ヲ警戒ス。

〔村山一揆記〕

七月七日最上表ニ於テ、去月下旬ヨリ、山形領ヲ始公私ノ百姓共、一揆ヲ起シ處々亂妨ノ由漆山御代官ヨリ注進ニ付、御預所郡奉行片山紀兵衛一興、伏嗅五人、御手明以下棒足輕五人、御手明以下鐵砲足輕五人、大筒召連御預所へ出張、

享和元年七月七日、此度最上百姓騒動之注進有之候ニ付、諸組江心得方被命之、

口達手扣

最上百姓騒動之注進申來候付、村山郡御預所漆山陣屋江、片山紀兵衛被差遣候處、先以御預所

村々者、無別義由此上之事ニ候、併右騒動は于今不鎮候由追々注進有之、此上何篇之儀も可有之歟、萬一御加勢頼等申來候者、御勢可被差出、尤右騒動も鎮りてらよは有之由ニ候得共、まだ無覺束由も申來候得ハ、油斷も不成事ニ候、其時ニ臨てハ或一組或一手、又ハ諸手取合て可被差向候歟、其事ハ事之大小人數之多寡ニもより候儀、其時之御沙汰次第之事ニ候得共、諸組各心得のため此度之事にも不限儀、承知旁出仕を幸可達置旨被仰出候間、同役同列支配下等江も可被達置候、

七月、

最上騒動ニ入候盜賊等、隣領江散候由之風説有之候、實左も有へき事ニ候、斯る此節油斷すましき事ニ候、町々村々申合夜廻いたし、不審之ものあらは遂吟味、怪敷ニ極り候は、召捕町奉行所江出せへき事、

七月、

同年同月、幕府公私領ノ農商苗字ヲ用ヒ、大刀ヲ帶スルコトヲ禁ス。

〔幕府令條〕

百姓町人苗字相名乗、并帶刀いたし候儀、其所の領主地頭ハ差免候儀は格別、用向等相違候とて、御料所ハ勿論他領之者共、猥ニ苗字を名乗せ、帶刀いたさせ候儀者有之間敷候間、堅可爲無用候、

七月、

同年同月、物價騰貴暴徒蜂起セルヲ以テ、御料所寒河江代官私領左澤代官ト議シ、令シテ米以下諸物價ヲ低下セシメ、請書ヲ徴シ以テ人民ヲ安堵セシム。

〔西村山郡史〕

去月十一日頃、何となく物騒敷候處、廿日過ハ天童邊、山形邊、別而騒敷大勢相催、在町所々及狼藉、其後引續所々騒敷、今以人心不相鎮候、右者米直段高直等之故ニ候間、此度最上一圓御料私領申合、米直段其外當時左之通相心得可申事。

一米三斗五升入壹俵ニ付、鑑壹貫貳百文より、高直ニ賣拂申間敷候。

但本文者置方直段ニ而、山形之分は里方直段ニ、駄賃等見込致賣可申候。

御料所御陣屋、百姓徒黨取鎮之人數等申來候得者、致出張候事候、其節人足大勢入用候間、及沙汰候ハ、早速人足引連可罷出候、尤人足多少時宜寄可申達候、各爲心得申達置候。

酉七月廿日、彌太夫(左澤代官)

惣大庄屋中、

差上申御請書之事、

一米三斗五升入壹俵ニ付、鑑壹貫貳百文ハ高直ニ賣買仕間敷候段被、仰付奉畏候、此節當地米

不足ニ付、里方ハ買入壹俵ニ付、百三拾文之駄賃を相掛候間被、仰渡候御直段江、駄賃入壹俵

ニ付、鑑壹貫三百文賣買仕度奉願上候、仰渡奉畏候、米直段江引合見候

得ハ、酒壹升ニ付七十貳文賣買仕度、此段奉願上候、

一田畑養ニ遣候、油粕米糠等中買相止メ、作人江直賣ニ可仕旨被、仰渡奉畏候、

一質物利分金廿兩ニ付、壹ヶ月ニ壹分ツ、ハ、高利不仕候段被、仰渡奉畏候、

右者此度御觸之趣被仰渡、村々小前もの一統承知仕候處、相違無御座候、依之村惣代連印を以御受一札差上候、以上、

酉七月、

惣名主、連印

大泉次郎右衛門殿、

同年十月、幕府代官吉岡寅次郎、秋月藏造等ヲ寒河江ニ派シ、代官大岡久之丞等ト暴徒ヲ裁決セシム、幕府米澤城主上杉治廣ニ命シ、師ヲ出シ之ヲ護セシム。

〔村山郡一揆記〕

十月十三日、最上騒動ニ付、先達テ江府ニ於テ、御勘定奉行ヨリ令達之續キ、昨夜御役筋ヨリ早々人數可差出旨申來ニ付、伏嗅頭中津川信右衛門秀將上下カテノツケ、五人徒目付二人、伏嗅八人町奉行同心五人、足輕十五人、今日出張ス、右之面々へ御令條モ不相渡ニ付、花戸善政宅へ召出、心得ノ令達大略左ノ如シ、

一今度ノ御用ハ天下ノ御用也、忠勤ヲ抽セヨ、

一御家ノ御名ヲ汚スナ、萬事律儀丁寧ニセヨ、

一捕者ストモガハツニスナ、

- 一 今度ノ御人數信右衛門へ御任ナリ、信右衛門カ下知ヲ背クナ、
- 一 公儀御役人衆へ慮外スナ、幾ハクモウヤマヘ、
- 一 旅宿トイヘモ萬事ヲ慎ミ律義ニセヨ、
- 一 如何様ノ申分アリトモ、喧嘩口論スナ歸テ申出ヨ、
- 一 今日發足スルヨリ歸ル迄酒一切無用、

右申渡之外ニ、秀將并ニ徒目付へ何もノ勤方善惡ニ心ヲ付、ヨキハヨキ其有ノ儘、惡キハ其ア
シキノ有ノ儘ヲ書記置、歸ノ上可申出旨演達アリ、其後十月廿日江戸台御役人衆四頭、御下リ吟
味有之、其上江戸表迄大勢相登、遠島村拂等被仰付、向郷(川東)村々過料錢五貫十貫ツ、被仰付
候、右者寒河江御役所ニおゐて、御裁許有之候、吉岡寅次郎様、秋月藏造様、

同二年壬戌四月、幕府更ニ去歲村山郡暴徒ノ首領ヲ處分シ、請書ヲ各代官各領主以下ヨリ
徴收ス、是ニ於テ處分全ク定ル、

〔全上〕

差上申一札之事、

羽劔村山郡村々百姓共及徒黨所々歩行家居相毀候一件、再應御吟味之上、左之通被仰渡候、
一 山寺村下組百姓傳右衛門粹松之助、百姓新藏、百姓喜内養子紋藏儀、米高直ニ付穀屋共を打毀
候者、直段引下可申與村內多藏事、善三郎任申同意致し、新藏者家毎ニ申繼又者爲觸繼、近村一
同最寄荒谷原字三本松江致會合、天童一日町六兵衛、澁江村小八宅を可打毀段、藤藏善三郎任

差圖重立申勸、夫々押寄家居打毀、且高橋村外貳ヶ村ニ而者、酒飯等爲差出其上松之助紋藏申
合、引請及掛合米下直ニ可致旨之書付取之、且亦落合村國平次事市右衛門任申旨、山形町江押寄
米直段下ク、其外同所四日町新五兵衛宅を打潰度段強而申立、礫打及狼籍手負死人出來逃去
候上、北郷村々江宛加勢之人數差出し、吳候様認候廻狀を、風間村ニ罷在候兵右衛門、松之助
請取致順達、村內字一ノ門江集罷在、沖ノ原江可相詰旨、無名之廻狀到來いたし候、藤藏善三
郎一同重立同所江走參り、御代官御手附御手代中御越被成候節、茂市右衛門兵右衛門藤藏ニ
附添、俱々聲高ニ願筋等申立候始末、頭取ニ差續不届ニ付、新藏紋藏儀遠嶋被 仰付候、松之助
儀も存命ニ候ヘ、遠島可被 仰付所病死仕候間、其旨可存段被 仰渡候、
一切畑村百姓伊兵衛養子運七儀、徒黨相企又者頭取候者共、申合候儀者無之候共、近村々々一同
及騒動所々附添歩行、澁江村字三丁ノ目小八宅打毀候節、後れ罷越候上、諸道具類江火を懸
有之内、脇差一腰持歸り、隱置候始末、不届ニ付入墨之上放被 仰付、村役人江御引渡被遊候旨
被 仰渡候、
一 山寺村、上東山村、下東山村、高野村、大森村、上萩野戸村、下萩野戸村、中里村、切畑村、風間村、青野村、七
浦村、長町村、院役村、十文字村、清池村、高橋村、漆山村、貫津村、植野村、大野村、山家村、青柳村、荒谷村、
芳賀村、藏増門傳村、灰塚村、千手堂村、奈良澤村、落合村、双月村、澁江村、原町村、百姓共義、山寺村善
三郎新藏等重立、安米買請度候者可罷出、若於不能出者家居打潰、又者可燒拂坏申威し、追々觸
歩行候者有之、怖敷相成候、致同意、右村最寄村々之者共は、一同荒谷原字三本松江會合い
し、山寺村藤藏善三郎等ニ附添、天童町六兵衛、澁江村小八、其外之者共打毀、高橋村外貳ヶ村ニ

而者、酒飯等差出、米下直ニ可賣拂段申懸書付取之、山形町江押寄強而願筋等申立、手負死人出來一旦逃去、又候院役山家双月三ヶ村一同、落合村字沖ノ原江致會合罷在候始末、都而重立候者共任申候儀と者乍申不届ニ付、右三拾三ヶ村江村高ニ應し、過料錢七百六拾四貫文被 仰付候。

一右山寺外三拾貳ヶ村名主組頭百姓代共儀、銘々小前之者共制し候をも不取用、一同及徒黨候始末者、大勢之儀不及力、并徒黨人共任申、米下直ニ可賣出旨之書付差出候段、無余儀筋ニ候得共、右之次第申立候而、一同可及難儀旨有躰不申立、殊ニ上東山、下東山、高野、中里右四ヶ村者、沖ノ原江相詰候様認候、無銘之廻狀到來致候を致順達、或者小前之者共、右廻狀取扱候儀を乍存、押包罷在候段、旁不埒ニ付、上東山、下東山、高野、中里右四ヶ村名主共者、過料錢五貫文ツ、組頭共、同三貫文ツ、被 仰付、百姓代共者急度御叱り、山寺村外貳拾八ヶ村名主共者、過料錢三貫文宛被仰付、組頭百姓代共者急度御叱り被置候。

一關根村、行澤村、釋迦堂村、妙見寺村、前田村、上寶澤村、下寶澤村、平清水村、小立村、本木村、百姓共儀、中郷村々々共及徒黨、安米買請度候は、俱々可罷出、若不罷出おひて、上郷江も押寄、家居相潰又者可燒拂、杯申之候趣、追々承り傳へ、最初者可相防手段ニ而、村順ニ申繼、或者一村限ニ申合、妙見寺村外ノ野合江走集候節、徒黨人共押寄、猶又申威し、怖敷相成候趣、小立本木兩村一同致同意候始末不届ニ付、右拾ヶ村江村高ニ應し、過料錢百貳拾貫文被 仰付候。

一右關根村外九ヶ村、名主組頭百姓代共儀、銘々村方小前之者共、徒黨ニ加る間敷段、情々申付候を不取用、一同徒黨ニ加り候始末者、大勢之儀不及力段、無余儀筋ニ候へ共、右之次第有休申立

候而、小前之者共可及難儀と押包罷在候始末、不埒ニ付、名主共、過料錢三貫文ツ、被 仰付、組頭百姓代者共一同、急度御叱り被置候。

一天童一日町甚太郎儀、米穀買、等致候儀、無之候共、酒造之儀ニ付而者、度々御觸有之過造難成段、乍相辨利徳ニ拘り、多分の過造致候段不届ニ付、酒造諸色御取上所拂被 仰付候。

一右町名主組頭百姓代共儀、酒造之儀ニ付而は、前々度々御觸有之候處、申付方不行届、町内甚太郎多分之過造致候始末ニ相成候段、一同不埒ニ付、名主は急度御叱り、組頭百姓代共者御叱り被置候。

一山形四日町新五兵衛儀、米穀買、致候儀者無之候共、酒造の儀ニ付而者、前々御觸茂有之、株式借貸之儀者不相成處、致忘却同所宮町彦左衛門任申、四拾石之酒造株借請、其上造方少く候而者、助成薄く候、過造致間敷段、御觸之趣、乍相辨利徳ニ拘り、多分之過造致候始末、旁不届ニ付、酒造諸色御取上所拂被 仰付候。

一右町名主組頭共儀、酒造之儀ニ付而、前以度々御觸茂有之候所、申付方不行届、町内新五兵衛借り株、又者過造致候始末ニ相成候段、一同不埒ニ付、名主は急度御叱り、組頭共者御叱被置候。

一同所宮町百姓彦左衛門儀、酒造株貸借難相成段、御觸之趣、致忘却、造高六拾石之處、得與糺茂不致四拾石と心得違、四日町新五兵衛江貸置候始末、不埒ニ付、過料、錢五貫文被 仰付候。

但以來造高六拾石と可相心得旨 仰渡候。

一右町檢斷組頭共儀、酒造之儀ニ付而者、前々度々御觸有之、株式借貸者難相成處、町内彦左衛門御觸之趣、忘却いゝし、四日町新五兵衛江貸株致置候始末ニ相成候段、申付方不行届不埒ニ付、

檢斷者急度御叱り、組頭者御叱り被置候。

一 沼澤村關山村、觀音寺村、野川村、澤渡村、新町新田、亂川村百姓共儀、及徒黨穀屋共を可打毀段、沼澤村壽仙發言致し申勸候、同村の者共最寄向原江相集り、關山觀音寺野川右三ヶ村茂同意いとし、久野本村友吉宅江押寄打毀、猶又亂川村新町新田之者共、一同ニ相成後澤村尹助宅を打毀、澤渡之者共も同様徒黨ニ加り、所々押寄行候始末、都而重立候者共任申候義とハ乍申、不届ニ付右七ヶ村江村高ニ應し、過料錢百貫文被仰付候。

一 右沼澤村外六ヶ村、名主組頭百姓代共儀、銘々村方小前之者共、及徒黨大勢之儀制候をも不相用、不及力段者無余儀筋ニ候得共、右之趣有体申立候而者、一同可及難儀ハ押包罷在、殊ニ沼澤關山觀音寺野川澤渡右五ヶ村は、山形町江押寄候徒黨人共疵請、加勢頼候旨認候、無名之廻狀到來致候を致順達、且つ關山村役人共身元も不知久助を、村内明家ニ差置き候儀も有之、一同不埒ニ付キ關山村名主者過料錢拾貫文、組頭共は同五貫文ツ、百姓代は同三貫文、沼澤觀音寺野川澤渡右四ヶ村名主共ハ同五貫文宛、組頭共ハ同三貫文宛被仰付、百姓代共者急度御叱り、新町新田亂川村名主共者、過料錢三貫文ツ、被 仰付、組頭百姓代共者、一同急度御叱被置候。

一 後澤村尹助儀、酒造之儀ニ付而者、度々御觸茂有之過造難成段、乍相辨利欲ニ拘多分之過造致候段、不届ニ付、酒造諸色御取上所拂被 仰付候。

一 山口村百姓藤七、忤權次儀、村内平四郎任申、米穀致所持候者共宅可打毀旨、太郎金次一同申合、近村々々之者共をも申威し、同意爲致河原子村次郎七宅江礮打、又者山口村儀左衛門山家村本

壽院を茂打毀、押寄步行候始末、頭取ニ差續不届ニ付遠嶋被 仰付候。

一 河原子村百姓清三郎忤太郎、同六助孫金次儀、權次同様組取ニ差續、近村々々を申勸め押步行、其上本壽院を打毀し候節、手元ニ有之候刀、并衣類等持歸候始末、不届ニ付、太郎儀者遠島被

仰付候、金次儀も存命ニ候得者、遠嶋被仰付候處、病死候間、其旨可存段被 仰渡候。

一 同村小原寺萬溟、北目村百姓龜右衛門、山家村百姓市郎、海音坊弟長六、名主兼帶組頭庄助儀、近村々々の者共及徒黨、山家村本壽院を打毀候上、河原子村太郎外貳人、刀脇差衣類等持歸り候段、承およひ、小原寺江呼寄内々相糺、又は右村三六茂脇差一腰持歸候由ニ而、内々差戻度段、小原寺江申付候、一同内證ニ而請取本壽院江差戻、且庄助者山形町江押寄候、徒黨人共疵請加勢頼候旨認候、無名之廻狀致出來候を順達いとし候始末、旁不埒ニ付庄助者過料錢三貫文被 仰付、萬溟外三人ハ御叱被置候。

一 山家村修驗本壽院永運儀、徒黨人共押寄家居打毀候節、紛失致候品之内、河原子村金次其外之者共持歸り候、刀脇差衣類等村内長六市郎戻し候由ニ而、持參り候を内證ニ而請取置、御吟味に相成候而も、有体申立候而者、右之者共可及難儀と推量り、其節代ニ差出候忤式部江申付、紛失物行衛不知杯、一旦相違之儀を申立候始末ニ付、逼塞被 仰付候。

一 右同人式部儀、紛失之品々内證ニ而取戻候段ハ、篤と乍相辨親永運任申、同人代ニ罷出一旦相違之儀を申立候始末、不埒ニ付急度御叱被置候。

一 山口村道滿村、田麥野村、山家村、猪野澤村、河原子村百姓共儀、山口村平四郎權次其外之者共、重立申勸、又者大勢押寄不能出ニおひては、家居打潰或者可燒、拂旨申威し、怖敷相成同意致し、河

原子村次郎七宅江礫打、山口村儀左衛門山家村本壽院宅を打毀候始末、都而重立候者共任申候儀とは乍申不届ニ付、右六ヶ村江村高ニ應シ、過料錢百九貫文被 仰付候。

一 右山口村外五ヶ村、名主組頭百姓代共儀、銘々村方小前之者共制候を茂不取用、及徒黨大勢之儀不及力段、無余儀筋ニ候得共、右之次第有体申立候而者、一同可及難儀を押包罷在、殊ニ道滿村之外者、山形町江押寄候徒黨人共、疵請加勢頼候旨認候、無名の廻狀致到來候を、夫々致順達候始末一同不届ニ付、山口、田麥野、山家、猪野、澤河、原子、右五ヶ村名主共は過料錢五貫文ツ、組頭共は同三貫文ツ、被 仰付、百姓代共者急度御叱、道滿村名主は過料錢三貫文被 仰付、組頭百姓代共者一同急度御叱り被置候。

一 蟹澤村百姓利八儀、徒黨ニ加り候儀は無之候共、山口村儀左衛門、山家村本壽院宅を徒黨人共打毀候節、走參り致見物、其ノ上村役人江申聞置候與者乍申得與、糺茂不致當時無宿太郎兵衛を暫差置候始末、不届ニ付急度御叱り被置候。

但利八願之通、太郎兵衛身分引請之義、御聞濟被成下候旨被 仰渡候。

一 右蟹澤村名主組頭共儀、徒黨人共村内江押參候節、米直段引下ヶ可申越、東根村役人共を以掛合、爲引取候次第は無余儀筋ニ候得共、當時無宿太郎兵衛を村内利八方ニ差置候趣乍存得與、糺茂不致其分ニ致置候段不届ニ付、名主は過料錢三貫文被 仰付候、組頭共は急度御叱被置候。

一 後澤村、萬善寺村、原方村、小林新田、東根村、六田村、宮崎村、楯岡村、林崎村、本飯田村、土生田村、五十澤村、臈氣村、尾花澤村、荻袋村、野黒澤村、芦澤村、名木澤村、梅澤村、大浦村、駒籠村、鷹巢村、海谷村、岩

ヶ袋村、深堀村、河前村、次年子村、名主組頭百姓代共儀、山形町江押寄候徒黨人共疵請、加勢頼候旨認候、無名の廻狀到來致候を、夫々致順達、次年村江者程過致來最寄江可繼送、村方も無之候逆留置、何れも其筋江可申立心付も無之、御吟味請候迄は押包罷在候段、一同不届ニ付名主共は過料錢三貫文宛被 仰付、組頭百姓代者急度御叱り被置候。

一 大石田村庄兵衛儀、八聖山參詣致候者之由、其節名前不存無宿第五郎任申得與、糺茂不致村役人江も不申聞、壹人旅人を止宿爲致候段、不届ニ付急度御叱り被置候。

一 荷口村、藤助新田、羽入村百姓共儀、無宿第五郎申合候儀は無之候共、多人數押寄不能出ニおゐては、家居打潰又者可燒拂坏申威し候逆、同意いゝし一同附添、最上川縁迄罷出候始末不届ニ付、右三ヶ村江村高ニ應シ、過料錢三拾五貫文被 仰付候。

一 右荷口村外貳ヶ村名主組頭百姓代共儀、徒黨人共押寄申威、小前之者共致同意、一同最上川縁迄罷出候次第、得與乍相辨有体申立候而は、大勢之者共可難儀哉與推量り、御吟味請候迄押包罷在候始末、一同不届ニ付名主共は過料錢三貫文ツ、被 仰付、組頭百姓代共者急度御叱り被置候。

一 郡山村利八儀、困窮ニ候逆、野田村七十郎外四人、金子可借受與存付、村内七三郎外六人をも申勸、七十郎其外之者共方江度々罷越、金子借用致度段、押而申懸候始末不届ニ付、放之上所拂被 仰付候。

一 同村七三郎、惣十郎、源八、惣兵衛、儀兵衛、長吉儀、村内利八任申、野田村七十郎外四人、押而金子借請候儀ニ致同意、利八ニ附添度々罷越候始末、不届ニ付六人共手鎖被 仰付候。

一 風間村小八儀、兼而人兵右衛門任申、得與糺茂不致村役人江茂不申聞、同人を暫差置候段、不
埒ニ付、過科錢三貫文被 仰付候。

一 沼澤村專助事、醫師壽仙儀、郡中米高直ニ而取續難澁ニ付、及徒黨穀屋共を打毀候者、米直段引
下ケ候様可相成存、其段發足いふし、村内之者共を同意爲致、猶近村之者共をも申勸大勢一同

ニ相成所々押步行、久野本村友吉後澤村尹助宅を打毀候始末、徒黨之頭取ニ相決し、不届至極
ニ付、存命ニ候得者、於其所獄門可被 仰付候所、病死仕候間、其旨可存段被 仰渡候。

一 河原子村百姓彦兵衛養子三六、同善兵衛忰三太、百姓清八儀近村々々之者共、一同及徒黨押歩
行、其上山家村本壽院を打毀、手元ニ有之候刀脇差衣類錢等銘々持歸り、三六清八者村内小原

寺、其外之者共取扱ニ任、右品々内證ニ而差戻し、剩清八者刀一脇持歸り候旨申僞、衣類貳品隠
置候始末一同不届ニ付、入墨之上放可被 仰付處、三人共病死仕候間、其旨可存段被 仰渡候。

一 無宿第五郎、山口村百姓久七、弟平四郎、觀音寺村百姓和四郎、山寺村同佐兵衛、長町村同甚之助、
中里村同又次、沼澤村同八兵衛、三郎右衛門弟熊吉者、御吟味中病死仕候間、其旨可存段被 仰

渡、且右平四郎所持之田畑家屋敷家財とも、關所被 仰付候。

一 落合村國平次事市右衛門、山寺村百姓吉兵衛事藤藏、同多藏事善三郎、風間百姓小八方ニ罷在
候兵右衛門、關山村明家ニ罷在候久助者、先達而欠落仕行衛相知不申候、右之者共所持之田畑

家屋敷家財共、欠所被 仰付候。
一 前書運七清八盜取候品、御取上被置候分、夫々被盜主共江御渡し被遊奉請取候。
一 落合村組頭九郎兵衛、百姓小四郎、其外先達而御吟味ニ付被召出候者共、不埒之筋茂無御坐、一

一同御搦無之候間、今般不罷出者江者、其旨可申通段被 仰渡候。

右被 仰渡之趣、一同承知奉畏候、且過料錢之儀者、三日之内大貫次右衛門様江可相納旨被

仰渡、是又承知奉畏候、若相背候者重科可被 仰付候、仍御請證文差上申所如件。

享和二戌年四月廿七日。

鈴木喜左衛門御代官所

山 寺 村

貳 人

御朱印地光明寺領

切 畑 村

壹 人

鈴木喜左衛門御代官所

石 山 寺 村

貳 人

御朱印地立石寺領

同 村

壹 人

鈴木喜左衛門御代官所

上 東 山 村

下東山村 貳人

高野村 貳人

大森村 貳人

上萩野戸村 貳人

下萩野戸村 貳人

御朱印地光明寺領

中里村 貳人

切畑村 貳人

大岡久之亟御代官所

右光明寺領

風間村 三人

大岡久之亟御代官所

青柳村 貳人

七浦村 貳人

長町村 貳人

十文字村 貳人

大岡久之亟御代官所

上杉彈正大弼御預所

清池村百姓惣代

團藏

名主 貳人

組頭 貳人

百姓代 貳人

右惣代

組頭

六兵衛

高橋村百姓惣代

清助

名主 三人

組頭 六人

百姓代 三人

右惣代

名主

傳五兵衛

上杉彈正大弼御預所

漆山村百姓惣代

百姓

八兵衛

名主 壹人

組頭 五人

百姓代 壹人

右惣代

組頭

長三郎

貫津村百姓惣代

百姓

嘉右工門

名主 貳人

組頭 四人

百姓代 貳人

右惣代

組頭

太右工門

堀田大藏大輔領分

植野村 貳人

大野目村 貳人

山家村 貳人

織田左近將監領分

青柳村 三人

荒谷村 二人

芳賀村 貳人

灰塚村 貳人

千手堂村 貳人

同人領分

土屋但馬守領分

奈良澤村 貳人

落合村 貳人

双月村、貳人、
 澁江村、貳人、
 鈴木喜左衛門御代官所
 土屋但馬守領分、
 原町村、貳人、
 大岡久之丞御代官所
 關根村、貳人、
 行澤村、貳人、
 三河口太忠御代官所
 釋迦堂村、貳人、
 妙見寺村、貳人、
 前田村、貳人、
 堀田大藏大輔領分、
 上寶澤村、貳人、
 下寶澤村、貳人、
 平清水村、貳人、
 小立村、貳人、
 土屋但馬守領分、

本木村、貳人、
 織田左近將監領分、
 天童一日町、三人、
 秋元但馬守領分、
 山形四日町、貳人、
 同所宮町、貳人、
 大岡久之丞御代官所
 沼澤村、貳人、
 關山村、貳人、
 觀音寺村、貳人、
 野川村、貳人、
 澤渡村、壹人、
 鈴木喜左衛門御代官所
 新町新田村、貳人、
 土屋但馬守領分、
 亂川村、貳人、
 鈴木喜左衛門御代官所
 山口村、壹人、

土屋但馬守領分、

河原子村、貳人、

北目村、壹人、

御朱印地若松寺領、

山家村、五人、

鈴木喜左衛門御代官所、

道滿村、貳人、

田麥野村、貳人、

山家村、貳人、

大岡久之亟御代官所、

猪野澤村、貳人、

土屋但馬守領分、

河原子村、貳人、

同人領分、

蟹澤村、貳人、

大岡久之亟御代官所、

後澤村、貳人、

萬善寺村、壹人、

原方村、壹人、

小林新田村、壹人、

東根村、壹人、

六田村、壹人、

鈴木喜左衛門御代官所、

宮崎村、壹人、

楯岡村、壹人、

林崎村、壹人、

本飯田村、壹人、

土生田村、壹人、

五十澤村、壹人、

臈氣村、壹人、

尾花澤村、壹人、

荻袋村、壹人、

野岩澤村、壹人、

芦澤村、壹人、

名木澤村、壹人、

梅澤村、壹人、

大浦村、壹人。
 駒籠村、壹人。
 同人御代官所、
 米津勘兵衛領分、
 鷹巢村、壹人。
 鈴木喜左衛門御代官所、
 海谷村、壹人。
 岩ヶ袋村、壹人。
 深堀村、壹人。
 川前村、壹人。
 次年子村、壹人。
 大石田村、壹人。
 土屋但馬守領分、
 荷口村、貳人。
 鈴木喜左衛門御代官所、
 藤助新田村、貳人。
 織田左近將監領分、
 羽入村、貳人。

同人領分、

郡山村、八人。

御奉行所、

前書榮運萬冥江被仰渡候趣、一同罷出奉承知候、依之奥書印形差上候、以上。

上野執當代、

千妙房。

曹洞宗觸頭、

大中寺役僧代、

融國、

前書之通御請證文奉差上候付、則寫を以御訴奉申上候、尤私共村々過料錢之儀者、村高二應し
 錢六貫文、清池村同六拾五貫文、高橋村六拾七貫文、漆山村同貳拾貳貫文、貫津村其外名主過料
 者前條被、仰渡候通、不殘一同大貫次右衛門様御役所江相納、其段下野守様江御訴申上候得
 者、一統歸村被、仰付候、依之此段御届申上候、以上。

當御預所、

羽州村山郡、

清池村組頭、

六兵衛、

高橋村、

名主

傳五兵衛

漆山村

百姓惣代

八兵衛

組頭

長三郎

貫津村

百姓惣代

嘉右工門

組頭

太右工門

御預所

御役所

同年九月、江俣村博奕田畠並ニ密賣酒等ノ、議定書ヲ調定ス。

〔江俣村文書〕

村儀定之事

一第一火之用心大切ニ可仕事

兼而被 仰渡候三笠附博奕之義、一切仕間鋪候、若心得違ニ而裏家片屋ニ而密々ニ勝負事仕

候ハ、其五人組ハ吟味致、其者召過料出させ、宿致候もの同前急度過料差出可申候、惣而召抱

之ものハ不及申ニ、家主ハ勿論若イもの中子共等迄も、夜分行一切爲致申間敷候事。

一稻取仕舞之義、明六ツ時ハ暮六ツ時限りニ取仕舞可申候、且又夜中ニ決而野合へ出申間敷候、

之かし俄雨洪水ニ而無據罷出申候時は、役方江其段相達シ罷出可申候、無斷罷出其夜ニ稻紛

失等有之ニおわてハ、紛失之稻出シ不申内ハ、其者ニ吟味致させ、其上ニも相知レ不申候ハ、

過料として右稻相辨させ、猶又如何様ニも被 仰渡候事。

一隱酒賣買之義、當村ハ決而壹人も差出シ申間敷候、若心得違ニ而罷出候者有之ニおわてハ、急

度吟味いし過料差出させ可申候、勿論他所ハ參候共、一切賣買爲致申間鋪候事。

一菜大根其外何ニ而も、畑作之物、盜取候者御座候ハ、過料として金壹兩ニ酒百盃、稻盜候者ハ

□□□ニ而相□、其上帳外仕宿同類可爲事。

右ク條之趣急度相守可申候、若相背申もの有之候ハ、如何様之儀ニも被仰聞候共、願ケ間敷

義一切申上間鋪候、爲其惣村連印仕差出申候、爲後日仍而一札如件。

享和二壬戌年九月十三日、

御役方衆中、

江俣村、

惣百姓、

同年十二月、幕府、酒造半石減ノ令ヲ解除シ、之ヲ例年ニ復シ、酒造米高十分ノ一ノ役米ヲ

徴ス。

〔幕府令條〕

當秋諸國出水之砌、酒造半石減之儀申渡候處、最早不及其儀候間、定例之通酒造可致候、元來酒之儀は、造穀高少々ニ候而も、敢而差支無之事ニ候處、人命ニ拘り候米穀を潰候段、畢竟ハ無益之儀ニ付、酒造米高之内、十分一役米可差出候、其向寄々被積置、諸民御手當筋ニ可被當行候、委細之義ハ御勘定奉行江可被談候、右之趣御領私領寺社領共、不洩様可被相觸候、

成十二月十五日、

同三年癸亥六月、幕府令シテ、郡村名假名附簿ヲ徴收ス、

〔寶光院文書〕

出羽國郡村假名附帳、寶光院、

寶光院領、

出羽國村山郡之内、九ヶ村、

阿蘇郷成生庄之内、

御料入會、

漆山村、

山形郷小白庄之内、

七浦村、

御料入會、

御料入會、

長町村、

最上郷金井庄之内、

御料入會、

中野村、

山形郷金井庄之内、

私領入會、

船町村、

私領入會、

私領入會、

裏表村、

御料入會、

陣場村、

御料入會、

樫澤村、

金井庄之内、

上町村、

私領入會、

右書面之通相違無御座候、以上、

羽劔村山郡山形、

享和三亥年六月、寶光院、

御勘定所、

〔立石寺文書〕

出羽國最上郷村山郡假名附帳、

立石寺領

出羽國最上郷村山郡之内、八ヶ村。

成生庄北山郷

御料入會

上山寺村

同

中山寺村

同

下山寺村

同

上萩野塔村

同庄清池郷之内

御料入會

高橋村

同庄立谷川郷之内

私領入會

下荒谷村

金井庄小白川郷之内

同

青柳村

同庄東山郷之内

御料入會

三寶岡村

右書面之通相違無御座候以上

立石寺現住

享和四甲子歲正月

淨林院印
但御印也

御勘定所

〔若松寺文書〕

出羽國村山郡假名附帳

鈴立山、若松寺

鈴立山觀音堂領

出羽國村山郡之内、六ヶ村

同國同郡小畑郷成生庄

私領入會

天童村

同國同郡成生庄

右郷名相分不申候

私領入會

窪野目村

同國同郡天童郷成生庄

御料所入會

矢野目村

同國同郡天童郷成生庄

御料所入會

成生村

同國同郡北目郷成生庄

上杉彈正大弼御預所、貫津村

同國同郡小畑郷成生村

御料所入會、山口村、

右之通相違無御座候、以上、

出羽國村山郡小畑郷成生庄、

立石寺末鈴立山、

享和四年子正月、若松寺、

文化元年甲子八月、矢野目村名主仁右衛門等、將ニ土屋但馬守領北目村、矢野目堰水盜用ノ事ヲ訴ントシ、添翰ヲ代官大岡久之丞ニ請願ス、

〔矢野目村文書〕

乍恐以書附奉願上候御事、

一當村方用水之儀は、古來より立谷川之水相用、山寺宮崎與申所ニ而一圓ノ切、高橋村ヲ初村々江分水を以、御田地相續仕候儀ニ御座候、右山寺堰之内、往古矢野目村之分水壹本立之用水堰ニ而、今以矢野目古堰跡と申候而、荒谷村御林之内、有之候儀ニ御座候、則別紙ニ古堰筋并分水堰等迄致繪圖ニ差上御覽ニ奉入候、中古ノ天童村と馴合、二筋堰一筋ニいさし、夫々このり△原町村頭ニ而、五歩々之水割ニ而、南側之流矢野目せきと唱、北側之流天童堰と唱各引來り候、普請之儀、茂右村々ノ人足差出普請仕候、内矢野目村之普請場は、原町兩側は勿論村方より二里程、茂有之、荒谷村御林畑之内ニ而、高玉村分水之箇口迄、長場所矢野目村ニ而、普請仕候儀ニ御座候、私共村方之儀は、外村々と違、御田地至而流末之村方ニ而御座候間、前々ノ村々之相

定ニ而、天童大庄屋ノ留水札差出申候筈ニ右宛申候、依之一ヶ月ニ二三度宛年毎ニ通水仕、御田地江水引來候處、當月十四日明六ツ時より、同十六日暮六ツ時迄、五ヶ所之堰口江留札建置、番人付置通水仕候、然所其十五日北目村小助と申もの水盜ニ參候間、番人之者共留水之譯色々申聞候得共、一向聞入不申強勢ニて、三番堰之留揚、理不盡ニ押破水散し申候、右私共村方古來ノ之常例ニ而、番水日切を以通水仕、御田地植付申候、右番水日限之内通水相破候得は、相殘り候、反別植付相續可仕様無之、違作之基と歎ケ敷奉存候、依而片時を爭引水致、植付相勵申候、村方ニ御座候處、右鉢理不盡ニ水押破、番人共通歸候程之、狼藉之致方ニ御座候間、村役人同道ニ而、右小助を捕、則北目村名主武右衛門方へ急度相渡、織田左近將監様御領分、天童大庄屋江其段相斷何ヶ之譯ニ而無法仕候や、相糺吳候様申立候所、對矢野目ニ小助不届を申暮候由、大庄屋申事ニ御座候間、等閑ニ差置候而は能事ニ思ひ、以來右鉢之儀有之候得は、矢野目村御田地相續可致様無御座候間、難捨置恐をも不奉願奉御訴訟申上候、依之右狼藉之小助御召出し、御吟味被成下度奉願上候、尙御尋之儀も御座候ハ、乍恐以口上可奉申上候、以上、

矢野目村百姓代、

文化元子年八月、

與右衛門、

組頭、助三郎、

全、九兵衛、

名、主、仁右衛門、

土屋但馬守様、

北目村

御役所

右之通北目村御役所江奉願上度候間、何卒御慈悲を以、御添翰被成下度奉願上候、猶又右一件之儀、天童堰相用候村々ニ而、心得違之もの有之候、前文奉申上候、通往古之堰筋相用申度奉存候、左候へは右村々出入立候儀無御座候間、此段、乍恐御賢慮被成下度、幾重ニ茂奉願上候、以上。

矢野目村百姓代

與右衛門

文化元子年五月

組頭 助三郎

全 九兵衛

名主 仁右衛門

大岡久之亟様

寒河江

御役所

御尋ニ付以口上書奉申上候

享保十五戌年之比者

松平大和守様御領分

當矢野目村は高木村名主大庄屋ニ而中川彌兵衛と申者之組ニ御座候其節天童之大庄屋や後藤與兵衛と申者

相動留水札差出申候

寛保二戌年長瀨村御役所

宮村孫左衛門様御代官所

矢野目村

其節天童六ヶ郷は名主月番持ニ而、其月番相當り候名主方留水札差出申候

明和四戌年

織田左近將監様御領分

矢野目村

此節は天童大庄屋沖忠七先例を以、無滞留水札差出申候

享和元酉年

當御役所

矢野目村

此節は天童大庄屋者相澤儀兵衛と申ものニ後座候而留水札差出申候

右者村方申傳ニ而、慶長年中之比、天童より相談ニ申參候は、天童之儀者町立候所ニ而、一方水ニ而平生用水細及難澁ニ申候間、矢野目堰天童堰一筋ニ致、原町村頭迄一流ニ致、夫より二筋ニ分ケ、原町北側之流を天童堰と定、南側之流を矢野目堰と致、右堰筋ニ五ヶ所小枝堰御座候へ共、矢野目村早魁之節者、天童五ヶ所之留水札差出、少茂手支不爲致通水可致候、勿論互ニ村方急難之節は、一方差留互ニ用申度段及相談ニ候、天童は隣郷殊ニ同領より相談ニ參候へ

は難默止任其意ニ申候、其比ハ數年之間、留水札日限申遣候へは、何日ニテ茂此方之差圖次第ニ札差出申候、其後天童火難彼是之節ハ、矢野目堰差留天童へ一筋ニ疏、急難茂救申候事とも御座候、遠年月經候へは名主茂代替等ニ相成、天童勝手を以留札差出候を、却而世話之様ニ後日限差延へ候様ニ相成、夫故此度共四度之水出入出來仕、何共迷惑千萬ニ奉存候、右出入之度毎村中之寄合、多分之隙入ニ人足を費シ、御上様へ御苦勞奉掛候を恐入、度々内々ニ相濟候様ニと、天童へ村役人共參委咄申候へ共、心得違ニ而歎得心無之、無據願書を以其時々之御役所江願出候、村役人共往返入用造用相懸り、村中困窮基と歎ケ數奉存候、何卒御慈悲之御勘辨被下置、古堰起返被仰付被下道候ハ、御上様之御苦勞も御座有間敷奉存候、勿論他村ニ出入立候障茂相見得不申候間、宜敷御賢慮被下置奉願上候、以上。

矢野目村百姓代、

文化元子年八月、

與右衛門、

組頭、助三郎、

全、九兵衛、

名主、仁右衛門、

大岡久之亟様、

寒河江、

御役所、

同年十一月、代官大岡久之丞轉任、川崎平右衛門代官ニ任ス。

同二年乙丑三月、上山城主山城守松平信愛大坂城ニ卒ス、年二十七、養子信行襲ク。

〔藤井御傳記〕

文化元甲子二月二日、坂城御加番の命を蒙り給ふ、二年乙丑三月二十七日御戎所ニ卒去し給ふ、御齡二十七、松平越後守致康の四子信立を養て嗣子となす。

〔上山町史〕

同二年七月二日、信立遺式を襲き信行と改稱す、從五位下山城守ニ叙任す。

同年同月、藏増村名主忠吉等、最上川破損所修理檢分ヲ、漆山役所ニ請願ス。

〔藏増村文書〕

乍恐書付ヲ以奉御願上候、

一私共村方之儀、田畑重ニ最上川通りニ伏居候場所、多分川欠損地ニ相成、既ニ居村迄欠込候躰ニ御座候處、去々辰年御普請奉御願申上、堀割并水除土手築立、御普請茂首尾能出來仕、川瀬宜敷相成候處、去々成年ハ川瀬至而惡鋪罷成、年々地普請ニ仕候得共、當年之儀去秋中ハ出水猶又當春至り候而ハ、雪代洪水ニ而水除ケ土手三ヶ所押切、川瀬至而惡敷罷成、夥鋪川欠相成、村方一統難儀至極奉存候、依之去々亥年より堀割普請ニ取掛り居り候得共、未普請出來不申候ニ付、當年之義ハ御普請御願申上度奉存候、御慈悲之御勘辨ヲ以御見分被爲遊被下置度、乍恐書付ヲ以奉御願上候、猶御尋之義御座候ハ、口上ニ而可申上候、以上。

名ぬし、忠吉。

文化二年丑三月

全	新右衛門
全	庄兵衛
組	頭多助
全	庄三郎
全	權七
百姓代	喜兵衛
全	三之助
全	角藏

口上

申上候、當年のさかへ川御普請有之候様承り候間、當村ニ而も地普請御願置候は、若もさかへ川御普請相除キ不申赴之奉存候間、如此爲御相談申上候、其御組ニも御承知御座候は、右
下書へ御加筆相成被遣可被下候、以上。

同年十一月、山寺村ト立石寺ト、山林境域諍論ヲ和解ス。

〔山寺村文書〕

差上申濟口證文之事

羽州村山郡山寺村百姓五拾八人惣代、訴訟人鶴吉次助一同奉申上候、同村百姓二十三人惣代
甚右衛門、名主金七、組頭權兵衛、喜右衛門、取立役惣右衛門、相手ニて奉申上候。
御公儀様御林大切ニ相守、下草苧取御田地養御收納出精仕、農業之間山野稼仕り、薪木等最寄

之持運ひ賣拂、御年貢金御上納足合ニ仕、百姓相續仕來候處、田地耕作并山野入會ニテ間々出
入有之、百姓一同難儀ニ相成候間、寶曆年中御料所分寺領分、分ヶ山議定致シ、寺領分山林御料
百姓持山越石之分、先名主長左衛門山守仕御年貢錢相納、舊年無滞相續仕候處、寺領百姓金兵
衛義、立石寺ヶ地方取締役と名目附、遠藤金兵衛と名乗り、同寺代官荷山林右衛門、遠藤金兵衛
御料所百姓甚右衛門、久三郎間々柄故、三人馴合手先いたし新繩入、御年貢錢盛附新畑鹿之畑、
并ニ空地荒地御高入之場所近邊端荒、百姓必至と差詰り難儀爲致候旨、其外品々申立候て、當五
月中石川左近將監様江御訴訟奉申上候、同八月十三日御差日之御裏御尊判奉頂戴、相手方相
附候處、相手方申立候は、立石寺境内と唱來候は、當山慈覺大師開基之砌、神社佛閣を被建置
所境内と唱來候場所は、八盛ヶ越度澤と申所、とうかひ岩見通シ、夫々あふり回と申所江往
古ヶ松杉植置、當今以茂り立罷在候所見通シ、夫々加賀山續き盛岡山根くひれ見通シ、夫々下
平見通シ、右大川迄右七ヶ所之内山林と唱ひ、猶又山野二ノ澤と申場所限り、るんかう田と申
所迄、立石寺領ニ御座候、右ニ付山林立置も唯見通シと立置申候、然ル處寶曆五亥年上山寺
村百姓五十三人願出、右山林之内預り申受け下草苧取、百姓相續助成にも相成候間、御預ヶ可
被下候様惣代として長左衛門、名主徳右衛門懇願出候ニ付、任御意ニ支配長左衛門申ニ付、右
五十三人承知受印帳面貳冊有之候ニ付、同村百姓三拾人余、當寺名主方へ被申付候間、舊例も
有之上山寺村際有之、山村儀も有之候へ、願人如申助情も可相成と、惣代中評議之上預ヶ候
筈ニ相定、右爲惣代、百姓甚右衛門、名主金七罷出候間、願之通被申付被下様依願、去秋當役人共上
山寺村名主立會にて相改、預ヶ山林仕候、今更御料地ニ新繩入候杯と申立候儀、甚々不埒之致

方其外双方より品々申立、石川左近將監様よて數度御吟味之上、論所御見分被仰渡歸國被仰付候處、熟志之百姓仲間よて新繩之儀事起り、御上様御苦勞奉掛儀奉恐入、勿論一件中難用廻り、百姓一同困難之基ニ可相成奉存候、扱人之者共立入三方之者共へ、異見利解差加へ内濟取扱候趣意、左ニ奉申上候。

一上山寺村御料所立石寺領入會ニ有之候處、同村百姓甚右衛門、名主金七願出候、同村之内百姓共江寺領山林之内、爲預被下候様願出候ニ付、百姓助情よも相成趣ニ付、願之通被相預、銘々受印帳面差出役錢相納候、然ル所御料寺領耕地入會にて、畢竟去子山林相預け候、事起り及爭論ニ候間、双方申究メ去子年相預候山林、相返し請印帳面戻し相出候、寶曆年中取極め之外御料所山野、并立石寺境内山林へも不立入様、舊例之通り相守申旨ニ而、訴答憤之儀扱人實請、双方無申分和融内濟仕り、誠ニ御威光之上難有仕合ニ奉存候、然ル上は右一件ニ付、以來双方御預ケ間敷毛頭無御座候、依之訴答并扱印連印仕、濟口證文差上申處仍而如件。

鈴木喜左衛門御代官所

羽州村山郡山寺村

百姓

長左衛門

作助、小四郎、左次兵衛、宇兵衛、忠右衛門、平四郎、彌四郎、忠藏、岩之助、藤右衛門、辰之助、周藏、與作、喜六、倉之助、吉之助、勘三郎、利右衛門、勘太郎、三内、佐助、市兵衛、藤四郎、孫右衛門、助十郎、鶴吉、藤兵衛、長五郎、清太郎、孫

市、彌助、勇助、吉郎兵衛、甚内、久藏、惣太郎、小四郎、喜右衛門、伊助、久右衛門、清吉、三次郎、佐五右衛門、治助、利助、間之助、虎之助、清太郎、幸七、藤助、佐吉、忠次郎、庄三郎、仁兵衛、百姓代與左衛門、組頭孫七、百姓五十八人惣代、

訴訟人、忠左衛門

文化二丑年十一月廿一日

同郡同村

御朱印地

立石寺

代官、荷口林右衛門

地方取調人

金兵衛

立石寺領

同州同郡同村

名主、吉兵衛、組頭、權兵衛、全、喜右衛門、取立人、惣右衛門

右六人惣代、

相手、

惣右衛門、

鈴木喜左衛門御代官所、

同州同郡同村百姓、久三郎、

松之助、伊助、孫八、惣吉、助右衛門、六助、七郎兵衛、重兵衛、彦市、彌平、徳右

衛門、安藏、才三郎、助五郎、金五兵衛、重次郎、與市、重助、

右貳十人惣代兼、

名主金七伴、

金次郎、

百姓代、

甚右衛門、

立石寺配當、

小野吉九代、

鈴木喜左衛門御代官所、

同州同郡同村、

扱人、

清内、

御評定所、

前書之通、丑十一月廿一日御評定所へも奉差上候、濟口證文寫を以て、爲後日爲取替置申候、以

立石寺配當、

扱人、

小野吉九、

下山寺村、

百姓扱人、

清内、

差出申一札之事、

一山論舊例之通相調候仕末、此譯右は其御村入會山野之内、立石寺を被申懸及双論則江戸府御評定所江奉願上御吟味中、爲御仲分下山寺村百姓彌左衛門殿清内殿御兩人衆御立入被成、双方江悉ク利解被下候上、御取扱之趣意は寶曆年中取極置、舊例之通り可相片付旨、種々御取計一圓之一分無御座候ニ付、願下ケ内濟相調候處實正ニ御座候、然ル上ハ其御村方も舊例之通り、山野無御氣遣御稼可被成候、依之右山論之寫相添、一札差出置申處爲後日仍而如件、

上山寺村、

百姓代、

文化二丑年、

與左衛門、

名主代、孫七。

上萩野戸村。

御役元。

同三年丙寅四月、幕府、奥州邊通用錢密鑄ノ事アルヲ聞キ、公私領ニ命シ之ヲ嚴探セシム。

〔將軍家令條〕

奥州筋深山之内ニ而通用錢隱吹致し候者有之趣、相聞不届之至ニ候、右躰所業之もの於有之者、御料は最寄御代官陣屋、私領之分者、公事方御勘定奉行月番江可訴出候、若隱置外ハ相知者、吟味之上急度可申付候。

右之趣御料御代官、私領者領主地頭より可相觸候、尤御代官并領主地頭ニ而、嚴密ニ遂吟味可被申候、外より於相顯者可爲越度候。

四月、

同年某月、寒河江川洪水、沿岸ノ諸村被害多シ、因テ川身ヲ改修シ堤防ヲ起ス。

〔西村山郡史〕

寶曆七年ノ出水ハ、平水ヨリ高キコト三丈餘、古來ヨリ稀ナリト傳フ、別圖(圖略)甲ノ如ク一時、流路ヲ遷シ、該川沿岸數十町ノ土地、流亡セルヲ以テ、官費ヲ以テ修繕ヲ加ヘ、數年ナラスシテ復川セルカ、文化三年ノ洪水ニ際シ、乙ノ個所ニ移川セルヲ以テ、同年復官費ヲ以テ、丙ノ所ニ

新川堀割工事ヲナセリ。

一寒河江川通、御普請所川除石堤、此町間二十六町五十間。

右御普請所ノ儀、石川村高八百四石九斗四升二合、君田町村二百九石八斗九合、楯北村ノ内石川組千六拾壹石八升三合、三ヶ村合二千七十八石二斗九合ノ爲メ、川除往古ヨリ破損ノ節ハ御注進申上、御代官所郡中御人足ヲ以テ、御普請被仰付、御築立被下置來候、郡中助人足ヘハ御賃米一人ニ付米一升七合、御扶持米一人分七合五勺宛被下置、梓仕立材木ノ儀ハ、楯北村御林松木、并ニ近村御林ヨリモ梓仕立方ノ儀ハ、牛梓合掌梓等場所ニヨリ、品々相用申候、一川除守一人此給米貳俵ツ、三ヶ村ヨリ割出申候。

同四年丁卯六月、幕府、陸奥出羽越後沿海諸侯ニ命シ、魯西亞船ニ警備セシム。

〔幕府御令條〕

此度蝦夷地江魯西亞船來着及不法箱館弘前之沖間ニモ、怪敷船相見候由ニ付、領分并御領所浦々之手當入念申付、萬一怪敷船相見候ハ、諸事寛政三年相違候趣、相心得取計可申候、乍然兼而事々間敷用意致候筋ニは無之候様、可被得其意候。

右之趣陸奥出羽越後浦々、領知等有之面々江可被相觸候。

六月、

同年八月、秋元領飯塚村ト、堀田領村木澤畑谷村ト、入會虚空藏山ノ境界ヲ論諍ス。

〔畑谷文書〕

乍恐以書付奉願上候。

一當村入會山野之儀は、畑谷村地元ニ而、正徳年中取極以來より、當村飯塚村畑谷村三ヶ村入會ニ而、是迄自由仕來候所、當七月中右入會山野之内、虚空藏山野火ニ而やけ候ニ付、當村小前之者共燒柴伐とりニ罷越候所、同月廿五日畑谷村名主助右衛門途中ニ罷出、御上へ御下知と申、右山行之小前廿三人馬附柴并持道具迄取落候ニ付、右之者共入會山野之儀は、承知致候へ共、右村名主助右衛門御上様より御下知ニ而、とり落候と申儀故、無據名主助右衛門江相渡參候由、且入會山野之儀右躰ニ被致候ては、村中一同甚々難澁之趣願出候ニ付、右村名主元江りけ合候へは、前々よりは迄いりあい自由仕來候處、此度如何之譯ニ而、御上様へ御下知有之、御取落被成候や之譯掛合候へ共、早速返答無御座候ニ付、再應りけ合候所、八月七日ニ返答遣候ニは、燒柴は堅停止之由、尙又右燒山は入會山ニは無之趣、右ニ付キ實否見届之ため、當村山守并組頭百姓代、右やけ柴伐とり候者召遣候所、當村入會山ニは相違無御座候、左候へは畑谷村ニては、御立林之御威光を以右入會山奪取、畑谷村斗ニ而自由仕度工ニ而、御上様より御下知ニて、御差留杯と謀計申りけ候段、右名主助右衛門役義ニ茂不似合、甚々不法之致方難得其意儀と奉存候、右は正徳五年中御支配様、柏倉村、沼木村、畑谷村右六ヶ村山論有之候節、大庄屋共立會とり暖、双方納得之上内濟仕、已來是迄自由仕來候へは、當村入會山野ニは相違無御座候間、乍恐右村名主助右衛門御召出、御糺被成下度奉願上候、尙御尋も御坐候は、委細口上を以可申上候、以上、

村木澤村百姓代、

- 全 傳右衛門
- 全 彦兵衛
- 全 庄左衛門
- 全 庄吉
- 全 作右衛門
- 全 平右衛門
- 全 組頭 權兵衛
- 全 平次郎
- 全 伊兵衛
- 全 甚兵衛
- 全 佐太郎
- 全 茂兵衛
- 全 善三郎
- 全 彦右衛門

中村五兵衛様、

以書付御答奉申上候、

當七月廿五日村木澤村之者共當村山野峠山江罷越燒木伐採相戻候所於途中道具并燒木差押ひ候一件ニ付右村より御訴訟仕候趣御答可奉申上段被仰付奉畏候當村御立林數ヶ所ニ御座候へは山守共廻見無懈怠相勤罷在候へ共御立林野火相起候事間々有之候此儀は先年より御林といへ共燒木伐取候儀は忽りせニ仕候故手段を以態と火を附候者と相見へ申候因而一村評判之上御立林山野ニ限らず總而燒木伐とり候は停止仕答メ之趣御林方様迄御届申上置候其砌村木澤山一件より引合候筋有之村役共罷越候序手前文之趣申聞以來は燒木伐とり候儀は當村同様停止可致吳由相頼候へは各納得仕罷歸申候然ル所七月中當春やけ候峠江人馬入込燒木は勿論耕作之物迄ふみ荒し或は苧捨不届之振舞甚々不得其意儀畢竟村方ニ相障度趣意ニ而仕候事と相見得一統安心不仕罷在候所當七月廿五日村方不殘道普請ニ罷出居候處右燒木大勢人馬ニ而相運ひ罷通候間是等見通シニ仕候は、此末如何様之儀仕候茂難計因而山守共燒木持道具等相押申候所今月朔日村木澤村名主方より態々書面を以入會山ニ而伐とり候薪何れ之譯を以御上様より之御下知にて相落候や右承度由申遣候尤私其場ニ居會候へ共山守共役義を以仕候事江聊口入可仕筋無之勿論御下知坏と申候儀は決而無之儀ニ御座候文通之返書四五日遅引仕候其存慮有之態と相扣ひ罷在候右御不審ニ被思召上候は、委細口上を以可奉申上候勿論右峠山は入會山ニは決而無御座此譯は村木澤にて茂屹存知居候事ニ御座候子細は四五年前村役三人罷越入會之山境駈と不分因而案内可致吳由頼候ニ付キ當村より山守兩人差出境ふとゞけ案内仕候は近年之儀其共ニ今度不審之筋も御座候は、當村は山元幾重ニも引合其上不相分は御訴訟をも可仕儀ニ

御座候所只一應之文通ニ而御訴狀ニは再應之文通ニ相及又は御下知と申りけ候坏毛頭無之事共を申上甚々不得其意儀ニ御座候此儀は畢竟謀計を以御威光を申受入會ニ無之山をも自由仕度迄之手段と相見得申候へとも當村は山内木萱を賣代仕漸百生相續仕罷在候村ニ御座候へは御田地ニも准し候山野新規ニ爲入會候ては如何て歟相立可申難立之行儀ニ御座候間前文之趣御勘察被下置御糺奉願上候右爲御答如斯申上候尙御尋之儀も御座候は、口上を以可奉申上候以上。

畑谷村百姓惣代、

源兵衛

全、全、

茂兵衛

全、全、

庄七

全、

權六

全、全、

松之助

全、

長百姓、六兵衛

文化三年八月、

全、組頭、長、青、

全、全、文、七、

全、名主、助右衛門、

全、名主、助右衛門、

中村五兵衛殿、

乍恐以書付御答奉申上候、

一山形御領分飯塚村并御領分畑谷村當村三ヶ村ニ而前々より入會自由仕來候山野字虚空藏山去寅春野火ニ而燒候所同七月廿五日小前之者共やけ木伐とり罷歸候所途中江畑谷村名主助右衛門始右村小前之者共大勢罷出當村山稼之者共を強勢ニとり押し名主助右衛門申候ニは右燒候山野之儀は入會ニ無之旨申聞候ニ付當村之者共相答候ニは前々より是迄自由仕來候山野ニ有之候へは指搦有之間敷旨色々りけ合候へ共聞入不申薪は勿論持道具迄大勢ニ而強勢ニ奪とり候間無據相渡罷歸り、

此段御答奉申上候去寅春中野火ニ而燒候山村木澤村より虚空藏山と申立候へ共全虚空藏山ニは無之虚空藏山續峠山ニ而其麓は畑地水帳ニ右之字有之候去七月中右畑江村木澤之者共馬を乗込ふと荒し態と耕作之畑等刈捨燒木伐とり相歸候所當村山守之者共見當やけ木持道具等差押し候事ニ而名主助右衛門少茂相搦ひ不申勿論當村之者共強勢ニ奪

とり候儀ニては決而無御座候、前書ニ申上候は耕作者共刈捨候ニ而右御吟味被下置度段奉願候へ共兩度共御取立無之由村中安心仕かた難在也

右躰之儀ニ而は村中一同難澁之趣願出候ニ付右伐とり候山野爲見届村役人差遣候所入會山野ニ相違無御座候間去寅八月朔日右之趣書面を以名主助右衛門方江再應かけ合候所同月七日返書申越候ニは右やけ候山野之儀は入會ニ無之故取落候所不審之段迷惑之由杯申越候ニ付難捨置同八月中御とり元江願書差出候所内濟爲致度由ニ而是迄御とり被下候へ共内濟出來兼無據奉願上候、

此段御答奉申上候八月一日村木澤村名主彦右衛門善三郎方より入會山野ニて伐とり候薪何れの趣意を以差押し候や之譯承度由書面差越候ニ付前々より不入會所ニ有之趣尤隣郷之儀ニ御座候へは面語之上委細可申述旨及返答候所右一應之文通ニて御割元迄願出候ニ付私共ニ呼出内濟御とり扱被下候へ共右山入會ニ爲致候而は正徳年中之繪圖面ニ論外畑谷村江御座候山無之且亦村木澤ニ而茂不得心ニ而内濟出來かね申候、

右山野入會之儀は正徳年中山形領分之節柏食村門傳村沼木村并畑谷村飯塚村當村六ヶ村ニ而山論有之候所内々ニ而難相濟既ニ御吟味ニ相成候所其節大庄屋共立入取暖を以内濟仕其砌論所山立會見分之上繪圖面を以取極并連印之濟口證文とり替論所村々ニ而濟口證文并繪圖面所持仕罷在候山野之儀を助右衛門如何様之存寄ニ而右躰申掛候哉不得其意奉存候、

此段御答奉申上候正徳年中之繪圖當村ニ而は取用ひ不申事ニ而無御座候へ共村木澤申立通ニ仕候へは右繪圖ニ口合仕不申候虚空藏山見越ニ有之候山は米澤御領分之山ニ

而御當郡之境は虚空藏より去春やけ候峠山迄峰境ニ御座候間、村木澤之者共反而不得其意奉存候。

乍恐地所御見分被成下候得は、急度相分可申と奉存候、此節御收納最中奉願上候儀は奉恐入候へ共、村中一同難澁之趣申出候間、無據奉願上候、尙又飯塚村之儀茂同意ニ而御訴訟可申上由申出候へ共、御他領之儀ニ御座候間爲差扣申候、御召出被下候へは相分候事と奉存候、乍恐右之段々御賢察被成下、右助右衛門御召出御糺之上、繪圖面之通入會之山野共自由仕候様、被仰付被下置度奉願上候。

此段御答奉申上候、前文ニ茂申上候通、虚空藏山より峠山迄、峰外は皆以米澤御領分ニ御座候、繪圖面ニ虚空藏山峰續論外畑谷村と御座候所は、虚空藏より直ニ書下シ、三ヶ村入會と御座候所、虚空藏山之麓峠山境鳥居下迄ニ御座候間、御見分之上論外畑谷村之山、是迄之通被仰付被下置度奉願上候。

村木澤と正徳年中之繪圖村々ニ而所持仕候杯謀計申上候へ共、實は村木澤門傳柏倉三ヶ村江斗相渡し申上候事ニ御座候。
右申上候通相違無御座候、尤當村之儀は御田地ニ茂准候山野ニ而山稼ニて渡世仕候場所らニ御座候間、無故被相口候事ニ而は一村難相立奉存候間、此段御勘察被下置度奉願上候、尙御尋之儀茂御座候は、乍恐口上を以可奉申上候、以上。

畑谷村惣代、

七兵衛

全、全、

茂兵衛

文化四年十二月、

全、全、

庄七

全、

權六

全、全、

松之助

全、

百姓代

全、

六兵衛

全、全、

組頭

全、

長吉

全、

清五郎

全、

名主

全、

助右衛門

柏倉

御役所

同五年戊辰五月、江俣村總百姓、協議書ヲ協定ス。

〔江俣村文書〕

江俣村惣百姓議定

前々仕來之通惣村中相談之上此度相改御田地相續仕御收納無遲滯急度上納可仕候事

一御田地養ニ付惣村中相互ニ睦敷草苜取可申候且又他村の當村地内江利不盡ニ踏入苜草仕候ヲ見當り候ハ、負落可仕候若見逃し仕候ハ、過料金貳歩酒百盃差出シ可申候事

一當村地内ニ而他村分之御田地小作永控仕又ハ當村御田地ニ而も相定之御年貢米急度上納可仕候若早損水損違作等仕候節之其御田地主江御見分ヲ受引米之儀ハ相對之上上納可仕候事

一小作永控之御田地意味合有之候而地主方江被引取手作之上立作等ニ付控作度者有之候共元小作人方意味合相糺其人方江爲作可申候若又其人相糺意味合無之候ハ、控作候共相談之上可致候其義相糺無之扣作候歟又は永讓りに引請候ハ、右地主方江御田地爲相返過料金壹兩酒百盃村中江急度差出し可申候事

一何事ニよらす此上村中一決而相談及儀定ニ候儀ハ及向後違變仕間敷候萬一違變仕候者有之候ハ、過料金壹兩酒百盃差出させ其上惣村中附合いたし申間敷候縱令親類縁者たり共馴合仕候者有之見當り次第ニ無遠慮同様ニ過料爲差出惣村中附合いたし申間鋪候事

右五ヶ條之趣惣百姓小前不殘寄合相談之上儀定連印仕候上は堅ク相心得可申候若心得違ヲ以變心仕候ハ、村中附合いたし申間敷候縱令其人家内中江近年ニ而も出入いたし候ハ、出入いたし候者茂右同様ニ過料爲差出可申候向後之ため村中相談之上儀定連印證文仍如件

文化五戊辰五月 惣村中

連印

同年九月、若松寺僧徒等、一山ノ規約ヲ議定シ、之ヲ立石寺ニ啓申ス。

〔立石寺文書〕

若松寺一山取究議定之事

一天下安全御祈禱無怠慢兩山之出仕古例之通 相勤可申事

一御朱印地之内寺中江住居來り候衆徒妻帶百姓屋敷添地共ニ都而預無年貢住居來候ニ付夫々相當之勤行諸役相勤相續仕來候得者若シ行式不正跡式相續成兼候歟又は絶果候節者屋敷添地共ニ御朱印元江相返し其上立付米之儀者致積米ニ來吁院始妻帶中評議之上身元體成方江預置惣中熟談之上跡式相續人相立候砌相渡可申候且百姓方跡式之儀者來吁院存慮ニ可相任事

一御法度之儀者從前々御觸之通并一山之作法一統堅相守可申若心得違相背候もの有之博奕無宿人等宿致し行式不埒成もの者僧俗之無差別來吁院役人并妻帶年行事取合遂吟味夫々江相届ケ可申候且有縁好身之者たり共相匿申間敷若又無據譯合ニ候ハ、惣中評議之上匿置可申我意ヲ以無評儀相匿候もの有之者是又來吁院役人并妻帶年行事可及評議候事

一境内之樹木者不及申ニ麓之寺中屋敷たりとも目立候樹木者觀音御用木ニ付伐採申間敷候若無據筋ニテ伐採候節者可請評議事

一別當來吁院爲現住者觀音奉尊敬 御朱印を重し堂社修覆專ニ相加如法ニ相續可致事若又山法を猥し心得違よて寺務不正之現住之砌者惣中評議之上異見を加ひ院式相續候様可爲

改若不取用不作法ニ候ハ、惣中より本寺江伺之、御差圖を可申請之事。
一福性院如法堂之内、無住之節之收納米者、來吁院ニ而取立、惣中評議之上致積米、寺役入用違方
之外、身元慥成方江預ケ置、寺相續之基ニ可致候、且御供は現住之方より献備いたし、隔日ニ相
勤候、御堂番現住方ニテ相勤、散物收納之義者無住たり共、當月之分は惣中方ニテ請取置、是又
寺相續之基ニ可致事。

右者從古來議定有之處、猶又今般一山相續爲可致、則議定書本寺江茂御届置、來吁院江も壹通
妻帶中にも一通爲取替置、無違失如法ニ相守可申候、依之承知之連印仍而如件。

文化五年辰九月、

- 玉泉坊空坊ニ付無加印
- 寶泉坊
- 善性坊
- 龍性坊
- 海音坊
- 常光坊
- 東光坊
- 新藏坊
- 常林坊
- 若林坊
- 本壽院

前書之通、惣中熟談之上議定仕候ニ付、御届奉申上候、以上、
辰九月、

- 如法堂
- 福性院
- 別當
- 來吁院
- 善性坊印
- 龍性坊
- 海音坊
- 常光坊
- 東光坊
- 新藏坊
- 常林坊
- 若林坊
- 本壽院
- 如法堂
- 福性院
- 別當
- 來吁院

立石寺

御役所

同六年己巳正月、金勝寺住僧慧元、最上直家ノ四百年忌ヲ修セントシ、諸堂屋根修繕ノ萱ヲ、柏倉以下諸村ニ請求ス。

〔金勝寺文書〕

文化六己巳之正月初六日當寺開基

月潭光公四百遠年忌ニ當リ、諸堂屋根髓候ニ付、柏倉領分山根通萱申請候、願出之様左之通

柏倉、村木澤、古館、谷柏、半郷、山田村、成澤、前明石村、上野、津金澤村。

ノ四千五百束、但壹束三尺繩

覺

二月十七日附送

一萱千拾六束

柏倉村

同十八日附送

一同千百束

村木澤村

同斷

一同百束

古館村

同十九日附送

一同五百束

谷柏村

同斷

一同四百拾六束七分

半郷村

同廿日附送

一同六拾六束六分

山田村

同斷

一同三百束

成澤村

同斷

一同三百束

前明石村

同廿一日附送

一同五百束

上野村

同斷

一同貳百束七分

津金澤村

ノ四千五百束、但壹束三尺繩

右之通、來ル十七日より廿一日迄附送候様、日割を以相觸候間、村々ノ附送候ハ、御改御受取被成下度候、以上

山方

二月十日

役所

下山家村、

金勝寺。

同七年庚午七月、山形城主但馬守秋元永朝卒ス、年七十三、大隆院殿慈寛永朝ト法諡ス

久朝嗣ク。

〔秋元家譜〕

永朝、

岩五郎、玄蕃、攝津守、但馬守、從五位下、從四位下、

實ハ上田能登守義當ノ四男、母ハ松平安藝守重晟家臣、上田備前義行ノ女、元文三年四月十五日
日生ル、寶曆十年二月十四日涼朝ノ養子トナリ、四月二十八日初テ家重公ニ謁ス、七月十八日
從五位下攝津守ニ叙任シ、十三年九月十六日池ノ端ノ邸ニ移ル、明和五年五月十四日封ヲ襲
ヒ、出羽武藏河内三國ノ内ニ於テ、六萬石ヲ領シ山形城ニ住ス、安永元年二月二十九日目黒ヨ
リ出火延焼セシ時、内櫻田ノ守衛ニ在リテ能ク防キシカハ、四月朔日其事ヲ賞セラル、二年六
月二十八日初テ領地ニ行クノ暇ヲ賜フ、三年十二月二十二日奏者番トナリ、八年九月十五日
職務ノ事ニ過アリテ、出仕ヲ止メラレ、十月十四日免ナル、九年十二月十五日但馬守ニ改ム、天
明七年四月日光山ヘ代拜、暇申ヌノ時時服羽織ヲ賜フ、八年七月二十一日務ヲ辭ス、寛政元年
十月二十五日大川浚治ノ手傳ヲ命セラル、二年六月十七日其實行ハレテ時服十領ヲ賜ヒ、家
臣等ニモ物ヲ賜フ、六年四月出羽新山ニ遊獵シ武ヲ練ル、十年十二月十六日從四位下ニ昇ル、

文化三年三月四日芝ヨリ出火、吳服橋邸類焼ス、七年七月九日卒ス、年七十三、法名大隆院殿慈
寛永朝大居士、光嚴寺ニ葬ル。

同十年己酉五月、幕府代官池田仙九郎所管地、矢野目村名主仁右衛門、織田信浮所領、天童
村外六ヶ村總代大庄屋宗兵衛二人、幕府代官山田茂左衛門所管地、同上原町村名主兵藏、土
屋相模守所領、同郡下原町村名主長次郎、同奈良澤村名主利左衛門等ヲ被告トシ、下原町
村松木清水用水ノ事ヲ訴フ、他村名主等間ニ居リ之ヲ調停ス、仁右衛門肯カズ遂ニ之ヲ訴
フ、明年ニ到リ幕府之ヲ諭解ス。

〔矢野目村文書〕

差上申一札之事。

羽州村山郡矢野目村天童村、同郡上原町村下原町村下奈良澤村江掛り、下原町村ハ涌出候
字松木清水之水口江、新規土手築立通水差支候間取拂、先規之通用水ニ差障不申様被爲仰付
被下置度旨、當二月中御奉行所様江出訴仕候處、於御評定所場所熟談被仰渡候ニ付、各様被成
御赴御立會場所御見分、訴狀御讀聞之上、熟談内濟可仕旨御利解被仰聞、則同郡楯西村名主甚右衛
門、新町新田名主半十郎、貝鹽村名主良右衛門、羽入村名主傳兵衛江取扱被仰付候ニ付、承札候
處相手方申立候は、新規築立候土手ニは無之候故、右土手取拂候而は、相手方御田地江水引取
候義、難相成旨申之候間、松木清水之土手、新古申争ひ之義は、貰受、取暖人共取計先規之通、通水
爲致用水ニ差障候義無之様、可取計心得ヲ以取扱處、相手方并訴訟方之内、天童村は右ニ而

得心仕候得共、矢野目村申立候は、取扱人共取計を以、先規之通通水爲致可申趣意不相分、右は何れ新規築立候土手、取拂不申候而は、通水難相成處、其段相認無之候間、右濟口證文面ニ而は、會得相成旨候間申之、相手方ニ而は、取扱人共取計ヲ以、致通水候義は、不苦候得共、新規築立候義ニは無之候間、土手取拂は、決而難相成旨申之、矢野目村は、新規築立候土手ニ付、取拂不申候而は、一向通水難相成場所之處、相手方右躰申立候は、不審之、依之前書濟口之趣ニ而内濟仕候而は、後日出入再發之基ニ可有之與、安心不仕候間、得心相成兼候旨申之候故、熟談相整不申破談ニ相成申候。

一前條之通矢野目村は、納得不致破談相成候處、同訴訟方之内ニ而、天童村熟談内濟仕候ニ付、其心得方御糺御坐候處、右は別紙濟口證文之通り、取扱人共取計、先規之通通水爲致候得は、差障之儀無之候間、取扱人共ニ任置候心得ニ而、熟談内濟仕候儀ニ御坐候。右之通訴訟方之内、天童村與相手方は、熟談内濟仕候得共、矢野目村之義は、納得不仕、被談ニ相成候ニ付、則右之趣連印證文差上申處、依而如件。

文化十四年五月、

池田仙九郎様御代官所

羽州村山郡矢野目村

名主

訴訟方、仁右衛門

織田左近將監様御領分

同州同郡天童村六ヶ村惣代

大庄屋

右同斷、宗兵衛

山田茂左衛門様御代官所

同州同郡上原町村

名主

相手方、兵藏

土屋相模守様御領分

羽州村山郡下原町村

名主

右同斷、長次郎

右同斷

同州同郡奈良澤村

名主

右同斷、利左衛門

織田左近將監様御領分

同州同郡羽入村

名主

取扱人、傳兵衛

土屋相模守様御領分

同州同郡貝鹽村

名主

右同斷、良右衛門

山田茂左衛門様御代官所

同州同郡新町新田

名主

右同斷、半十郎

池田仙九郎様御代官所

同州同郡楯西村

名主

右同斷、甚右衛門

池田仙九郎様御手代

長谷川安藏殿

山田茂左衛門様御手代

大嶋求次郎殿

土屋相模守様御家來

川島藤兵衛殿

織田左近將監様御家來

石丸甚五郎殿

乍恐以書付御訴訟奉申上候

池田仙九郎御代官所

羽州村山郡矢野目村

名主

訴訟人、仁右衛門

山田茂左衛門御代官所

同州同郡上原町村

名主

相手、兵藏

土屋相模守御領分

羽州村山郡下原町村

名主

相手、長次郎

同御領分

同州同郡下奈良澤村

用水出入

相 手、利左衛門

右訴訟人仁右衛門奉申上候、私共村方御田地用水之義は、下原町村地内へ涌出候字松木清水、并同郡山寺村地内字宮崎與申處ニ而、立谷川淺堰上引取候井路筋一同落込、右水ヲ以當村并天童村下原町、山田茂左衛門様御支配所上原町、土屋相模守様御領分下奈良澤村、織田左近將監様御領分上奈良澤、合六ヶ村御田地ヲ相養ひ候ニ付、井路之内矢野目村、水上五ヶ村之耕地江引取候五ヶ所は、枝堰有之、矢野目は其流末ニ付、用水甚難儀之村方ニ御坐候故、旱ニ而水不足ニ相成候節は、古來々五ヶ所之枝堰ヲ、二夜三日之間留切、矢野目村江而已致引水候ニ付、右之趣天童村へ觸出シ、組合村々請印仕來候間、去申六月中早之節、同廿六日、廿八日迄定之通枝堰ヲ留切、如定例之堰元天童村へ留水之致、建札、矢野目村江通水仕候處、松木清水之水口江下原町へ新規杭ヲ打、塊ヲ以理不盡ニ切、依之用水下り不申候間、矢野目村へ人足差出シ、亂杭等淺拂除有來之通通水仕候處、下原町村所々へ、人數大勢罷出相争ひ候ニ付、堰元天童村役人へ、古例之譯柄申聞候共、一同承知不仕、却而右論所へ土俵ヲ以、丈夫ニ新規土手築立候儀ニ而、其後秋ニ至り惡水之節、底筒ニ而少々落水仕候得共、其儘ニ難捨置於、國元ニ御支配御役所、御領主御役場へ之添翰ヲ、土屋相模守様北目御役場江願出候ニ付、御利解中之處、惡水ニ而も通水仕候而は、水縁有之義與御察計を恐候哉、十一月十六日雪中ニ候得共、俄ニ底筒茂相潰大夫ニ相堅メ、一滴茂通水不仕、其上普請之致方甚々難心得奉存候、其譯之土俵ニ而底筒ヲ塞キ、塊ヲ以土手之腹付ニいたし、日を經候ハ、古土手之姿ニ可爲見手段ヲ拵、松木清水を下原

町地内へ之涌水ニ付、進退自由ニ而他之用水ニ可遣謂無之杯與、我意ヲ申張候得共、前書申上候分水天童堰井路筋ニ茂、相手下原町地内へ涌出候字梨木清水與申有之、右村々用水而已ニは無之、天童村外六ヶ村之内、御用地淺養ひ來り候儀ニ而、其外隣村内ニ茂涌水有之候村々、其地元村而已江相用不申、連綿與井路筋江落水仕、自他之無差別、井水懸り村々一躰之用水ニ相成來候類、例も歷然有之候處、右等之儀茂不顧新規之義ヲ相企、水上之村方ニ候逆、強勢我儘ニ募、大切之用水ニ差障爲致、難澁迷惑至極ニ奉存候、尤上原町奈良澤村之儀茂、相手下原町御田地與悉入會有之候而、論所之清水ヲ下原町同様引受候躰故、下原町村江荷擔仕罷在候義ニ御坐候間、再應掛合候處、上奈良澤村之儀は、織田左近將監様御領分ニ而、私共願ニは不相加候得共、名主彌次兵衛義、下原町上原町同様、相拒ニ候存寄は無之旨申之、則書付差出候間、相手取不申、土屋相模守様御領分、下奈良澤村名主利左衛門は、下原町村上原町同様ニ付、一同相手取私共村方并天童村俱ニ出訴仕候處、一旦場所熟談被仰付於場所ニ給々御支配御役人、御領主御役人立會之節、天童村與相手方は熟談ニ罷成候得共、右濟口之趣意ニ而は、流末之當村用水行届不申、忽チ再論ニ茂可相成筋與見込候間、當村は破談仕御訴訟奉申上候、其譯は先規之通水可仕與は有之候得共、右土手取拂之文言無之、左候得は名目而已ニ而、土手取拂不申候而は、通水差支ニ罷成候儀ニ御坐候間、無是非御訴訟奉申上候、御慈悲ヲ以相手方は不及申、天童村之儀も被召出、是迄之始末御吟味之上、當村用水差支ニ相成不申様、被仰付被下置候様奉願上候、猶又委細之儀は、乍恐口上ニ而可奉申上候、以上。

池田仙九郎御代官所

文化十百年八月

羽州村山郡矢野目村

名主

仁右衛門

御奉行所様

御裏書

如斯目安差上候間致返答書來ル九月廿五日評定所罷出可對決若於不參は可爲曲事もの也
西七月廿九日

御用方無加印
全

甲	妻	御判	長	門	全	豊	後	主	購	備	後	御判	肥	前	全	豊	前	全	右	京	全	備	中	全	中	務	全
---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

羽州村山郡上原町村

兵 藏

同州同郡下原町村

長次郎

同州同郡下奈良澤村

利左衛門

右 五人組

組 頭

名 主

拜見證文之事

一貴殿方々我等共相手取用水出入申立

曲淵甲斐守様江被成出訴來ル九月廿五日御差日御尊判頂戴被相附拜見承知奉畏候然ル上
は右御差日方四日以前廿一日朝五ツ時返答書貳通持參差添人一同右 御掛様江着御届ケ
可申上旨被仰渡之趣被成御達是又承知仕候尤 御尊判表裏共墨附穢等決而無之慥ニ拜見
仕候依之一札差出申處仍而如件

羽州村山郡

上原町村名主

當人

兵 藏

五人組

文化十百年八月十九日

喜右衛門

組頭

清次郎

同州同郡

下原町村名主

當人

長次郎

五人組

彌右衛門

組頭

小三郎

同州同郡

奈良澤村名主

當人

利左衛門

五人組

重四郎

組頭

太兵衛

矢野目村

名主

仁右衛門殿

差上申一札之事

池田仙九郎様御代官所

羽州村山郡矢野目村

惣代名主

訴訟方 仁右衛門

右者當村、同郡上原町村外貳ヶ村江相掛候、用水出入地改爲御吟味被成御赴候ニ付、前書名
前之者惣代ニ差出、場所御案内は勿論、御尋之節御受答等爲仕候間、右之者申立之趣ヲ以御吟
味之上、追而如何様被仰渡候共、於私共は聊御願筋無御座候、依之小前一同連印差上申處如件
矢野目村

組頭

金十郎

源七

權兵衛

百姓

文化十一年九月

與右衛門、長助、忠次郎、清吉、金兵衛、小吉、善右衛門、長次郎、惣五郎、長作、平五郎、權七、清兵衛、惣次郎、半助、甚太郎、惣四郎、四兵衛、九兵衛、助三郎、與助、孫市、庄三郎、才兵衛、清四郎、左五右衛門、市兵衛、金六、十兵衛、傳四郎、次右衛門、藤四郎、五郎兵衛、太次兵衛、清藏、榮七、清六、皆連印、立石清太夫殿、恒川、長作殿、

差上申濟口證文之事。

一羽州村山郡矢野目村、同郡上原町村外貳ヶ村相手取訴上候は、矢野目村之儀、相手下原町村地内、涌出候字松木清水、并同郡山寺村地内、字宮崎與申所ニ而、立谷川ヲ堰上引取候井路筋一同落込、右水ヲ以矢野目村、并天童村外四ヶ村合六ヶ村、田地相養ひ候ニ付、井路筋之内、矢野目村、水上五ヶ村之耕地、江引取候、五ヶ所は、枝堰有之、矢野目村は、流末ニ付、用水難儀之村ニ而、早水不足ニ相成候節は、古來、五ヶ所枝堰ヲ二夜三日之間留切、矢野目村計引水いたし、右之趣、天童村ハ觸出し、組合村々請印仕來候間、去申年六月、中旱之節、同月廿六日、廿八日迄、定之通枝堰ヲ留切、堰元天童村ハ留水之致、建札、矢野目村江通水爲致候處、松木清水之水口江下原町村ニ而、新規ニ亂杭を打、塊、以埋不盡ニ付、切候間、用水下り不申、依之、矢野目村ハ人足差出、拂澤通水いたし候處、下原町村ニ而、大勢人數差出、土俵ヲ以新規、土手築立、用水差支ニ相成候段、同郡天童村一同奉出訴候處、場所熟談、濟口之趣ニ而は、流末之矢野目村用水行届不申候間、破談仕、猶又去酉年中、曲淵甲斐守様江奉出訴、御裏判頂戴相附候處、上原町村外貳ヶ村ニ而

は下原町村ハ涌出候水元を、字松木清水與相唱ひ候旨、訴訟方之申立候得共、全ク偽り取拵ニ有之、右水元之場所は、字町尻與唱ひ、既ニ寛文中、下原町村百姓藤九郎所持之居屋敷、四畝廿四歩之内ニ有之、同十三丑年、佐野平兵衛様御支配之節、下原町村之義御檢地ニ成、右屋敷御繩受五畝拾貳歩之下畑成相成、其後當時ニ至り、同村百姓茂吉住居仕候居屋敷ニ而、寛文中御檢地帳も、字町尻與御記し有之、勿論町尻ハ南之方ニ、字松木清水與唱ひ候耕地有之、往古田地切發候節、地高之場所ニ而、茂吉居屋敷ハ涌出候水を、熟談之上、堰上田地相續仕來候儀ニ而、致涌水候井之傍ニ、松木壹本有之、古來、松木清水與字相唱ひ申候、然ル處去申年六月中、用水不足之由ニ而、同月廿六日、廿八日迄、枝堰ヲ留切、用水引下ケ度旨、天童村大庄屋宗兵衛方ハ頼來り候間、留水之義は、仕來之例、茂有之、承知之旨及、挨拶候處、矢野目村之者共如何相心得候哉、同村組頭源七、重立多勢ニ而、罷越、前書茂吉居屋敷、土手長三間、理不盡ニ切落シ、居屋敷圍竹木等、穢取、及亂妨候段、難心得、其上一且、場所熟談被仰付、天童村ハ内濟仕候得共、矢野目村ハ不承知之由ニ而、破談仕、尙又奉出訴候段、難心得申上之、追々御吟味奉受候處、地所之儀、難御決ニ付、爲地改立、石清太夫殿、恒川長作殿、御越場所御見分相濟、御取調中ニ御坐候處、扱人立人双方江、異見差加江、熟談之上、内濟仕候趣意、左ニ申上候。

一 訴答村々ニ而、新古土手築立申争ひ之儀、扱人貰受、以來は、訴訟方ニ者、松木清水、相手方ニては、町尻茂吉居屋敷ハ、涌水與唱ひ候場所、圍土手壹間半、取除中央ニ、土居木ヲ居江、水口等分ニいたし、下原町村松木清水耕地江、五分通、矢野目村山寺用水五分通、双方無甲乙分水いたし候等、其餘早之節、五ヶ所枝堰ハ、切、矢野目村江、二夜三日、水引取候義は、是迄之通、尤其節、天童村ハ

觸來次第前書五分分水堰も二夜三日ノ切通水致シ候筈議定いたし候事
右之通双方無申分熟談内濟仕偏ニ
御威光與難有仕合 奉存候然ル上は右一件ニ付重而御願之筋毛頭無御坐候依之双方并扱
人一同連印濟口證文差上申處如件

池田仙九郎御代官所

羽州村山郡矢野目村

惣代名主

文化十一年戌年九月

訴訟方 仁右衛門 印

元山田茂左衛門御代官所

當時島田帶刀御代官所

同州同郡上原町村

惣代名主

相手方 兵 藏 印

土屋相模守領分

同州同郡下原町村

惣代組頭

相手方 小三郎 印

土屋相模守領分

羽州村山郡下奈良澤村

惣代名主

相手方 利左衛門 印

池田仙九郎御代官所

同州同郡楯西村

名主

取扱人 甚右衛門 印

嶋田帶刀御代官所

同州同郡新町新田

名主

同 半十郎 印

土屋相模守領分

同州同郡具鹽村

名主

同 良右衛門 印

織田左近將監領分

同州同郡羽入村

同 傳兵衛 印

同十二年乙亥二月、堀田領各村、名主立換ニ關スル請狀ヲ具申ス。

〔江股村文書〕

奉差上御請書之事。

一村々名主役相勤兼退役相願申度旨村方へ申出候は、一同相談之上退役相願可申候、尤其節直ニ願書不差出、先ッ年番手代并割元中村五兵衛方へ内意申達、差圖ヲ請願書可差出候跡役之義ハ、村方ニ而勝手ニ取控不申、是又前書同様内意申達、差圖ヲ請取極願書可差出候、但入札之上相願候節は、大小之百姓打寄誰ニ而も、高札之者へ可相願旨取極入札可爲致候、誰高札ニ相成候而茂、入札開封之上ニ而難澁故障等決而申間敷候、萬一心得違ニ而、故障申候而も不取用、高札之者相願可申候、然ル上は入札之節、依估最負ニ而入札不致、隨分名主役可相勤人物を見立入札可致候、左様之義も無之我儘ニ入札いたし候は、縱令高札たりとも容易取上無之候事、一是迄は名主役進退共村方ニ而取極、右兩様願書一所ニ、差出候儀有之候處、以來は前文之通、進退共内意を經候上ニ而、願書別々ニ可差出候。

一村々ニ而萬一名主役相望候者有之、彼是難澁故障等申掛、村方爲枉退役爲致候儀、決而致間敷候、若心得違右躰之儀いたし候者於有之は、高札ニ而茂容易不被仰付、糺之上急度可被仰付候事。

一名主役進退願之節は、割元中村五兵衛致與印、願書爲差出候事故、與印願候節五兵衛方ニ而も精々相糺、若不審我儘之儀、茂有之候は、無遠慮相糺候上始末申達、伺之上與印可致旨左茂無事。

之人物不相當ニ而茂任願、與印いたし不申様申付置候間、其旨兼而村々可相心得候、一組頭百姓代進退之儀は、是迄之通取計可申事。

右之通相心得名主進退願取計可申候、尤右之趣心得違無之様、村中小前之者江不洩様申間、相守候様被仰渡奉長候、依之一同連印御請書奉差上候處、仍而如件。

文化十二乙亥二月、

江俣村、

小前不殘、印

役人不殘、印

右被 仰渡之趣、村々一同承知奉長候ニ付、與印仕候、以上。

割 元、

中村五兵衛、

柏倉、

御役所、

仁孝天皇同十四年丁丑三月、光格天皇、位ヲ皇太子ニ讓ラセ玉フ。

同年九月、半郷村安養寺舊縁ニ因リ、山寺村立石寺領内宿泊ヲ、許可センコトヲ請フ。

〔山寺村遠藤氏文書〕

文化十四丑九月十日、半郷村安養寺申出候ハ、拙寺ノ儀ハ、黒澤ヨリ楯岡切通ヨリ、ゴデント唱ヒ候處ニ相向フ迄ノ内、地代差出候處、近年ハ小食同様ニ相心得、手ノ内少ク相成候故、請負之

者モ望不申誠ニ古代ノ地代無下ニ相成歎ケ敷依之村々御役元ニ頼入壹軒ヨリ貳文宛之割ニ御立替被下度旨申シ其趣意相尋ルニ其昔此山寺慈覺大師開基之砌津能理士ト申御兩師最上川ノ流之内字御殿ト唱候處切敷灘心易通水致依其跡悉ク田畑ニ切開村々出來于今繁昌有之依之地代ト名付作之初穂相納ル古ヘハ壹軒ニ付稻壹束ツト書付有之于今於柏倉御領分ニハ稻ニテ請取候處モ有慈覺大師ヨリ津能理士エ初穂受取被下置ニ付當安養寺ト相見尤モ安養寺儀ハ當山寺ノ内有之立石寺之末寺御當地ヨリ檜下江引越檜下ヨリ半郷ヘ引移リ候ハ元和之頃漸ニ貳百年以來半郷村ニ住居禪宗ト相改能登國惣持寺本末ニテ日本ニ十六ヶ寺ノ内ニ候併於今當立石寺様ハ御本山ト奉敬申之也依之御本山領之儀ハ御初穂ニ不及乍去古ノ因ヲ以一宿被仰付置候様永ク願置承リ町宿申付置也

按津能理士ノ傳記他ニ視ル所ナク恭點開聖ノ事願ル疑フヘシ姑ク存録シテ後證ヲ俟ツ

文政元年戊寅某月堀田氏所領江俣村名主等三ヶ年ヲ期トシ、毎年米五拾俵ヲ救助セラレシコトヲ、柏倉役所ニ請願ス。

〔江股文書〕

乍恐以書付奉願上候。

一御米五拾俵、

右は當村之儀ハ前々困窮村ニ御座候間御百姓相續相成兼候困窮百姓共多分有之候ニ付去ル亥年御救米御手當奉願上候處御慈悲之以御勘辯ヲ御米四拾俵宛亥年去丑年迄三ヶ年御

手當被下置候ニ付御百姓ケ成ニ相續仕一同難有仕合ニ奉存候然ル處近年打續不作ニ而村内立直リ兼困窮彌増候ニ付年々御收納米皆濟之砌は不納仕候百姓共多分有之親類組合之者共江辨納爲致不足之分ハ村役入共取計ヲ以御上納爲仕候得共段々仕後相嵩ミ必至與難溢仕御百姓相續相成兼候者共追々出來歎敷奉存候右ニ付御救ヒ米増石奉願上度段小前百姓共一同達々相願候依之恐多ク奉存候得共格別御慈悲之以御勘辨ヲ當寅年ハ辰年迄三ヶ年前書之通御米五拾俵宛御救ヒ米御手當被下置候様幾重ニも奉願上候右願之通被仰付被下置候ハ廣大之御救ヒ一同難有仕合ニ奉存候以上

江俣村

百姓代 平兵衛

組頭 總四郎

名主 長左衛門

柏倉

御役所

同年十一月、置賜郡高畑領主從五位下左近將監織田信浮卒ス、年六十九、瑞光院德巖峻峰ト法諡ス、十二月二十七日男信美遺領ヲ相續ス。

〔織田系譜〕

信浮

八百松、越前守、左近將監、從五位下、

寶曆元年辛未八月九日生於江戶、實同姓對馬守信榮四男也、明和二年乙酉六月爲信邦之養子、四年丁亥八月二十一日繼家督、從上州甘樂郡小幡移封於羽州置賜郡高島、(中)寬政十二年庚申十二月二十五日有封內村替之幕命、收與州信夫郡羽州村山郡高九千九百二十石余、於同州村山郡內給之、文政元年戊寅十一月五日卒、年六十九、法名瑞光院德巖峻峰。

同二年己卯二月、奈良澤村德正寺卜、同村長龍寺檀下寺拂ノ、相對規約ヲ定メ書付ヲ交換ス、名主等之ヲ證ス。

〔長龍寺文書〕

寺拂相對儀定之事。

一從先年御互ニ寺拂拔差仕置候得共、此度者兩寺共交代ニ付、別而致相改故、儀定を以御互ニ取替仕置、先年之通此方ノ貴寺御旦家ニ、緣付參候者有之候ハ、寺拂願次第早速此方ノ差上可申、貴寺御旦家ノ此方且家江緣付參候者も、願次第早速此方江御遣し可被成下、乍然跡式無之緣付參候者、爲佛果菩提祠堂金爲相付候上、習養子成共不苦、御互ニ向後拔差可仕、右儀定之通少茂違變仕間鋪候、別而同村寺之義ニ候得者、申迄ニは無之候得共、此節爲念相對取替一札如件。

同村、

文政二卯年二月、 德正寺印

奈良澤村、

長龍寺様

前書之通此度御互ニ儀定相對仕候處、聊相違無之候ニ付、私共奥印仕候、以上、

名主、彌藤治印
名主代、金兵衛印

同年閏四月二十七日、夜山形城市火災アリ、延燒一千餘戸ニ及ブ。

〔探訪史料〕

一文政二卯壬四月廿七日夜、山形ニ而出火有之候、七日町足利屋和右衛門火元ニ而、横町、はたこ町、六日町、百姓町、小橋町、四日町、うち町、宮町、やくし町、長源寺町、かしの町、宮町ニ泊り家數千餘燒失仕候、寺院九ヶ寺。

同年七月、幕府令シテ米價ニ準シ、米穀製ノ諸物價ヲ低減セシム。

〔全上〕

近年米直段下直候處、諸色之直段者高直ニ付、諸人及難儀候、酒酢醬油味噌之類、米穀を以造出し候品々ノ勿論之儀、其餘諸色共ニ、米穀を元として賣買道理ニ候處、米之直段ハ下直ニ候得共、諸色之直段ハ追々引上げ不埒之事情、以後米穀之直段ニ準し、可成丈諸色之直段引下ケ可申候、尤直段ハ引下ケ候而も、品柄を劣らせ候ては、無詮事候間、諸事正路ニ賣買可致旨仕入元を始問屋仲買等、夫々商賣方之者共江可被申付候、申付候上にも猶直段不引下候ハ、其筋之

遂僉義急度曲事可申付候、此趣國々所々江も相觸候間諸色仕入直段引下ケ不申、或ハ買占等致候もの有之候ハ、其手寄之商賣人共々可訴出候、若打捨置候ハ、是亦曲事たるへく候、卯七月、

同三年庚辰二月、堀田氏柏倉役所、船町村問屋孫市ニ命シ、同村以下五ヶ村ノ博奕、其他非違ノ事ヲ取締ラシム、

〔阿部氏文書〕

覺

船町村、

問屋、

孫市、

其方事御領分村々之内、船町村、吉野宿村、陣場新田、陣場村、江俣村、五ヶ村、博奕并諸事取締方申付候間、右村役人共江添心いたし、無油斷見廻り可申候、尤見廻り之節は、股引半てんぐんとり着、脇さし帶十手捕繩半棒、取締方提灯致所持可相廻候、不依何事善惡之風聞等承候ハ、得と相糺定廻り之方江早々可相達候、

附取締方退役之後は、本文着用所持之品、決而相用申間敷、此書付役所江可相納候事、

柏倉、

辰二月、

役所甲

同年八月、上萩野戸村、村中規約ヲ定ム、

〔上萩野戸村文書〕

例年之通村中申合せ控書之事、

一何ものよら次遠手并屋敷之畑作惣して菜大根大豆小豆之類、楮漆之實等迄、何よも猥ニ盜取候もの有之ハ、村中遂吟味を勝手次第可行事、

一右之諸品盜取候もの見當不及申、聞およひなから隠置候ものは、村中寄合之上過料として、錢五貫文取之追拂可致事、

附博奕賭之諸勝負御停止ニ候處、猶又猥ニ不相成様、村中寄合申渡候、當人は勿論之義、右之宿等いたし候者より、錢五貫文取之べし、右申出候者は帳札之通り、訴之御褒美申受可爲取之、猶又湯手豆等の宿致候者も、右同前可致事、右宿致候者の兩隣、見ゆるし置候段及聞候ハ、右同斷之過料取之、申出候もの可爲取之事、

一下番相當候者は、其日一日晝夜不限、相勤候様相心得可申候、少しの用相達候共、送越申間敷候事、

附無據譯等有之他出致候ハ、翌日下番相當候者へ相對を以て、送越仕相談之上相勤可申候、尤も村役よりは不申付候、番帳之儀は早朝限り受取渡可致事、

右之品々例年之寄合申渡候へども、猶又猥ニ不相成様、此度村中寄合申渡候上は、前書之趣得與相心得、妻子下々召抱之者迄も、心得違無之様急度可申聞候、依て請印可被致候以上、

辰八月、

當村役人、